

14.2イ-717



1200700318887

農事改良資料第五四

昭和八年三月

茶樹耕種梗概

農林省農務局



始



頁	行	誤	正
一	六	着果モルモノ	着果セルモノ
四三	二	多ク	多ク
六三	一五	トジテ	トシテ
六五	九	病害	病害
六六	五	剪枝ヲ行フ	剪枝ヲ行フ
八五	一五	未成木茶園	未成木茶樹
九六	一四	二條播ハ一尺乃至五寸	二條播ハ一尺乃至一尺五寸
九九	九	平ノ如シ	左ノ如シ
一五六	六	早害	早害
一七四	一	タラシムル	タラシムル
二〇九	二	播種ス	播種ス
二二五	二	固メラレタル	固メラレタル
二三二	四	便ナラシムルニト	便ナラシムルコト
二三三	二	以テ	以テ

緒言

本書ハ日本内地ニ於ケル主要産茶地府縣ニ委囑シテ當該府縣ニ於ケル茶樹栽培法ノ慣行ニ付キ調査報告ヲ求メ之ヲ輯録シタルモノニシテ茶樹ノ栽培ニ關スル指導獎勵並試驗研究上有益ナル資料ト認メラルルヲ以テ茲ニ印刷ニ附シ配付セントスルモノナリ

昭和八年三月

農林省農務局

昭和八年三月

茶樹栽培法ノ調査記載シタルモノナルモ其ノ方法中改善ヲ要スト認めラルル事項ニ付テハ各項ノ末尾ニ調査者ノ意見ヲ附セシメタリ
本輯ニ於テ幼齡茶樹トハ發芽初年ヨリ摘採開始前迄ノ間ノ茶樹ヲ、未成木茶樹トハ摘採開始ノ初年ヨリ其ノ目的トスル仕立方法ニ依ル大體ノ樹型ノ整フ迄ノ間ノ茶樹ヲ謂ヒ成木茶樹トハ其ノ後ノ茶樹ヲ指稱ス

凡 例

一 本輯ハ本省ノ指示セル調査要項ニ基キ主要産茶地府縣ニ於ケル代表的茶樹栽培法ヲ調査記載シタルモノナルモ其ノ方法中改善ヲ要スト認めラルル事項ニ付テハ各項ノ末尾ニ調査者ノ意見ヲ附セシメタリ

- 一 本輯ハ本省ノ指示セル調査要項ニ基キ主要産茶地府縣ニ於ケル代表的茶樹栽培法ヲ調査記載シタルモノナルモ其ノ方法中改善ヲ要スト認めラルル事項ニ付テハ各項ノ末尾ニ調査者ノ意見ヲ附セシメタリ
- 二 本輯ニ於テ幼齡茶樹トハ發芽初年ヨリ摘採開始前迄ノ間ノ茶樹ヲ、未成木茶樹トハ摘採開始ノ初年ヨリ其ノ目的トスル仕立方法ニ依ル大體ノ樹型ノ整フ迄ノ間ノ茶樹ヲ謂ヒ成木茶樹トハ其ノ後ノ茶樹ヲ指稱ス

茶樹耕種梗概目次

目次	一 茨城縣	一頁
	二 埼玉縣	一四
	三 石川縣	三
	四 岐阜縣	三六
	五 靜岡縣	四
	六 三重縣	六七
	七 滋賀縣	八一
	八 京都府	九四
	九 奈良縣	一〇八
	十 岡山縣	一三三
	十一 愛媛縣	一三二
	十二 高知縣	一四三
	十三 福岡縣	一五五

一 茶樹の歴史と産地
二 茶樹の栽培
三 茶樹の採摘
四 茶葉の製法
五 茶葉の品質
六 茶葉の消費
七 茶葉の輸出
八 茶葉の輸入
九 茶葉の貯蔵
十 茶葉の加工
十一 茶葉の包装
十二 茶葉の運送
十三 茶葉の卸売
十四 茶葉の小売
十五 茶葉の消費

目次

十四 佐賀縣.....	一七一
十五 長崎縣.....	一八三
十六 熊本縣.....	一八八
十七 宮崎縣.....	一九七
十八 鹿兒島縣.....	二〇六
八 東京府.....
六 三重縣.....
三 京都府.....
一 大阪府.....

茨城縣

第三章 採種

一 採種ノ時期

十一月上旬乃至十一月中旬

二 採種法及採種後ノ處理

落果セルモノヲ拾ヒ集ムルヲ普通トスルモ枝條ニ着果モルモノヲ採集スル場合モアリ外皮附着ノトキハ陰乾シ剝脫ス

第二 種子ノ貯藏

俵又ハ吠ニ入レ乾燥シ氷結セザル地下ニ埋藏ス

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

主産地猿島郡地方ハ既開墾地素畑ニ播種セル場合ハ發芽後ノ生育數年間不良ナリトテ多クハ雜木林ヲ冬期農閑ヲ利用シ伐木開墾シ之ニ播下ス開墾ハ伐木後畝ヲ以テ荒耕起ヲナシ樹木ノ根部等ヲ除キ牛馬耕又ハ人力ニテ整地ス尙普通畑地ニ播種ノ際ハ耕耘後播下スルモ麥作、菜種作等ノ間ハ播種スルトキハ之等前作物ヲ栽植ノ際稍丁寧ニ耕起破碎ス

備考 既開墾地素畑ニ播種ノ場合數年間成育不良ナルハ屢々目撃スル處ニシテ之ハ表土ニ於ケル肥料、有機物ノ缺乏ニ依ルモノノ如シル場合ニハ整地ノ際特ニ深ク耕起シ肥培ノ懇切ナルヲ要ス

二 播種時ノ基肥
基肥トシテ堆肥、大豆粕、人糞尿等ヲ施用ス此ノ際注意ヲ要スルハ未熟堆肥ヲ作條ニ施ストキハ發芽ヲ著シク阻害セラルルニ依リ未熟ナルモノヲ避ケ完熟堆肥ヲ良ク土壤ト混和シタル後播種スルヲ可トス

三 播種期

秋期十一月頃播種スルモノアレド結霜甚シク霜柱ノタメ浮キ上ル憂アルヲ以テ麥ノ作條内ニ下種ス然ルニ一般ニハ秋期ノ播種ヲ避ケ春三、四月ノ候ニ播種ス

四 播種法

種子ノ豫措 特ニ行ハズ
播種量 一反當三斗乃至六斗
畦幅 六尺乃至七尺
平坦地地方ハ一般高仕立ニシテ畦幅廣ク七尺或ハ九尺ニ達スルモノアリ積雪ノ被害ヲ防グタメナリト稱スルモ茶園經營上下利ノ點多シ尙久慈郡山間地方ハ畑地少キト茶樹仕立低作等ノ關係上畦幅三尺内外ニシテ耕作施肥ニ不便ナリ新植茶園ハ五尺乃至六尺ノ畦幅トナス様勸奨シ漸次改良セラレツ、アリ

播幅 三寸内外
畦ノ方向 畑地ノ區劃ニヨリ種々ナルモ南北畦ニ據ルヲ普通トス

播種ノ方式方法及播種後ノ管理 從來ハ殆ド輪播、點播ニ依リタルモ漸次條播特ニ一條播ニ改メラレタリ然レドモ今後ハ二條播トナスヲ有利トス播種後特別ノ管理ヲ行フモノナシ

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

雜草ノ繁茂ト夏季乾燥防止ノタメ陸稻、大豆、甘藷等ノ間作ヲ行ヒ發芽後ハ除草シ薄キ人糞尿又ハ硫酸アンモニア等ヲ施スモ其ノ量僅少ナリ其ノ後モ時々除草シ秋期間作收獲ヲ了リテ後深耕ヲ行ヒ堆肥、大豆粕、油粕等ヲ根部近クヲ掘リテ施用十二月上、中旬ニ至リ土寄ヲナス輕鬆土ニシテ寒風激シキ地方ニテハ葉ノ稍洩スル程度ニ覆土シ冬期其ノ傷害ノ防除ニ備フ

二 發芽第二年ノ肥培管理

三月上旬ニ至リ覆土ヲ撤キ去リ幼苗ノ枝葉ヲ舊態ニ復セシメ同時ニ耕耘除草ヲ行ヒ大豆粕、人糞尿等ヲ施ス爾後四、五月、六、七月ノ頃除草淺耕ヲナス春期前年ト同様ノ間作々物ヲ栽培シ秋九月乃至十月深耕施肥十一、二月ノ頃ニ至リ土寄ス

三 發芽三年ノ肥培管理

肥培管理ハ略第二年ト同様ナリ
久慈郡地方ニアリテハ寒傷害ヲ受ケタル枝條ヲ三月中下旬剪除ス尙一般ニアリテハ伸長良好ノ茶樹ハ先端ノ新芽ヲ摘採シ其ノ後一尺内外ノ樹高ヲ保テ剪枝シ樹勢ノ均衡ヲ圖ル

第五 仕立法竝剪枝

未成木園

一 仕立法ノ方式及方法

半圓形ヲ目標トスルモ概シテ樹高稍高キ傾キアリ三年目ニ一尺乃至一尺二寸位ノ樹高ニテ剪枝シ爾來年々一番茶摘採後前年剪枝部位ヨリ二三寸高ク刈込ミ二尺乃至二尺五寸ノ樹高ニ達セシム

二 手摘茶園ノ剪枝

一番茶摘採後剪枝ス剪枝ノ部位ハ年々二、三寸位宛樹高ヲ高メテ所定ノ高サニ達セシムル様ナス

三 缺摘茶園ノ剪枝

未成木園ノ缺摘ヲナスモノ殆ドナク稍成木園ニ達セムトスル頃ヨリ缺摘ニ轉化スル向アレドモ多カラズ剪枝ハ一番茶後前年剪枝ノ部位ヨリ稍高ク最初(發芽後五年頃迄)ハ株面ヲ水平ニ剪除シ成園ニ近ヅクニ從ヒ所定ノ高サニテ半圓形トナス

成木園

一 仕立法ノ方式及方法

半圓形ヲ普通トスルモ從來ノ方式ハ稍モスレバ上部圓弧ヲナス盃狀形ニ仕立テ下部ノ冗枝亦ハ密生セル枝ヲ剪除ス之ハ通風ヲ圖リ病虫害ノ發生ヲ防グト稱ス樹高ハ二尺乃至二尺五寸内外ナルモ古キ茶園ニハ三尺位ノモノ多シ樹高高キニ過グルハ十數年前迄ハ殆ド一番茶ノミノ摘採ニ止メタルト宇治風栽培ヲ模シタル形跡アルモ現在二、三番茶ノ摘採

ヲナスニ至リ樹勢ノ維持及管理上漸次二尺乃至二尺五寸内外ニ改善セラル尙樹型ハ寒風害ヲ防ギ收量ノ増加ヲ圖ルタメ摘採面積ヲ多カラシムルニハ裾枝ヲ十分ニ張ラシメ半圓形ニ改良スルヲ要ス尙久慈郡山間部ノ茶園ハ樹高一尺乃至一尺五寸ニシテ低キニ過ギ經營不利ナルヲ以テ二尺内外ノ高サニ達セシムルヲ適當トス

二 手摘茶園ノ剪枝

一番茶摘採後前年剪枝セル邊リニ於テ刈込ヲ行フ普通ニ番茶迄ノ摘採多キガ故ニ枝條徒長シ易キニ依リ静岡地方ニ比シ深刈ノ感アリ

久慈郡山間部ニアリテハ一、二番茶後共ニ剪枝ヲ行ハズ放任ス而シテ冬季寒傷害ニヨリ枝梢枯死スルヲ以テ春三月下旬又ハ四月上旬枯死部ヲ剪除シ樹型ヲ整フ

三 缺摘茶園ノ剪枝

缺摘ハ一部地方ニ行ハル、ニ過ギズ從テ代表的剪枝法ト稱スベキモノナシト雖一番茶摘採後株直シヲ兼ネテ淺ク剪枝シ更ニ秋季十月頃徒長枝剪除ヲ行ヒ株面ノ齊整ヲ期ス然レドモ試驗ノ結果ニ依レバ秋季再整枝ハ其ノ成績良好ナラズ寧ロ春二、三月頃施行スルヲ適當ト認ム

第六 耕耘及除草

未成木園

一 淺 耕

春三月乃至四月ノ頃及五月下旬乃至六月上旬、七月中旬鉞ヲ以テ二、三寸ノ深サニ耕起ス

二元出及元寄

春三、四月ノ淺耕ト同時ニ冬季防寒用ニ土寄セル土壤ヲ搔キ出ス
秋十二月上旬防寒ノタメ根元ニ鉄ヲ以テ土寄ス
近年未成木茶園ハ牛馬耕ニヨリ耕耘ト同時ニ土寄ヲ行フ例モアリ勞力節約上有効ナリ

三深耕

秋十月頃三本鉄又ハ牛馬耕ヲ以テ七、八寸ノ深サニ耕起シ後施肥整地ス

四除草

耕耘ノ都度及春夏ノ候雜草ノ生ズル場合不定期的にニ手又ハ鉄ニヨリ之ヲ除ク

成木園

一淺耕

未成木園ニ同シ

春ノ淺耕時期遅ク五月上旬新芽ノ著ク伸長シテヨリ根元ニ鉄入シ淺耕除草ヲナス習慣アル地方アレドモ新根ノ發生及
吸肥作用ヲ妨害スルコト大ナリ

二元出及元寄

成木園ニテハ株張り十分ナルトキハ元寄ヲ行フ餘地ナク僅ニ裾枝ノ先ニ畦間ノ土壤ヲ寄セ掛クル程度ノモノアリ
元出ハ根元掃除及雜草ノ繁茂ヲ防グ程度ニ搔出シヲ行フ

三深耕

略未成木園ニ同ジ

四除草

未成木園ニ準ズ但裾枝張り間作出來ザル茶園ニアリテハ稍除草ヲ頻繁ニ行フ

第七 肥料及敷草

未成木園

一肥料ノ種類

大豆粕、米糠、堆肥、人糞尿、硫酸アンモニア、過磷酸石灰、油粕

二施肥量 (種類別、施肥期別數量及所含三要素量)

施肥期	種類	數量	所含三要素量		
			窒素	磷酸	加里
秋 基肥 (九、十月頃)	大豆粕	一〇、〇〇〇 _{kg}	六〇〇 _{kg}	一二〇 _{kg}	一八〇 _{kg}
	米糠	一七、〇〇〇 _{kg}	三一五	五七〇	二一〇
	堆肥	五〇、〇〇〇 _{kg}	二五〇	一三〇	三一五
	計	八〇、〇〇〇 _{kg}	一、一六五	八二〇	七〇五

合計	春計 (三、四月頃肥)		夏計 (五、六月頃肥)	
	人糞尿	堆肥	人糞尿	堆肥
1,000,000	1,000,000	500,000	1,000,000	500,000
1,570	1,570	570	570	570
1,300	1,300	1,300	1,300	1,300
270	270	270	270	270
1,245	1,080	1,300	570	270

三 施肥ノ時期及方法

基肥ハ秋九月乃至十一月ノ頃(十月ヲ普通トス)深耕ニヨリ畦間ヲ膨軟ナラシメ其ノ際根元枝下ヲ掘リ五寸位ノ深サニ施シ覆土ス

春肥ハ三月乃至四月ノ頃除草淺耕ト同時ニ根元ニ施用ス此ノ際秋肥ノ一部ヲ施用スル場合モアリ

追肥ハ一番茶後五月下旬乃至六月上旬除草ヲ行ヒテ後下肥ヲ施用スルモ都合ニヨリ硫酸アンモニアヲ反當三貫乃至四貫程度ニ使用スルコトアリ

特ニ晩霜凍害ヲ受ケントキハ其ノ直後人糞尿、硫酸アンモニア等ヲ施シ發芽ヲ促進ス

四 間作綠肥

麥、陸稻、豆類、蔬菜等ノ間作ヲナスト雖特ニ綠肥用間作ヲナス場合少ク僅ニ春刈大豆ノ栽培ヲナスモノアルニ過ギズ

五 數 草

山草、野草、藁、落葉等ヲ敷込ムモノアレド概シテ之ヲ行ハズ
將來ハ間作綠肥ノ栽培ト共ニ敷草ノ施用ヲ増進スベキナリ

未成木園

一 肥料ノ種類

未成木園ノ場合ニ同ジ

二 施肥量

(種類別、施肥期別數量及所含三要素量)

施肥期	種類	數量	所含三要素量			
			窒素	磷酸	硫酸	加里
秋肥	大豆粕	一五、〇〇〇	九〇〇	一八〇	二七〇	
	米糠	一五、〇〇〇	三一五	五七〇	一一〇	
	過磷酸石灰	三、〇〇〇	一	四五〇	一一〇	
	堆肥	一五〇、〇〇〇	二五〇	一三〇	三二五	
春肥	人糞尿	一〇〇、〇〇〇	一、四六五	一、三三〇	七九五	
	硫酸アンモニア	二、〇〇〇	四一〇	一三〇	二七〇	
	合計					
	合計					

合計	追肥(五月下旬 六月上旬)		追肥(七月)	
	人糞	人糞尿	人糞	人糞尿
九八〇	一三〇	二七〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
五七〇	一三〇	二七〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
五七〇	一三〇	二七〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
五七〇	一三〇	二七〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
三、五八五	一、七二〇	一、六〇五	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇

三 施肥ノ時期及方法

未成木園ニ同ジ

四 間作綠肥

綠肥用作物ノ栽培ヲナスモノ少シ
將來ハ之ヲ栽植ヲ勸奨ノ要大ナリ

五 敷草ノ草

未成木園ニ同ジ

第八 摘採

未成木園

一 摘採ノ時期及回数

摘採ハ普通平坦地方ノ一番茶ハ五月十日前後ヨリ月末ニ至ル久慈郡山間部地方ハ五月末ヨリ六月中旬トス而シテ一番茶ノミノ摘採ニ止メルモノ及ニ番茶迄摘採スルモノアリ成木園ニ近ヅケルモノハ三番茶ヲ摘採スニ番茶ハ六月下旬ヨリ七月中旬ニ亘ル

二 手摘

新葉ノ四五枚展開シタル時株ノ上部ノモノヲ摘採シ成木園ニ近ヅクニ從ヒ順次裾張ノ部モ摘採ス
小面積ノ栽培者ハ廻リ摘ヲナスト雖一般ニハ大體ノ適期ヲ選ビ一回ニ摘採ス

三 鋏摘

ナシ

成木園

一 摘採ノ時期及回数

摘採回数ハ二回乃至三回ヲ普通トシ其ノ時期ハ左ノ如シ更ニ秋芽ヲ摘採スルコトアリ
一番茶 五月上旬乃至六月中旬
二番茶 六月下旬乃至七月中旬
三番茶 八月中旬乃至九月上旬
畦畔茶樹ハ更ニ十一月ヨリ翌年二月ニ至ル間古葉ヲ摘採シ番茶製造ヲナス向アルモ樹勢ヲ著シク衰退セシム

新葉ノ四、五枚開キシ頃ヲ見計ヒ摘ミ初ム

霜害等ニヨリ發芽不捕ノ場合ヲ除キテハ廻リ摘ヲナスモノ少シ地方ニヨリ「コキ摘」ヲ行フモノアレドモ改善ヲ要ス

三 摘

摘ハ一部地方ニ限ラレ實行スルモノ少シ

一番茶ヲ手摘トシ其ノ後剪枝ヲ行ヒ株面ヲ齊整シニ番茶期ヨリ摘ヲ行フモノ相當數ニ達ス摘採ハ内田式ヲ使用ス
ニ番茶迄ノ摘採ノ場合ハ秋芽徒長シ一番茶摘採ニ當リ木莖ノ混入多キヲ以テ春三月中、下旬ノ頃再整剪枝ヲ行ヒ株面ノ整齊ヲ圖ル

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

一 病

茶餅病、茶白星病、茶赤葉枯病

石灰ボルト液ノ撒布ニヨリ防除ニ努ムルモノアルモ一般ニハ行ハレズ

二 害

小綠浮塵子、茶蝨、赤壁蝨、葉捲蟲、養蟲等

小綠浮塵子 除虫菊加用石鹼液ヲ朝ノ中ニ撒布シテ驅除ス

赤壁蝨 角又液又ハ石灰硫黄合劑ノ撒布ヲナスモ新茶期ノ使用困難ニシテ防除ニ惱ム

茶蝨、茶葉捲蟲、養蟲 捕殺、燒殺等ノ方法ニ依ル

三 寒 傷 害

幼樹ハ冬季土中ニ埋没シ或ハ藁ニテ覆フ其ノ他ハ寒烈風ノ來ル方面ニ植樹亦ハ風除ケヲ作り防除ニ努ム

四 凍 霜 害

被覆、燻煙、撒水等ノ方法ヲ講ズルト雖効果少シ

第十 樹勢更新法

二三十年生ニシテ樹勢衰退セルモノハ一番茶摘採後臺刈ヲ行フ尙樹高高過ギ樹勢ノ維持摘採ニ不便ナルモノニシテ樹勢強健ノ場合ハ一尺乃至一尺五寸ノ高サニテ中刈更新ヲナス畦畔茶樹ニシテ施肥少キモノハ數年乃至十數年毎ニ臺刈ヲナス尙久慈郡山間部地方ニアリテハ土層淺ク施肥不足ノタメ樹勢衰退早ク五六年目ニ臺刈ヲ行ヒ恢復ヲ圖ルモ施肥ニヨリ樹勢ノ維持ニ努メ頻繁ナル臺刈ヲ避クルヲ適當トス

埼玉縣

第一採種

一 採種ノ時期

十月中旬ヲ以テ最モ適當トナスモ普通十一月頃行ハル

二 採種法及採種後ノ處理

種子ハ晩秋落下前ニ於テ採取スルヲ可トスルモ本縣ノ慣例トシテ落下シタルモノヲ拾集ス而シテ採取シタル種子ハ蔭乾ニヨリ外殼破綻セルモノヲ撰別ス

第二種子ノ貯藏

秋播ノ場合ハ採種撰別後直ニ播下スルモ春播ノ場合ハ採種セル種子ハ翌春播種ニ至ル迄之ヲ貯藏ス貯藏ノ方法ハ撰別セル種子ヲ俵又ハ叭ニ入レテ土中ニ埋藏スルカ或ハ地下ニ穴ヲ掘リ其ノ中ニ種子ト細砂トヲ交互ニ堆積シテ埋藏ス何レノ場合モ雨水又ハ地下水ノ爲過濕ニ陥ラザル様注意スルモノトス

第三茶園ノ開設

一 開墾及整地

開墾ハ晩秋ヨリ冬期ノ間ニ於テ行ヒ土壤ヲ充分寒風ニ曝ラシテ風化セシム其ノ方法ハ先ヅ最初成ルベク深く打チ起シ叢株ハ丁寧ニ振ヒ出ス而シテ整地ノ良否ハ直ニ發芽後ノ生育ニ影響スルモノナレバヨク土塊ヲ粉碎シテ雜草、笹根等ヲ充分除去スルモノトス

二 播種時ノ基肥

播種時ノ基肥トシテハ堆肥、大豆粕、硫酸アンモニア、過磷酸石灰、硫酸加里等ヲ配合施用ス

附記 播種ノ際ニ於ケル基肥ノ施用ハ一般ニ行ハル、モ之ガ施用量ニ付テハ概シテ無關心ナルヲ以テ本所標準ニ基

キ反當窒素、磷酸、加里各一貫五百匁内外ヲ施用セシムル様指導シツ、アリ

三 播種期

本縣ハ冬期寒風強ク且寒冷甚シキヲ以テ春播多ク其ノ時期ハ三月下旬ヨリ四月上旬ニ於テ行ハル

四 播種法

種子ノ豫措 種子ノ豫措ハ從來之ヲ行フモノ少キモ一週間内外ノ浸水ハ相當効果ヲ認メ且之ニヨリ選種モ行ハル、ヲ以テ之ガ實行ヲ奨勵シツ、アリ

播種量 一條播ハ反當四斗乃至六斗、二條播ハ六斗乃至八斗ヲ播種ス

附記 播種量稍過多ノ感アルモ冬期寒害ノ爲枯死スルモノ多キヲ以テ概シテ播種量多キヲ常トス

畦幅 從來ノ茶園ハ七尺乃至九尺ニシテ一般ニ高作りノモノ多キモ最近播種セラル、モノハ五尺乃至六尺ヲ標準トシ

テ行ハル

播幅 一條播ニアリテハ播幅ハ四寸乃至六寸トシ二條播ノ場合ハ播幅四寸乃至五寸條間八寸乃至一尺ヲ普通ト
 畦ノ方向 畦ノ方向ハ地勢其ノ他四圍ノ状態ニヨリ一定セザルモ平坦地ニアリテハ南北畦ヲ普通トス然レ共本縣ハ冬
 期北寄りノ寒風甚シク茶樹ニ及ボス寒害亦大ナルヲ以テ之ヲ防グ爲(全園ニ寒風ヲ受ケザル様)平坦地ニアリテモ故
 ラ東西畦トスル場合アリ

播種ノ方式方法及播種後ノ管理 一條播多キモ最近二條播ヲ行フモノアリ
 播種ニ當リテハ成ルベク町寧ニ耕耘、整地ヲ行ヒ然ル後深サ三、四寸ノ作條ヲ堀リ之ニ基肥(堆肥又ハ配合肥料)ヲ
 施シ平ニ土ヲ被ヒ均等ニ鎮壓シタル上下種シ覆土鎮定ス覆土ノ厚サハ土地ノ乾濕土壤ノ輕重ニヨリ斟酌スベキモ二
 寸内外ヲ普通トス而シテ播種セル作條ニハ種子發芽ニ至ル迄敷草ヲ爲ス更ニ秋播或ハ早春播種セルモノハ寒風ノ爲
 土砂飛散セザル様麥稈等ヲ以テ防風設備ヲ爲スモノトス

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

秋播及春播共五月下旬乃至六月中旬ニ至レバ發芽スルヲ以テ除草ヲ行ヒ稀薄ナル液肥ヲ施シ發育ヲ良好ナラシム以後
 ハ常ニ雜草ノ除去ニ努メ九月頃迄ニ一、二回液肥ヲ施用ス尙早魃及赤壁蝨等ノ爲慘害ヲ蒙ルコトアルヲ以テ特ニ注意
 シテ之等ガ防除ニ努メ又間作トシテ陸稻、蔬菜或ハ綠肥等ヲ栽培ス但間作物ハ勉メテ茶樹ノ生育ヲ阻害セザル種類ヲ
 選ブ晚秋ノ候ニ至レバ土寄ヲ行ヒ防風ノ設備ヲ爲ス又地方ニヨリテハ寒風ノ爲著シク茶樹ノ損傷ヲ來スコトアルヲ以

テ麥稈又ハ藁等ニテ防風設備ヲ行ヒ或ハ茶樹全體ヲ埋メテ寒害ヲ防止ス

二 發芽第二年ノ肥培管理

三月中下旬防寒設備ヲ除去シ施肥ヲ行ヒ發芽期ニ至レバ樹勢及茶葉ノ形質等ニヨリ種類ノ良否ヲ鑑別シテ適當ニ間引
 ヲ行フ夏期中ハ第一年ト同様旱害、雜草、病蟲害等ノ防除ニ努メ時々液肥ヲ施用シ適當ナル間作物ヲ栽培ス而シテ第
 二年目ハ全然摘採スルコトナク専ラ幼樹ノ發育ヲ旺盛ナラシム

三 發芽第三年ノ肥培管理

三月中、下旬施肥ヲ行フ成育良好ナルモノハ當年一番茶(頂芽ノミ)ヲ摘採シ直ニ地上五、六寸ノ高サニ上部ヲ水平
 ニ刈込ム而シテ當年ハ二番茶ノ摘採ハ行ハザルモノトシ秋期ニ至レバ中耕ヲ行ヒ基肥ヲ施用ス

四 發芽第四年ノ肥培管理

前年第一回ノ摘採ヲ行ヒタルモノハ當年ハ一番茶摘採後前年剪枝面ヨリ數寸高メテ刈込ヲ行ヒ二番茶ヲ輕ク摘採ス前
 年摘採ヲ行ハザルモノハ當年一番茶ノ摘採ヲ爲シ直ニ地上七、八寸ノ高サニ刈込ヲ行ヒ其ノ他ノ管理ハ大體第三年目
 ニ準ジ秋期ニ至レバ中耕ヲ行ヒ基肥ヲ施用ス

第五 仕立法並剪枝

一 仕立法ノ方式及方法

總テ畦仕立ニシテ成木茶園ハ一般ニ畦幅廣キ關係上高仕立(樹高三尺以上)ノモノ多キモ最近播種セル未成木園ハ畦
 幅狹ク從テ低仕立(樹高二尺五寸以下)ノモノ多シ

其ノ方法ハ未成木園ハ播種後數年間ハ常ニ徒長ヲ抑制シテ側枝ノ發生ニ努メ六、七年目ニ至リテ樹型ヲ整ヘ摘採面廣キ半圓形(蒲鉾形)トナスモノトス

二 手摘茶園ノ剪枝

未成木茶樹ニアリテハ播種後三年目或ハ四年目ニ至リテ一番茶ヲ摘採シ(頂芽ノミ)直ニ地上五寸乃至七寸ノ高サニ上部ヲ水平ニ剪定ス以後八年々前年剪枝面ヨリ數寸高メテ剪定シ樹型ヲ整フルモノトス
成木茶樹ニ於ケル剪枝ハ半圓形ヲ標準トシ一番茶摘採後直ニ之ヲ行ヒ其ノ方法ハ前年剪枝面ニ殆ド缺ノ達スル程度ニ行フベキモ年々幾分ツ、高刈トナリ樹型漸次増大スルヲ以テ數年目毎ニ稍深ク刈リ込ミ樹型ノ膨大ヲ防グモノトス

三 缺摘茶園ノ剪枝

缺摘茶園ニ於テハ特ニ株面ヲ齊整ナラシムルヲ要シ剪枝ハ最モ緊要ナル作業ナリ
未成木茶樹ニ於ケル剪枝ハ手摘茶園ニ於ケルト大差ナキモ更ニ低目ニ剪定シテ株張ヲ良好ナラシメ摘採缺ノ使用ニ便ナラシム
成木茶樹ニアリテハ春季發芽前三月中、下旬ノ頃ニ行フ其ノ方法ハ徒長芽ヲ剪除シテ摘採面ヲ均整ナラシムルヲ程度トシ過度ノ除去ヲ避クルモノトス故ニ細枝密生シ年々樹型増大スルヲ以テ四、五年目毎ニ一回深刈ヲ行ヒ細枝ヲ更新シテ元ノ樹型ニ復セシメ樹高二尺内外トス
尙本縣ニ於テハ缺摘茶園ハ甚ダ少キモ今後ハ漸次増加スルニ至ルベシ

第六 耕耘及除草

一 淺 耕

春季三月中、下旬及一番茶摘採後除草ヲ兼ネ畦間ヲ淺ク耕起シ踏ミ固メラレタル土壤ヲ膨軟ニシ細根ノ發生ヲ良好ナラシム 尙地方ニヨリテハ淺耕ハ殆ド行ハザルモノアルモ茶樹栽培上之ガ必要ヲ示シ施行セシメツ、アリ

二 元寄及元出

元寄 秋肥施用後十一月下旬ニ至リ畦間ノ土壤ヲ根元ニ兩側ヨリ寄セツケテ茶樹ノ寒傷ミセザル様寒圃ヒヲナスモノトス
元出 三月下旬ノ頃淺耕ノ際元寄シタル根元ノ土壤ヲ畦間ニ搔出スモノトス

三 深 耕

九月中、下旬ノ頃根元ヨリ數寸ヲ距テ、畦間ヲ七、八寸ノ深サニ耕起シ土壤ヲ上下反轉スルト同時ニ舊根ヲ切斷シテ新ニ勢力旺盛ナル細根ノ發生ヲ促スモノトス

附記 一般ニ深耕ノ時期遅ク十一月頃之ヲ行フモノアルモ其ノ時期遅クル、トキハ新根ノ發生不良ニシテ吸肥作用鈍ルノミナラズ寒害ヲ被リ却テ樹勢衰弱スルヲ以テ成ルベク初秋ノ頃行フヲ適當トス

四 除 草

除草ハ常ニ注意シテ之ヲ行ヒ夏期中二、三回表土ヲ薄ク削リテ雜草ヲ除去ス殊ニ未成木園ニアリテハ除草ハ重要ナル作業ニシテ其ノ際茶株ノ中ノモノハ茶樹ヲ損傷セザル様特ニ丁寧ニ掘リ取ルモノトス

第七 肥料及敷草

一 肥料ノ種類

肥料ハ各種ノ配合肥料ヲ以テス基肥トシテハ大豆粕、魚粕、油粕、過磷酸石灰、硫酸加里等ヲ配合シタルモノ及堆肥等ヲ用ヒ追肥トシテハ人糞尿、硫酸アンモニア、アンモホス及過磷酸石灰、硫酸加里等ヲ施用ス尙人糞尿ハ時期ヲ定メズ絶エズ施用スルモノアリ

二 施肥量

未成木茶樹標準

其ノ一

種別	肥料名	反當施用量	所含三要素		
			窒素	磷酸	加里
秋肥	大豆粕	一二、〇〇〇 _g	八六四 _g	一六八 _g	二四〇 _g
	米糠	一五、〇〇〇	三〇〇	五七〇	二一〇
	過磷酸石灰	三、〇〇〇		五八五	
	硫酸加里	一、八〇〇			八六四
	小計		一一、一六四	一、三二三	一、三三四

其ノ二

種別	肥料名	反當施用量	所含三要素			
			窒素	磷酸	加里	
春肥	鱈粕	八、〇〇〇	七五〇	三二〇	四〇	
	硫酸アンモニア	三、〇〇〇	六〇〇			
	過磷酸石灰	四、五〇〇		八七八		
	硫酸加里	二、四〇〇			一、二〇〇	
	小計		一、三五〇	一、一九八	一、二四〇	
追肥	人糞尿	三〇〇、〇〇〇	一、五〇〇	三九〇	八一〇	
	合計		三、九五四	二、九一一	三、三六四	
	秋肥	大豆粕	一五、〇〇〇 _g	一、〇八〇 _g	二一〇 _g	三〇〇 _g
		鱈粕	七、〇〇〇	六五八	二八〇	三五
		過磷酸石灰	六、〇〇〇		一、一七〇	
硫酸加里		三、〇〇〇			一、四四〇	
小計			一、七三八	一、六六〇	一、七七五	
菜種油粕	大豆粕	八、〇〇〇	五七六	一一二	一六〇	
	合計		四〇〇	一七六	九六	

秋肥	種別	肥料名	反當施用量	所含三要素量		
				窒素	磷酸	加里
硫酸アンモニア	鯉粕	三、〇〇〇	二八二	一一〇	一五	
過磷酸石灰		四、〇〇〇	八〇〇	七八〇		
合計						

追肥		春肥	
合計	小計	合計	小計
硫酸アンモニア	大豆粕	八、〇〇〇	六、〇〇〇
過磷酸石灰	菜種油粕	二、四〇〇	五、四〇〇
硫酸加里	硫酸アンモニア	二、四〇〇	六、〇〇〇
合計			

追肥		春肥	
合計	小計	合計	小計
硫酸アンモニア	大豆粕	二、〇三二	一、六〇〇
過磷酸石灰	菜種油粕	六、六一〇	一、二〇〇
硫酸加里	硫酸アンモニア	二、九九六	八四
合計			

秋肥	種別	肥料名	反當施用量	所含三要素量		
				窒素	磷酸	加里
硫酸アンモニア	鯉粕	二、六〇〇	五二〇	一〇五三	一、二四八	
過磷酸石灰		五、四〇〇				
合計						

追肥		春肥	
合計	小計	合計	小計
硫酸アンモニア	大豆粕	四、〇〇〇	三、五〇〇
過磷酸石灰	菜種油粕	二、七〇〇	七、〇〇〇
硫酸加里	硫酸アンモニア	二、六〇〇	二、〇〇〇
合計			

追肥		春肥	
合計	小計	合計	小計
硫酸アンモニア	大豆粕	七、六〇〇	四、〇〇〇
過磷酸石灰	菜種油粕	四、二七四	一、七七六
硫酸加里	硫酸アンモニア	三、一八八	七〇
合計			

秋肥	種別	追肥					春肥					其ノ三							
		合計	小計	硫酸加里	アンモニア	硫酸アンモニア	小計	硫酸加里	アンモニア	硫酸アンモニア	糞		小計	硫酸加里					
米	入糞																		
糠	尿	5,000	8,000	5,000	1,000	4,000	1,000	8,000	2,900	2,100	1,000	1,000	4,000	2,100	1,000	2,100	1,000	2,100	7,000
反當施用量																			
室																			
素																			
磷																			
酸																			
加量																			
里																			

三 施肥ノ時期及方法

摘採開始ニ至ラザル幼齡茶樹ニアリテハ春季ヨリ秋季ニ至ル期間ハ絶エズ施肥ヲナスモ摘採開始後ノ茶園所謂未成木茶樹及成木茶樹ニ對シテハ次ノ方法ニ依リ施行スルモノトス

秋肥 秋肥ハ摘採ニ依リ衰弱セル樹勢ヲ恢復シ充實セル秋芽ヲ養成シテ寒冷ニ堪エシメ翌春一番茶ノ發育ニ備フベク

九月中旬ヨリ十月上旬頃迄ニ深耕ト同時ニ根元ノ兩側ニ稍深ク溝ヲ堀リテ施用スルモノトス

春肥 春肥ハ一番茶芽ノ發育ヲ良好ナラシメ且摘採後ノ樹勢ヲ速ニ恢復シテ二番茶ノ發育ニ備フル爲ニ施用スベク三

月中、下旬ヨリ四月上旬迄ニ行フベキモノトス

追肥 二番茶ノ發育ヲ促進スル爲一番茶摘採後直ニ速効性肥料ヲ施用ス尙三番茶ヲ摘採スル場合ニハ更ニ二番茶後ニ

追肥ヲ施用スルモノトス

附記 秋肥ノ施用ハ本縣當業者間ニハ往々晩秋或ハ冬期ニ施用スルモノアリ斯ル場合ハ著シク肥効ヲ減ズルノミナラズ却テ寒冷ノ爲根腐ヲ損傷スルニ至ルヲ以テ必ず其ノ時期ヲ失セザル様注意スベキモノトス又從來ノ施肥法一般ニ秋肥ニノミ偏重シ春肥追肥等ハ之ヲ閑却スルモノ多ク甚シキハ秋肥ニ全量ヲ施シ他ハ全然施用セザルモノア

追肥	種類	反當施用量	所含三要素	加量	
合計	糞	8,000	4,000	2,100	5,820
小計	尿	8,000	1,000	2,100	5,820
人糞	尿	8,000	1,000	2,100	5,820
小計	尿	8,000	1,000	2,100	5,820
葉灰	尿	20,000	3,000	2,100	8,000

ルモ斯ノ如キハ不經濟ナル施肥法ニシテ貴重ナル成分ヲ徒費スルノミナラズ發芽期ニ充分肥効ヲ現ハス能ハザルモノナリ 故ニ肥料ハ必ズ之ヲ適當ニ分施セシムルモノトス

四 間作綠肥

茶園ノ畦間ニハ適當ナル綠肥ヲ栽培シテ早魃ヲ防グト共ニ有機質ヲ補給シテ土性ヲ改良シ肥料養分ヲ補給シテ金肥ノ節約ヲ圖リ且雜草ノ繁茂ヲ防グモノトス特ニ新植茶園ニシテ畦間ノ廣キ場合ハ必ズ之ヲ栽培ヲ必要トス 本縣ニ於テ栽培セラル、モノハ青刈大豆、ザードウキツケン、ルービン等ニシテ何レモ春播ヲ良トス

附記 本縣ニ於ケル間作綠肥ノ栽培ハ一般ニ普及シ居ラザルモ前記青刈大豆、ルービン、ザードウキツケン等ノ如キハ成績良好ニシテ有望ナルヲ以テ之ヲ栽培ヲ奨勵シツ、アリ

五 敷草

茶園ニ敷草ヲ行フノ有効ナルハ疑ハザル所ニシテ之ニ依リ早魃ヲ防ギ土性ヲ改善シ有機質ヲ増シ金肥ノ節約ヲ圖ル等種々ノ効果アルモノニシテ夏季原野ノ生草ヲ刈リテ之ヲ敷入レ或ハ冬期山林ノ落葉ヲ掻キ集メテ茶園ニ敷込ム等ナ

第八 摘採

一 摘採ノ時期及回数

摘採ノ時期ハ土地ノ狀態氣候ノ關係等ニ依リ一定セザルモ大體一番茶ハ五月中旬ヨリ六月上旬ニ二番茶ハ七月上旬ニ

行フモノトス摘採期遅ル、時ハ茶葉硬化シテ木莖ノ混入多ク製茶ノ品質ヲ低下シ或ハ樹勢ノ衰頹ヲ來ス等ノ不利ヲ招クヲ以テ摘採期遅レザル様注意スベキモノトス

摘採回数ハ普通二回ナルモ缺摘茶園ニアリテハ摘採面ヲ整フル目的ヲ以テ三回行フモノアリ要スルニ氣候及製造方針等ヲ考慮シテ茶樹ノ衰弱ヲ來サザル程度トス

二 一手摘

本縣ニ於ケル大部分ハ手摘ニシテ普通一人一日ノ摘採量ハ三、四貫乃至六、七貫ニシテ貫摘ノ習慣上搔摘、行ハル

三 缺摘

現在缺摘ヲ行フモノハ未ダ少キモ最近新植茶園ノ増加ト共ニ之ヲ實施ハ漸次増加ノ傾向ニアリ而シテ缺摘ニ於ケル一人一日ノ摘採量ハ二十貫乃至四十貫ナリ

附記 從來ノ手摘茶園ヲ直ニ缺摘トスルトキハ木莖古葉ノ混入多ク製茶ノ品質ヲ失墜スルヲ以テ先ヅ其ノ仕立法ヲ改善シテ摘採面ヲ齊整ナラシメ然ル後缺摘ヲ行フベキモノトス尙最近播種セラル、モノハ總テ摘採缺ノ使用ニ適スル様仕立ヲ行ハシム

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

一 病蟲害ノ防除

縣下茶業者ノ茶樹病蟲害ニ對スル觀念ハ極テ貧弱ニシテ爲ニ之ガ被害ノ如キ全ク意ニ介セズ偶激甚ナル災害ヲ受クルニ至レバ不可抗力ト諦メテ願ミラレザリシガ最近一部當業者間ニ茶樹栽培上病蟲害防除ノ重要ナルヲ痛感セルアリテ

之方勵行ヲ見ルニ至レリ以下本縣ニ於ケル主要病蟲害防除ノ大要ヲ記スモノトス
赤壁蝨 赤壁蝨ノ加害ハ四月中旬ヨリ十月初旬ニ亙リ概シテ五、七、八月ハ被害最モ甚シ殊ニ新植二、三年ノ幼齡茶園ニ於ケル本蟲ノ被害ハ實ニ激甚ニシテ此ノ時期ニ於ケル防除勵行ノ如何ハ新植茶園ノ成否ノ分岐ニ甚大ノ關係ヲ及ボスモノナリ

防除法

1 幼齡茶樹(摘採開始前迄)

發生加害ノ初期ニ於テ石灰硫黃合劑(ボーマー比重三十三度標準)ノ八十倍乃至百倍液ヲ撒布ス

2 普通茶園

イ 春期發芽前(四月上旬頃)石灰硫黃合劑(ボーマー比重三十三度)四十倍乃至五十倍液及二番茶終了後ハ同液ノ八十倍乃至百倍液ヲ撒布ス

ロ 製茶期(五月乃至七月)此ノ期間中ニ於テハ前記石灰硫黃合劑ハ摘採二十五日乃至三十日前ニ撒布セシモノニアラザレバ製茶ニ惡臭ヲ與フルヲ以テ同液ノ使用ハ不可能ナリ故ニ此ノ期間中ニ於ケル發生加害ニ對シテハ次ノ藥劑ノ撒布ヲナサシム此ノ場合ト雖摘採前十日ノ期間ヲ置クヲ安全ナリトス

液狀ネオトン二百倍乃至三百倍液及糊狀ネオトン一封度八斗乃至一石溶液ヲ撒布セシム(各溶液一斗ニ對シ農用石鹼二十四匁加用)

ハ 本蟲ノ防除ニ於ケル標準反當撒布量ハ二石五斗トス

茶葉捲蝨(茶大葉捲、茶青葉捲) 發生甚ダ不規則ニシテ常時各形態蝨ヲ目撃ス而シテ幼蟲ハ何レモ捲葉中ニ棲息スル

爲各種藥劑ノ效果少シ故ニ幼蟲發生ノ初期ニ於テ「フロライド」溶液ヲ撒布シテ毒殺セシム

「フロライド」溶液ハ水一斗ニ對シ「フロライド」三十五匁乃至四十匁「カゼイン石灰」五、六匁ヲ加用調製ス

茶蝨類 幼蟲ハ葉間ニ群棲シ且蟲體ハ軟毛ヲ密生シ藥液附着惡シク爲ニ之ガ效果充分ナラザルコト多シ本蟲ノ防除ニ當リテハ強力ナル噴霧ヲ潤澤ニ能ク灌注シテ蟲體ヲ浸潤セシムルヲ肝要ナリトス次ノ藥劑ヲ推奨ス

イ 除虫菊石鹼合劑 除虫菊粉二十匁、農用石鹼二十匁、水一斗

ロ 硫酸ニコチン五百倍液 溶液一斗ニ對シ農用石鹼二十匁加用

ハ 液狀ネオトン三百倍乃至四百倍液 溶液一斗ニ對シ農用石鹼二十四匁加用

ニ デリス石鹼液 水一斗ニ對シデリス石鹼十七匁加用

天牛(鐵砲蟲)

イ 孵化セル幼蟲ハ九月中、下旬ヨリ新梢ノ上部ニ蠶入加害シ新梢ヲ萎凋枯死セシメ漸次下方ニ蠶入シ翌年ノ五、六月頃ニ至レバ幹及根幹ノ内部ヲ喰害シテ墜道ヲ作り全株ヲ枯死セシムルニ至ル故ニ本蟲ノ防除ハ加害ノ初期ニ於ケル被害枝ノ摘採ヲ以テ最モ有效トナスモ大體ニ於テ十月ヨリ翌春三月迄ノ間ニ摘採スルヲ可トス

ロ 五月及六月ニ至リ天牛漸ク下降シ大ナル枝幹及根部ニ蠶入スルニ至レバ青酸加里ノ微量ヲ孔中ニ投入密閉シ斃死セシムルコト

介殼蟲類(茶丸介殼蟲、薄丸介殼蟲、茶黒星介殼蟲、其ノ他)

イ 冬期石灰硫黃合劑(ボーマー比重五度)ヲ撒布セシム

ロ 夏期六、七月ノ候幼蟲孵化直後硫酸ニコチンノ四、五百倍液ヲ撒布セシム

茶餅病

イ 本病ハ蔭地ノ茶園ニ發病特ニ多シ年々發病ヲ見ル地方ハ四月上旬、六月上、中旬及八月下旬乃至九月上旬ノ三回ニ三斗式石灰ボルドー液ヲ撒布スルコト

ロ 發病特ニ多キ時ハ被害葉ヲ摘採燒棄シ後ニ三斗式石灰ボルドー液ヲ撒布スルコト

茶赤葉枯病

イ 被害多キトキハ被害葉及新梢ハ燒棄スルコト

ロ 第一回ハ四月上旬、第二回ハ六月上、中旬、第三回ハ九月中、下旬ニ三斗式石灰ボルドー液ヲ撒布ス

二 其ノ他災害ノ除防

病蟲害以外ノ災害トシテハ冬期ノ寒害ト晩霜ノ害アリ寒害ノ除防法ハ幼齡樹ニ對シテハ土圍ヒ或ハ麥稈、藁等ヲ以テ防風設備ヲ爲シ普通成木茶園ニアリテハ深耕及秋肥ノ時期等ニ注意シテ寒害ニ堪エ得ル充實セル秋芽ヲ養成シ春季ニ至ラバ必ズ施肥ヲ行ヒテ樹勢ノ恢復ニ努ムベキモノトス

霜害ニ對シテハ特別ナル除防法ヲ行フモノナキモ一部當業者間ニハ覆蓋法ヲ行フモノアリ又被害ヲ受ケタル茶園ハ速ニ速効肥料ヲ施シテ再生芽ノ發芽ヲ促スモノトス

第十 樹勢更新法

老衰セル茶樹ノ勢力ヲ復活セシムル爲臺刈又ハ中刈ヲ行フ

臺刈ハ地上約一、二寸ノ所ヨリ銳利ナル刃物ヲ以テ切斷シ中刈ハ地上一尺内外ノ部ヨリ剪枝ス何レモ一番茶摘採後直

石川縣

第一 採種

一 採種ノ時期

十一月中旬ヨリ十二月初迄トス

二 採種法

種子ハ成熟セルモノヲ成ルベク落下前ニ之ヲ採收ス

第二 種子ノ貯藏

播種後ハ鼠害ヲ蒙ラザル様ニ注意シ且成ルベク風雨ニ當ラザル場所ニ米俵等ニ入レテ貯藏ス

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

播種セントスル畑ハ三月中旬ニ全面ヲヨク耕起細碎シ播付ケ場所ハ殊ニ丁寧ニ細碎ス

二 播種時ノ基肥

堆肥及油粕等ヲ敷込ミ其ノ上ニ二、三寸覆土ス

三 播種期

春播ト秋播トノ二種アレドモ秋播ハ寒害、鳥害、鼠害等ヲ被ルコト多キガ故ニ春播ヲナスヲ普通トシ概ネ四月初旬迄ニ播種ス

四 播種法

種子ノ豫措 特ニ豫措ヲ行ハズ

播種量 播種ノ方式ニ依リテ數量ヲ異ニスレドモ條播ナラバ反當八斗輪播ナラバ七斗位ヲ適量トス

畦幅 條播ハ四尺乃至四尺五寸株播ハ五尺ヲ適當トス

播幅 條播ハ三寸乃至五寸株播ハ二尺五寸乃至三尺トス

畦ノ方向 南北畦ヲ普通トスレドモ傾斜地ハ成ルベク同高線ニ沿フテ畦ヲ作り播種ス

播種ノ方式方法及播種後ノ管理 株播ト條播ト二法アリ條播ニハ一條播ト二條播トアリ種子ヲ播クニハ先ヅ穴ヲ穿テ

下底ニ堆肥又ハ塵芥ヲ埋メ或ハ下肥ヲ施シ土ヲ覆ヒ後種子ヲ下シ更ニ一寸五分位ノ土ヲ覆フ

播種後ハ除草旱害等ニ充分注意ヲナス

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

三月中旬迄ニ間引ヲ行ヒ三月下旬畑ノ全面ヲ輕ク打起シ芽出肥ヲ施シ四月下旬ヨリ除草ニ努メ十月初旬ニ基肥ヲ施シ十一月中ニ根元ヘ土寄ヲナシ寒氣ノ保護ニ心掛ク

二 發芽第二年ノ肥培管理

第一年ニ同ジ

三 發芽第三年ノ肥培管理

三月中旬迄ニ全面ノ茶園ヲ淺耕シ芽出肥ヲ施シ一番茶ニハ頂部ノミヲ摘採シ直ニ地上ヨリ七、八寸位ノ高サニ上部ヲ水平ニ剪枝シ二番茶ニ強勢ナル發芽ヲ促シ樹形ヲ整フ

第五 仕立法並剪枝

一 仕立法ノ方式及方法

條播仕立ト株播仕立トノ二種アリ條播仕立ニハ其ノ形狀半圓筒形ト角形トノ二種アリ株播仕立ニハ丸形ノミニ限ラル

二 手摘茶園ノ剪枝

一番茶摘採直後ニ之ヲ行フ其ノ方法ハ土地肥沃ニシテ樹勢強キモノハ深ク刈込ミ土地瘠薄ニシテ樹勢弱キモノハ概シテ淺ク刈込ヲナスシテ五年目毎ニ稍深刈ヲナシ樹形ノ徒ラニ増大スルヲ防ギ樹高ヲ三尺内外ニ保タシム

三、缺摘茶園ノ剪枝

缺摘茶園ハ株面ヲ平均ニ整理セザレバ木莖古葉等ノ混入ヲ招クニヨリ一番茶若ハ二番茶摘採直後及晩秋茶芽ノ伸育ヲ止メタル後即チ十一月下旬二度剪定スベキナリ

第六 耕耘及除草

一 淺 耕

春季發芽前ニ行フ

二 元出及元寄

元出ハ淺耕ト同時ニ行ヒ元寄ハ基肥ヲ施用ノ際之ヲ行フ

三 深 耕

二番茶摘採後七、八寸位ノ深サニ耕起シ土性ヲ改善シ古キ枝根ヲ切斷シテ鬚根ノ發生ヲ促シ樹勢ノ恢復ニ努ム

四 除 草

播種後二、三年ハ除草ヲ必要トスルモ成木茶園ニアリテハ敷草ヲ施ス關係上除草ノ必要ヲ認メズ

第七 肥料及敷草

一 肥料ノ種類

人糞尿、油粕、鯀搾粕、大豆粕、硫酸アンモニア、堆肥、青草等ヲ多ク用フ

二 施 肥 量 (反當)

播種一年目ニ於テハ稀薄ナル人糞尿三百貫内外ヲ發芽後二回ニ分施スルヲ一般トス二年目ヨリ五年目迄ハ前記人糞尿ニ鯀搾粕十五貫内外ヲ基肥トシテ十一月月上旬施用ス五年目以後ハ人糞尿三百貫、鯀搾粕二十五貫、大豆粕十五貫、硫酸アンモニア三呎ヲ各別々ニ施スモノアリ尙此ノ外ニ青草四百貫内外ヲ敷込モノモアリ

三 施肥ノ時期及方法

基肥ハ十一月月上旬茶樹ノ根元ヲ掘リ施用シ追肥ハ淺耕ト同時ニ三月中旬迄ニ前記方法ニヨリテ施用ス

四 間 作 綠 肥

青刈大豆

五 敷 草

敷草ハ成ルベク青草ヲ用ヒ就中青笹ヲ最モ珍重ス

第八 摘 採

一 摘採ノ時期及回数

摘採開始期ハ年ニヨリテ異レ共概シテ五月初旬ニシテ摘採回数ハ一番茶及二番茶ノ二回トス

二 手 摘

生産額ノ約九割ハ手摘ニ依ル摘婦一人一日ノ摘採量ハ約五貫匁位ナリ

三 摘

従來ノ摘採ハ殆ド手摘ニ限ラレシモ約一割ハ摘採鋏ヲ使用スルニ至レリ摘採ハ一人一日ニテ的三十貫匁ヲ摘採ス

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

一 茶丸介殼蟲ノ驅除

冬季石灰硫黃合劑又ハ石油乳劑ノ八倍液ヲ撒布ス

二 茶葉捲蟲ノ驅除

除蟲菊加用石鹼液ヲ撒布ス又六月頃茶園ヲ見廻リ其ノ新芽ニ注意シ若シ數葉ノ綴葉アリタルトキハ直ニ驅除ス

三 霜害ノ防除

四月下旬ヨリ五月上旬ニ於テ降霜ノ豫想セラル、場合ニハ茶園約十五歩ニ對シ一ヶ所位ノ割合ニ糶穀等ヲ以テ焚火ヲ爲シ燻煙法ニ依ル豫防ヲ爲ス又寒害ヲ防グ爲ニハ木炭等ノ空俵ヲ以テ茶株面ヲ覆フルモノモアリ

岐阜縣

第一 採種

一 採種ノ時期

種子ノ十分成熟シタル時期十月中旬ヨリ十一月下旬迄ノ間ニ採種ス

二 採種法及採種後ノ處理

種子ハ十月中旬頃ヨリ成熟スルヲ以テ將ニ落下セントスル果實又ハ落果ヲ直ニ拾ヒ集ム採取シタル果實ハ外殼ヲ去リ充實セル種子ノミヲ選ビ小形ノモノ及未熟ノモノ等不良種子ヲ除キ二週間許リ屋内ニテ簾等ニ入レ風乾シ播種ノ時期迄貯藏ス

第二 種子ノ貯藏

秋播ノモノニアリテハ必要ナキモ翌春播付タルモノハ種子ノ貯藏ヲ要ス貯藏法ハ土圍法トテ土中ニ埋藏スルモノアレドモ多クハヨク風乾シタル裸種子ヲ俵ニ入レ屋内ニ貯藏ス

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

冬期農閑期ニ餘剩勞力ヲ利用シ開墾ヲナス此ノ場合新開地ハ勿論古畑ニアリテモ茶ヲ新ニ播付クル場合ハ最初成ルベク深く打起シ殊ニ新開地ニアリテハ木株、草根、竹根等ヲ叮嚀ニ取除キ耕起シタル土塊ハ良ク整地シ播種迄其ノ儘ニナシ風化セシム開墾ニ次デ作條ノ方向ヲ決定シ地面ノ高低ヲ直シ土塊ヲ粉細シ整地ヲ行フ

二 播種時ノ基肥

播種時ニ基肥ヲ施用セザルモノアレドモ自給肥料堆肥等ヲ反當五百貫内外施用スルモノ多シ
改善ヲ要スル事項 播付ニ際シテハ必ズ基肥ヲ施ス様指導ヲ要ス

三 播種期

晩秋播種スルモノアレドモ多クハ春季三、四月頃ニ播種ス

四 播種法

播子ノ豫措 秋播ニアリテハ採集後其ノ儘播種スルモ春播ニアリテハ貯藏中種子乾燥ノ爲發芽ニ日數ヲ多ク要スルノ
ミナラズ發芽不良ナルヲ以テ播種前一週間位水ニ浸シ選種ヲ兼ネテ水分ヲ吸收セシム

播種量 播種方式ニ依リ其ノ數量異レ共普通五尺畦條播ノ場合ハ反當三斗乃至四斗位ヲ播種ス

畦幅 地勢土質等ニ依リ異レ共畦ノ中心ヨリ中心迄五尺ノ畦幅トス

播幅 播種法ニ依リ異レ共一條播ニアリテハ約六寸幅トシ二條播ニアリテハ播幅五寸トシ播溝ト播溝トノ間隔ヲ八寸
位トス

畦ノ方向 平地ニ於テハ南北トナスモ多クハ地畫ノ形狀ニヨリ其ノ長邊ニ平行ニ作條ス傾斜地ニ於テハ肥料土砂ノ流
下ヲ防グ爲傾斜ヲ横切リテ畦ヲ作ル

播種ノ方式方法及播種後ノ管理

方式 一條播

方法 作條ヲ切り其ノ底ヲ平ナラシメ之ニ下種シ種子ヲ鍬ニテ壓シ動かザル様ニシ一寸位覆土ス
播種後ノ管理 覆土ノ上ニ藁或ハ粗穀ヲ置キ乾燥ヲ防グ

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

播付ケタル種子ハ五月頃ニ發芽スルヲ以テ兩側ニ敷藁或ハ敷草ヲナシ早魃ヲ防ギ時々耕耘除草ヲ行ヒ稀釋セル液肥ヲ
施ス冬季ハ防寒ノ爲刈草、藁等ヲ以テ被フカ或ハ先端二、三葉ヲ殘シテ他ハ全部兩側ヨリ土寄ヲナス

二 發芽第二年ノ肥培管理

除草ヲ兼ネタル耕耘及液肥ノ施用(下肥或ハ硫酸アンモニア)ハ年四回内外病蟲害防除ヲ懇切ニシ密生セル部分及樹
勢著ク貧弱ナルモノ又ハ芽色赤紫色ヲ呈スルモノ及葉形著ク小ナルモノ等不良樹種ヲ間引キ其ノ他ハ前年同様ト
ス

三 發芽第三年ノ肥培管理

發育良好ナルモノハ本年一番茶摘採後地上七、八寸位ニ平ニ刈込ヲ行ヒ耕耘、除草、施肥等ハ前年同様トス
改善ヲ要スル事項 幼齡茶樹ハ收葉量ナク從テ收入ナキヲ以テ十分ナル肥培管理ヲナスモノ少キヲ以テ今後ハ夫々
注意ヲ促シ肥培管理ニ入念ナラシムルノ要アリ

第五 仕立法並剪枝

一 仕立法ノ方式及方法

方式 中仕立畦作りニシテ摘採面ハ丸形トス
方法 發育良好ナルモノハ第三年目頃ヨリ株仕立ニカ、リ摘採面ハ仕立初年及二年目頃迄ハ平ニ刈込ミ第三年目頃ヨリ丸味ヲ附ス
改善ヲ要スル事項 樹形ノ仕立ニ際シ早ク樹形ヲ丸味ニスル結果裾張不十分ナルヲ以テ初期ノ刈込ニ注意スルヲ要ス

二 手摘茶園ノ剪枝

未成木茶樹 年々一番茶後前年剪枝面ヨリ二寸上リ位ニ剪枝ス
成木茶樹 一番茶或ハ二番茶後徒長枝又ハ不揃枝葉ヲ剪除シ四年目位ニシテ深刈ヲ行フ

三 缺摘茶園ノ剪枝

未成木茶樹 一番茶後前年剪枝面ヨリ二寸上リ位ニ剪枝ス尙秋季不揃芽ヲ剪除シ常ニ摘採面ニ凹凸ナキ様留意シ剪枝ヲ行フ
成木茶樹 普通剪枝ハ摘採面ノ高低ヲ直シ缺使用ヲ容易ナラシメ四年目位ニシテ芽數増加シ新芽出開キトナル傾向アラバ深刈ヲ行フ

第六 耕耘及除草

一 淺 耕

未成木茶樹及成木茶樹共春季發芽前根元ニ缺入セヌ様三、四寸ノ深サニ第一回淺耕ヲ行ヒ一番茶後前回同様第二回淺耕ヲ行フ

二 元出及元寄

未成木茶樹並成木茶樹共秋季彼岸後ニ於テ根元ノ土壤及落葉ヲ中央ニ搔キ出シ深耕後基肥施用ト同時ニ又八十一月中旬迄ニ畦間ノ土壤ヲ根元ニ土寄ヲ行フ

三 深 耕

未成木、成木茶樹共九月上、中旬頃ヨリ十月下旬迄ノ間ニ深サ七、八寸ニ耕起シ成ルベク底土ヲ表面ニ露出セシム深耕ノ位置ハ茶樹枝張端下ヲ基準トシ畦ノ中央ニ土ヲ盛り上グル心持ニテ成ルベク深ク打起シ後株元ヨリ一畝ヅツ土ヲ搔キ出シ枝根ヲ切斷ス

四 除 草

未成木並成木茶樹共耕耘ノ都度除草ヲ行フヲ常トス

第七 肥料及敷草

一 肥料ノ種類

本縣ニ於テ使用スル肥料大略左ノ如シ
大豆粕、種粕、過燐酸石灰、缺粕、人糞尿、蠶蛹粕、堆肥

二 施肥量

(種類別、施肥期別數量及所含三要素量)

成木茶樹施肥量

施肥期	種類	反當施用量	所含三要素量		
			窒素	磷	酸加里
春肥 三月中下旬	大豆 粕	八、〇〇〇 _匁	五五四 _匁	一二八 _匁	一四四 _匁
	種 粕	一〇、〇〇〇	五二〇	二五〇	一三〇
秋肥 (九月下旬 十月上旬)	過 磷酸石灰	一、〇〇〇	—	一五〇	—
	大 豆 粕	一五、〇〇〇	一、〇二〇	二四〇	二七〇
計	煉 粕	二〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、〇〇〇	一四〇
	過 磷酸石灰	一、〇〇〇	—	一五〇	—
計		五五、〇〇〇	三、九九四	一、九一八	六八四

未成木茶樹施肥量ハ成木茶樹施肥量ノ七掛位ナリ

三 施肥ノ時期及方法

春肥ハ三月中下旬、秋肥ハ九月下旬頃耕耘ノ後枝張端下ニ溝ヲ堀リ之ニ肥料ヲ施シ覆土ス

四 間作綠肥

青刈大豆ヲ四月上旬頃播種シ六月刈取り敷込ム

五 敷草

一番茶後及十一月頃敷草ヲナス敷草ニハ往々藁ヲ施用スルモノアレ共山草多ク畦間三寸厚位ニ敷込ム

改善ヲ要スル事項 肥料施用ニ當リ單一肥料施用ノ爲適度ノ三要素量ヲ施ス事難ク且亦單一肥料施用ハ經濟上不得

策ナルヲ以テ調合肥料ヲ施用セシムルト共ニ間作綠肥ノ栽培ニ依リ自給肥料施用ヲ奨ムルノ要アリ

第八 摘採

一 摘採ノ時期及回数

氣候或ハ慣習ニ依リ異レ共多ク年二回ニシテ三回摘採スルモノハ僅少ナリ

- 第一回 東濃 五月下旬乃至六月上旬 西濃 五月上旬乃至五月下旬
- 第二回 東濃 七月中旬乃至七月下旬 西濃 七月上旬乃至七月中旬
- 第三回 西濃 八月中旬

二 手摘

本縣ニ於テハ多ク手摘ニシテ其ノ方法「コキ摘」ナルモ折摘ヲナス地方ハ木莖混入スルヲ以テ此ノ點注意ヲ要ス

三 鋏摘

本縣ニ於テハ未ダ鋏摘ハ多ク行ハレズ之ガ原因ハ散在茶園ナルガ爲鋏使用ニ不適當ナルト凍霜被害多キニ依ル

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

一 害蟲ノ種類及被害時期

茶葉捲蟲、養蟲、赤壁蝨等發生スレドモ就中茶葉捲蟲最多ク一番茶後及二番茶後ニ發生多シ

二 驅除ノ法

除蟲菊石鹼液、石油乳劑等ヲ發生時期ニ撒布ス

第十 樹勢更新法

樹勢衰へ收葉量減少セバ之ガ更新法トシテ未成木茶樹ニアリテハ深刈ヲ成木老樹ニアリテハ臺刈ヲ行フ其ノ時期ハ兩者共一番茶後直ニ行フ

靜岡縣

第一 採種

一 採種ノ時期

地方ニヨリ多少ノ遲速アルモ大體ニ於テ採實(樹ニ着生セル果實ヲ採取セルモノ)ハ十月下旬(秋土用入後)ヨリ十一月中旬迄拾ヒ實(果殼ヨリ脫落セル子實ヲ拾フモノ)ハ十一月下旬ヨリ十二月上旬、中旬迄トス

二 採種法及採種後ノ處理

採種法ハ前述ノ採實ト拾ヒ實ノ二種ニシテ採實ヲ更ニ手ヲ加ヘ脫殼セルモノヲ剝實ト稱シ脫殼セザルモノヲ皮付實ト稱ス而シテ一般ニ剝實ハ拾ヒ實ト共ニ裸實トシテ同様ニ處理セラル今之等ノ種子ノ調製法ニ付テ述ブレバ左ノ如シ

採實 多ク農家ノ婦女ノ手ニヨリ農閑ヲ利用シテ採取セラル、モノニシテ母樹ノ型質等ニ顧慮スルトコロナク手當

リ次第枝ニ着生セル果實ヲ挽ギ採リ數日陰乾(若クハ陽乾)果皮ノ稍乾燥スルヲ俟テ依又ハ吹等ニ入レ屋內ニ貯藏ス又之ヲ剝實トスル場合ハ同ク數日間陽乾シテ果皮ヲ萌裂セシメ脫粒セザルモノハ更ニ手ヲ加ヘテ剝皮ス但或地

方例ヘバ牧之原ノ一部ニ於テハ採實ヲ其ノ儘堆積シ果皮ヲ酸酵腐敗セシメテ剝皮スル處アリ之レ剝皮ニ易キト種實ノ外觀黒味ヲ帶ビ一見熟子ノ如キ外觀ヲ呈スルガ故ナランモ最モ排斥スベキ方法ナルコト論ヲ俟タズ

拾ヒ實 落下セル種實ヲ拾ヒ集メ數日間陽乾シテ俵吹等ニ收納ス拾ヒ實モ亦農閑期ニ於テ婦女ノ手ニ行ハル、モノナリ現在本縣ニ於テハ前三種共行ハル、ガ剝實ハ手數ヲ要スル爲比較的少ク主トシテ販賣用ニ供セラル拾ヒ實ハ裸實ノ大部分ヲ占メ自家用販賣用共ニ用ヒラレ子實ハ完熟シ品質最モ良好ナルモノナリ皮付實ハ主トシテ自家用ニ供セラル、ノ外又剝實ノ原料トシテ販賣セラル而シテ裸實、皮付實何レガ多く使用セラル、ヤト云フニ概シテ遠州地方ニ於テハ皮付實ノ使用多ク駿河地方ニハ裸實多キガ如シ

改善ヲ要スル事項

- 一 採種園ノ設定
- 二 優良ナル母樹ヲ撰擇シテ之ヨリ採種スルコト
- 三 採實ハ子實ノ完熟ヲ俟テ着手スルコト(牧之原地方ハ早採リノ弊アリ)
- 四 種實ハ裸實トナシ豊大ニシテ充實セル種粒ノミヲ精選スルコト

五 俵入前乾燥ヲ充分ニ行フコト

第二 種子ノ貯藏

一般ニ埋藏法ヲ實行スルモノ少ク皮付實ハ勿論裸實ニ於テモ風乾ノ儘依等ニ入レ屋内ニ貯藏シ置クモノ多シ

改善ヲ要スル事項

- 一 春播用種子ニ對シテハ埋藏法ヲ勵行セシムルコト
- 二 貯藏用種子ノ精選ヲ行フコト

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

開墾ハ冬期農閑時ニ行ヒ總テ手墾ニシテ先ヅ七、八寸ノ深サニ荒起シヲ爲シ(用具ハ唐鋏、木起、鶴嘴等ヲ用フ)暫ク風霜ニ曝シ土塊ノ緩ムヲ俟テ整地ニ着手ス整地ハ土塊ヲ破碎シ樹根、芝根、石塊等ヲ除去スルヲ以テ主タル作業トスルモ傾斜甚シキ處ニ於テハ段階ノ造成ニ多大ノ勞力ヲ要ス普通一、二月ノ候開墾ニ着手シ三月上、中旬ニ整地ヲ終ルヲ一般トス之ガ所用勞力ハ土地ノ狀態立木ノ如何ニヨリ大ナル差異アルモ大體ニ於テ反當三十人乃至六十人位ノ勞力ヲ要スベシ(但地形ニ依テハ夫以上ノ勞力ヲ要スル所アリ)新墾地ニ於ケル茶ノ播付ハ整地終ルヤ直ニ播種スルモノト當年ハ陸稻、粟、甘藷等ヲ作付シ秋期ニ至リテ茶ノ播種ヲナス場合アリ

二 播種時ノ基肥

一般ニ不足ナルガ如シ主トシテ用ヒラル、肥料ハ堆肥、下肥等ナルガ之トテ充分ナラズ又全然無肥料ニテ播種スルモノ少カラザルノ狀態ナリ

三 播種期

秋期十一月ヨリ翌春三月下旬ノ間ニシテ就中秋播トシテ十一月中下旬及春播トシテ三月中旬ニ行フモノ多シ秋播ハ麥ト共ニ下種スルヲ一般トシ新墾地ノ外ハ概ネ此ノ方法ニ依ル春播ハ新墾地ニ主トシテ行ハレ冬播(一、二月ノ候)ハ主トシテ勞力關係(農閑)ニ依ルモノトス

四 播種法

播子ノ豫措 皮付實ニ對シテハ特ニ豫措ヲ行フモノナシ裸實ニ對シテハ唐箕選、小粒除去、或ハ水選(一兩日水ニ浸漬)等ヲ行フモノアルモ一般的トハ云ヒ難シ

播種量 畦間ノ廣狹、播種法ノ如何ニヨリ差アルモ近年概シテ厚播ニ過グルノ觀アリ即チ大體ノ標準ハ裸實ニ於テ反當四斗乃至五斗、皮付實ニ於テ反當二依乃至三依程度ナルガ尙之以上ノ厚播ヲナスモノアリ

畦幅 普通四尺乃至六尺程度ニシテ就中四尺五寸、五尺ノモノ多シ最近仕立方ヲ低作トナス傾向トナリタル結果勢ヒ其ノ畦間距離モ漸次狭マルノ狀態ニアリ

輪ニ播種ス 一條播ニアリテハ五寸乃至八寸、二條播ニアリテハ一尺内外、輪播ニアリテハ株間ヲ三尺内外トシ徑一尺位ノ畦ノ方向 平地ニアリテハ南北畦ヲ取ルモノ多ク傾斜地ニ於テハ傾斜面ヲ横ギリテ作畦スルヲ普通トス

播種ノ方法及播種後ノ管理 播種ノ方式ノ主ナルモノヲ舉グレバ(一)一條播(二)二條播(三)千鳥點播(以上畦仕

立) (四) 輪播 (五) 株播 (以上株立) トス然レ共現在ニ於テハ各地共殆下皆一條若ハ二條ノ條播ノ方式ニ從ヒ輪播、株播、千鳥播等ノ茶園ハ何レモ往時造成ニ係ル舊茶園ト見做スヲ得ベシ

播種ノ方法ハ整地後所定ノ位置ニ(普通繩ヲ張り位置ヲ定ム) 作條ヲ切り基肥ヲ施シ下種、覆土、鎮壓ス(作條ノ深サ三、四寸覆土ノ厚サ二寸程度) 輪播ニ於テハ畦ノ位置ニ繩ヲ張り更ニ株ノ位置ニ棒ヲ立テ輪ノ中心ヲ定メ其ノ周圍ニ徑一尺内外ノ環狀ニ淺ク作溝シ二三、十粒ノ種子ヲ播下ス株播ハ多ク小仕立ノ株作ニ行ハレ前記ノ如ク株ノ位置ヲ定メ其處ニ十數粒ノ種子ヲ播下ス千鳥播ハ二條ノ作條ニ株間一尺位トシ千鳥形ニ數粒ノ種子ヲ點播ス

麥類ト混播スル場合ハ普通ノ作付同様ニ作條スルモ茶種ヲ下種スベキ畦ハ稍廣ク作條スルカ又ハ二條播トナシ麥ノ基肥ヲ施シタル上ニ茶種ヲ播下シ更ニ麥ヲ薄播ス(麥ノ播種量ハ普通ノ半量位麥ハ小麥ヲ多ク採用ス) 播種後ノ管理ニ付テハ特ニ記スベキモノナク一般ニ發芽迄其ノ儘ニ放置ス下種後葉ヲ薄ク敷クコトハ種子保護上適當ナルモ一般ニ行ハル、コト少シ蓋シ秋播ハ概シテ麥ト混播シ春播ニ於テハ其ノ必要少キト考ヘ居ル爲ナランカ只茶ノ播跡ヲ標示スル爲其ノ位置ニ棒ヲ立テ自ラノ指標トナシ又他人ノ踏入ルヲ防グ手段トナス事ハ一般ニ行ハル、トコロナリ

改善ヲ要スル事項

- 一 開墾ニ當リテハ今少シク深墾ヲ行フコト
- 二 播種ノ基肥ヲ充分ニ行フコト特ニ骨粉等ノ磷酸肥料ヲ多量ニ混用スルコト
- 三 播種ハ遲クモ三月中ニ終ルベキコト
- 四 種子ノ精選ヲ嚴密ニ行ヒ春播ノ場合ハ播種時迄地中ニ埋藏シ置クコト又止ムヲ得ズ風乾種子ヲ用フル場合ハ之ヲ精選シタル後播種直前二晝夜水中ニ浸漬シ種子ニ充分水分ヲ吸收セシムルコト

- 五 播種量ハ一般ニ厚播ニ過ギ爲ニ茶樹ノ根幹ノ發育ヲ阻害シ從テ衰弱ヲ早カラシムルノ傾向ニアリ此ノ弊ヲ改ムルヲ緊要トス適當ナル播種量ハ畦長一間ニ付キ一條播ノ場合ハ精選種子八勺乃至一合、二條播ノ場合ハ同ク一合五勺(二條ヲ以テ一畦トス)程度トス
- 六 畦間距離最近著シク狭マ、リ甚シキハ三尺トシ又相當肥沃ナル土地ニ於テ小仕立向ノ畦間距離ニ播種スルモノアリ須ク地力ニ應ジ豫メ仕立ノ程度ヲ考慮シ適當ニ定ムルヲ要ス適當ト認ムル標準ハ小仕立ニ於テハ四尺乃至四尺五寸、中仕立ニ於テ五尺乃至六尺トス
- 七 畦間距離四尺内外ノ小仕立向ノ場合ニ二條播トナスモノ頗ル多シ蓋シ收穫ヲ早ク舉グル目的ナランモ斯ノ如キハ當ヲ得ザルモノナリ小仕立ハ一條播トシ二條播ハ比較的大ナル仕立ヲナス場合ニ行フヲ適當ト思惟ス
- 八 播種後ノ管理ニ付テハ殆下關心ナキモノ、如キモ春播ト雖覆土ノ上ニ藁ヲ被敷シ置クヲ可トス

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

六月上旬發芽揃トナルヲ俟チ除草ヲ行ヒ腐熟液肥ヲ施ス其ノ後秋期迄ニ一、二回隨時除草中耕ヲ行フノ外一回位液肥ヲ施シ又八月頃根本ニ敷草ヲ行フモノアリ而シテ九月下旬ヨリ十月ニ亘リ深耕ヲ行ヒ秋肥トシテ下肥若ハ成木茶園ノ基肥ノ一部ヲ割愛シテ施與ス敷草ハ一般ニ秋肥後ニ行フモノ多ク又此ノ際多少ノ土奇ヲ行ヒ防寒ニ備フ麥類ト混播セルモノハ麥ノ收穫ノ際其ノ藁稈ヲ地上五寸位ノ處ヨリ刈取り刈株ニヨリ幼苗ヲ保護セシム又當年ハ畦間ニ間作ヲ行フヲ一般トス間作ノ種類ハ大小豆、陸稻、粟、黍、蕎麥、蔬菜類ヲ主タルモノトスルモ甘藷ノ如キ幼苗ノ生育ニ大害ヲ

加フルモノヲ間作スルモノナキニアラズ間作ハ其ノ種類ノ撰擇適當ヲ得バ幼苗ヲ保護シ之ガ發育ニ對シ良好ナル影響ヲ與フルモノナリ病蟲害ハ夏期ニ於テ浮塵子、初夏及晩秋ノ二期ニ茶赤葉枯ノ被害ハ一般的ニシテ又處ニヨリ蚜蟲、赤壁蝨等ノ被害アリ然ルニ之等ニ對スル防除ハ成園ニ於ケルガ如ク一般ニ勵行セラレザル憾アリ斯テ第一年ニ於ケル茶苗ノ發育程度ハ幹長五寸内外(三寸乃至七寸程度)ニシテ未ダ分枝ハ極テ微弱ニシテ生育良好ナルモノニ於テ僅ニ基部ニ近キ處ニ二、三ノ短枝生ズルニ過ギズ

二 發芽第二年ノ肥培管理

大體ニ於テ第一年ト同様ニシテ耕耘施肥ハ三月、六月及秋期ノ三回ニシテ此ノ外夏期ニ於テ一、二回ノ除草ヲ行フ肥料ハ下肥ノ外大豆粕ニ少量ノ過燐酸石灰ヲ混和セルモノヲ用フルモノ多シ敷草ハ多ク秋期ニ行ヒ同時ニ多少ノ土寄ヲナスコト前年ノ如シ病蟲害ノ防除ハ極テ必要ナルモ一般ニ成園ノ如ク勵行セラレザルガ如シ當年末ニ於ケル茶苗ノ發育程度ハ幹長一尺内外ニシテ數條ノ分枝ヲ發生ス

三 發芽第三年ノ肥培管理

當年ノ肥培管理モ大體ニ於テ前年ニ同ク唯肥料ノ用量茶樹ノ發育ト共ニ漸次増加シ其ノ種類モ成園ト同様ノモノヲ施用ス一般ニ大豆粕ヲ主トスル配合肥料ヲ用フ本縣ニ於テハ普通第四年目ニ至リ摘採及仕立ニ着手シ當年迄ハ茶苗ニ對シ何等特別ノ手入ヲナサズ自然ノ成長ニ委スルヲ一般トスルモ一部地方(例ヘバ牧之原及三ヶヶ原地方)ニ於ケル小仕立茶園ニ於テハ第三年目ヨリ摘採ヲ開始シ爾後缺摘ニヨリ樹形ヲ作成スル事行ハル當年末ニ於ケル茶苗ノ發育程度ハ樹高一尺五寸内外枝條モ相當繁茂シ漸ク仕立ニ適スル樹形ヲ成スニ至ルモノトス

四 發芽第四年ノ肥培管理

大多數ノ新植茶園ハ當年ニ至リ愈摘採ヲ開始シ又同時ニ仕立ニ着手セラレ其ノ肥培管理モ此ノ期ヨリ漸次成園ニ準ズルコト、ナルヲ以テ其ノ詳細ハ第五項以下ニ讓ルコト、セリ

改善ヲ要スル事項

- 一 幼齡時代ノ發育如何ガ其ノ生産力及樹齡ニ至大ナル關係アルコトニ留意シ此ノ時代ノ肥培管理ヲ一層懇切ナラシムルコト
- 二 肥料分ヲ充分ニ供給シ其ノ發育ヲ促進セシムルコト
- 三 個體ノ完全ナル發達ト不良茶樹淘汰ノ爲メ適當ナル間引ヲ行フコト
- 四 摘採及仕立ノ着手ハ相當茶苗ノ發達ヲ俟テ行フコト即チ小及中仕立ニ於テハ幹長一尺五寸内外、幹徑(基部ノ直徑)〇・七乃至一・〇糎ニ達セル時期(普通第四年目ノ春)ヲ以テ好機トス
- 五 病蟲害防除ノ勵行
- 六 間作物ノ撰擇ニ注意シ幼樹ノ生育ニ害アルモノハ絶對ニ避ケ適當ナル間作物ナキ時ハ綠肥ノ間作ヲ行フコト

第五 仕立法並剪枝

一 仕立法ノ方式及方法

仕立ノ方法ハ凡テ剪枝仕立ニシテ播種方式ト相俟テ畦仕立及株仕立ノ二種アルモ現時ハ一般ニ前者行ハル又樹高、株張ノ大小ニ從テ大仕立(高造リ)中仕立(中造リ)小仕立(低造リ)ノ呼稱アリ其ノ呼稱ノ限界ハ劃然タラザルモ一般通念トシテ樹高一尺五寸内外ヲ小仕立、同二尺乃至二尺五寸内外ヲ中仕立、三尺内外ヲ大仕立ト認メ得ベシ株張ノ徑ハ樹

高ニ對シ約其ノ二倍ヲ以テ標準トシ小仕立ニ於テハ比率稍大ニ大仕立ニ於テハ此ノ比率稍小トナル株面ノ形狀ハ畦仕立ニ於テハ所謂蒲鉾形ナルヲ一般トシ屋根形ノモノハ現在ハ殆ド絶無ナリ株仕立ニ於テハ所謂饅頭形ナルモノ多シ晩近仕立ノ樹高ガ一般ニ低目トナリ大仕立ハ殆ド跡ヲ絶ツルノ狀勢トナレリ現在ノ收葉率ヲ舉グルタメニハ大仕立ニ於テハ樹勢ノ維持困難ナルガ故ナリ

仕立ハ前述ノ如ク第四齡ノ一番茶初摘後着手スルヲ一般トス即チ當年一番茶ヲ拾ヒ摘シタル後幹枝ヲ地上五寸乃至一尺ノ箇所ニテ剪枝缺ヲ以テ略水平ニ切斷シ最初ノ基本的剪枝ヲ行フ（此ノ基本的剪枝ノ高サハ將來成園後株ノ大小、裾張ノ高低ガ決定セラル、重要ナル事項ニシテ最近樹高ヲ低ク裾枝ヲ地ニ接スル仕立方トナリ隨テ該基本剪枝ノ部位モ著ク低ク五寸乃至七寸程度ニ行ハル、モノ多シ

右ノ剪枝ヲ行ヒタルモノハ概シテ當年ハ出芽ヲ其ノ儘伸育セシメ（或ハ輕ク夏茶ヲ摘採シ）次年ノ一番茶摘採後更ニ前年ノ剪枝部位ヨリ稍上リタル箇所ニ於テ同様ナル剪枝ヲ行ヒ夏茶ハ裾芽及懷芽ヲ殘シ他ハ普通ニ摘採ス斯テ手摘茶園ニアリテハ毎年一回剪枝ニヨリテ樹形ヲ整ヘ缺摘茶園ニアリテハ缺摘ニヨリテ自然ニ株面ヲ整ヘ行ケバ小仕立ハ七年乃至十年、中仕立ハ十年乃至十五年、大仕立ハ十五年乃至二十年ニシテ略豫定ノ成園トナルヲ得ベシ但缺摘ヲ常例スル地方（例ヘバ牧之原附近）ノ小仕立園ニ於テハ速成茶園トモ云フベキカ種子ヲ厚播シ第三年目ノ一番茶ニ於テ既ニ缺摘ヲ以テ株面ヲ揃ヘ爾後每期缺摘ヲ續行シ（特ニ剪枝ヲ行ハズ）漸次成園トナラシムル方法ヲ採ルモノ多シ斯ノ如キハ最初ノ收穫稍多キモ茶樹ノ根幹ノ發達ヲ阻害シ樹齡ヲ永續セシムル所以ニアラズ以テ良法ト謂ヒ難シ

二 手摘茶園ノ剪枝

前述ノ如ク手摘茶園ハ其ノ仕立中ハ勿論成園後ニ於テ毎年一回剪枝ヲ行ヒ以テ株面ヲ整フ其ノ時期ハ一般ニ一番茶後

ニ行フヲ普通トスルモ或地方（例ヘバ志太郡）ニテハ二番茶後ニ行フモノ多キ所アリ剪枝ノ深サハ一番茶芽ノ基部二、三耗ノトコロヲ標準トシテ刈込ヲナシ同時ニ茶株ノ凸凹ヲ整フ而シテ三乃至四年毎ニ一回古枝部迄深刈ヲ行ヒ樹形ノ膨大ヲ防グ剪枝ノ形狀ハ一般ニ蒲鉾形ニシテ屋根形剪枝ハ近時殆ド跡ヲ絶テルコト既述ノ如シ

三 缺摘茶園ノ剪枝

缺摘茶園ニ於テハ特ニ剪枝ヲ行ハズ缺摘ニヨリ自然ニ株面ヲ整フルヲ一般トス然ルニ其ノ結果トシテ細枝過度ニ密生シ茶芽ノ伸育ヲ短小ナラシメ且一面樹形膨大シ兩者相俟テ爲ニ樹勢ヲ衰弱ニ陥ラシメ所謂「缺摘ニヨル樹勢ノ衰弱」テウ弊害ヲ現ハスニ至レリサレバ此ノ弊害ヲ未然ニ防グタメニハ唯深刈込ニヨル摘採面ノ更新アルノミニシテ之ガ提唱ハ既ニ右指導當局ニ於テ強調シツ、アル所ナルガ當業者ノ實行未ダ少キハ遺憾トスル所ナリ然レドモ最近著シク之ガ必要ヲ認識シ各地ニ於テ之ヲ實行スルモノ漸ク多キヲ加ヘツ、アルノ狀勢ニアリ其ノ方法ハ樹勢、樹高、分枝ノ狀態等ニヨリ其ノ刈込ノ程度ヲ異ニスルモ普通株ノ頂部五寸乃至一尺、肩部三寸乃至五寸ノ深サニ刈下グルモノトス（樹勢、樹形ノ如何ニヨリ更ニ深ク所謂「中途切」ノ程度ニ行フ場合アルモ之ハ寧ロ樹勢更新ニ屬スルモノト認メ茲ニ述ベズ）然ルトキハ約一ヶ月内外ニシテ剪枝面附近ノ不定芽發生シ秋期迄ニハ勢力旺盛ナル芽條ヲ以テ全株ヲ蔽ヒ摘採面ノ更新全ク成ルモノトス深耕ノ時期ハ一番茶直後ヲ以テ最適トスルモ暖地ニ於テハ八月中旬（三番茶直後）迄ハ行ヒ得ベシ右ノ方法ニ依レバ缺摘茶園ニ於テハ再ビ其ノ必要ヲ感ズルニ至ル迄（凡ソ六、七年間）ハ特ニ年々ノ剪枝ヲ必要トセザルベク勞力上極メテ有利ナリ

改善ヲ要スル事項

一 仕立ノ大小ハ土地其ノ他ノ事情ニ照シ豫メ適當ニ決定シ其レニ準ジ播種ノ畦間距離ヲ適當ニ定ムルコト

二 最初ノ基本剪枝ハ幹根ノ稍發達スルヲ俟ツテ行フコト
 三 仕立着手後二、三年間ハ過度ノ摘採ヲ慎ミ懷芽、裾芽及四番茶ヲ殘シ且缺摘茶園ニ於テモ手摘茶園同様ノ處理ヲナスコト

四 缺摘茶園ニ於テハ其ノ必要ヲ感ズルヤ未ダ樹勢ノ衰弱セザル内摘採面更新ヲ行フコト更ニ所有茶園ヲ數回ニ分チ年々循環的ニ之ヲ行フノ設計ヲ立ツルコト

五 舊茶園ニ於テ樹高高キニ過グルモノハ枝幹ヲ刈下ダ若ハ豪切更新ヲ行ヒ中造リニ仕立直スコト

第六 耕耘除草

一 淺 耕

淺耕ハ三月上、中旬一及二番茶直後ノ三回之ヲ行ヒ用具ハ三本鍬ヲ用ヒ耕深約三寸程度トス但鬱閉ニ近キ茶園又ハ敷草セル茶園ニ於テハ特ニ淺耕ヲナサル場合多シ

二 元出及元寄

本縣ニ於テ該作業ヲ行フ地方ハ富士郡ノミナルモ當局ハ之ヲ獎勵シ居ラス

三 深 耕

九月中旬ヲ最適期トスルモ一般ニ遅レ勝ナリ甚シキハ十一月下旬ニ之ヲ行フ地方アリ其ノ理由ハ多少他ノ農作業トノ關係ニアランモ多クハ其ノ利害ニ付認識不足ノ結果徒ニ舊來ノ習慣ニ從ヒツ、アルモノト思惟ス深耕ノ用具ハ三本鍬ヲ用ヒ耕深約六寸程度淺耕ニ比シ荒ク耕起ス一般ニ手耕ニシテ畜力ヲ用フルモノハ極テ稀ナリ

四 除 草

除草ハ各淺耕及深耕ノ際前以テ之ヲ行フノ外夏期一乃至二回秋冬ノ間一回之ヲ行フヲ一般トス

改善ヲ要スル事項

- 一 深耕ハ九月中旬ヨリ下旬ノ間ニ必ズ行フベキコト
- 二 鬱閉若ハ敷草セル茶園ニシテ特ニ深耕ヲ行ハズ之ヲ誇トスルモノアリ斯ノ如キ茶園ハ結局老衰ヲ招キ易キモノナルガ故ニ適當ノ機會ニ於テ地上部ヲ刈詰ムルト同時ニ深耕ヲ行ヒ根系ノ更新ヲ計ルヲ要ス
- 三 茶葉不況ニ際會セバ直ニ耕耘ヲ怠リ甚キハ雜草繁茂ニ委スル惡習ナキニアラズ茶園ヲ荒廢セシムルコト甚シ斷然改ムベキコト、ス
- 四 本縣ニ於ケル茶園ノ耕耘ハ比較的淺ク爲ニ細根ハ地表ニ近キ所ニ多ク發生シ深部ニ於ケル根ノ發達概シテ不良ナリ如何ニセバ深部ニ根系ノ發達ヲ盛ナラシムベキカ此ノ點試驗研究ノ要大ナリ

第七 肥料及敷草

一 肥料ノ種類

茶園肥料トシテ常用セラル、肥料ノ主ナルモノヲ舉グレバ鯨搾粕及其ノ他ノ魚粕類、菜種油粕、大豆粕、硫酸アンモニアニシテ此ノ外胡麻粕、落花生粕等ノ植物性油粕類、蛹粕、石灰窒素、アンモホス及其ノ他ノ化成肥料、市販配合肥料等用ヒラル自給肥料トシテハ鶏糞、厩肥、人糞尿等ヲ主ナルモノトシ堆肥ヲ茶園ニ施用スルコトハ播種ノ基肥トナス以外ハ極テ稀ナルガ如シ概シテ大部分ハ購入肥料ニテ自給肥料ノ使用比較的少シ右ノ購入肥料ハ單用スルコト少

ク數種配合シテ用フルヲ一般トス

二 施肥量

施肥用量ハ大體生葉百貫匁ノ收穫ニ對シ窒素三貫匁内外ニシテ之ヲ三乃至四回ニ分施ス即チ秋肥、春肥、夏肥(一乃至二回)ニシテ其ノ分施ノ割合ハ

秋肥 三割 春肥 三割 夏肥(晩芽ヲ摘採セザル地方)

秋肥 二割五分 春肥 三割 夏肥第一回 二割五分 第二回 二割(晩芽ヲ摘採スル地方)

ヲ適當ト思惟スルモ實際當業者ノ用法區々ニシテ或ハ秋肥ニ重キヲ置キ或ハ春肥ニ重キヲ置キ或ハ其ノ何レカラ全然行ハザル地方スラアリ又夏肥ヲ輕ンズル地方アル等夫々地方ノ慣習等ニヨリ一定セズ寒肥ハ本縣ニ於テハ一般ニ行ハル、トコロ少ク時ニ下肥ヲ茶園ニ施スモノアルニ過ギザルナリ施肥ノ時期ト肥料種類トノ關係ニ付テハ之亦必シモ一定セルニアラザルモ概シテ秋肥ニハ魚粕ヲ重用シ春肥ニハ茶種油粕ヲ重用シ夏肥ニハ大豆粕及硫酸アンモニアヲ重用スルノ傾アリ然シ近來高價ナル鯨粕、茶種粕ノ使用漸次減退シ之ニ代ル雜魚粕、雜油粕及硫酸アンモニアノ使用増加シツ、アルガ如シ各肥料ノ配合及其ノ施肥期トノ關係ニ付テハ更ニ複雑ナルモノアリテ一概ニ之ヲ記ス能ハズ故ニ茲ニ本縣立農事試驗場茶葉部ニ於ケル標準肥料ヲ示シ一ノ參考ニ供セントス

農事試驗場茶葉部標準施肥量 (但反當二百五十貫收穫茶園一段步當)

施肥期	種類	施肥量	室	所	含	三	要	素	量	里
九 月 中 旬	大豆 粕	一〇、〇〇〇	六八〇	一六〇	一八〇					
	鯨 粕	一〇、〇〇〇	九五〇	五〇〇	七〇					
	硫酸アンモニア	四、〇〇〇	八〇〇							
	過磷酸石灰	五、〇〇〇		七五〇						
	硫酸加里	三、〇〇〇								
	計	三二、〇〇〇	二、四三〇	一、四一〇	一、六九〇					
	大豆 粕	一〇、〇〇〇	六八〇	一六〇	一八〇					
	油 粕	一〇、〇〇〇	五二〇	一二〇						
	硫酸アンモニア	三、五〇〇	七〇〇							
	過磷酸石灰	五、〇〇〇		七五〇						
硫酸加里	三、〇〇〇									
計	三〇、五〇〇	一、九〇〇	一、〇三〇	一、二七〇						
三 月 中 旬	大豆 粕	一〇、〇〇〇	六八〇	一六〇	一八〇					
	硫酸アンモニア	六、〇〇〇	一、二〇〇							
	過磷酸石灰	三、〇〇〇		四五〇						
	硫酸加里	一、〇〇〇								
	計	二〇、〇〇〇	一、八八〇	三、六二〇	六六〇					
六 月 上 旬	硫酸アンモニア	八、〇〇〇	一、六〇〇							
	計	八、〇〇〇	一、六〇〇							
七 月 下 旬	硫酸アンモニア	八、〇〇〇	一、六〇〇							
	計	八、〇〇〇	一、六〇〇							

合計

八、〇〇〇
九〇、五〇〇

一、六〇〇
七、八一〇

三、〇五〇

三、六二〇

三 施肥ノ時期及方法

施肥ノ適期ハ 秋肥、九月中、下旬、春肥、三月上、中旬、第一回夏肥、一番茶終了直後、第二回夏肥、二番茶終了直後ナルガ右ノ適期ニ遅ルモノ少カラズ殊ニ秋期深耕ノ遅延ト關聯シ秋肥ノ甚シク遅ル、地方アリ縣立農事試験場茶業部ノ試験ニヨレバ秋肥ノ施與ガ適期ヲ後ル、一ヶ月毎ニ一番茶ノ收量一割宛ヲ減ズル結果ヲ示セリ春肥乃至夏肥ニ於テハ殊ニ次番茶トノ期間短ク其ノ遅施ハ次番茶ノ收穫ニ大ナル影響アルコト亦必然タリ施肥ハ中耕後ニ行ヒ先ヅ鋤ヲ以テ株ノ雨落下兩側(株仕立ナラバ周圍)ニ深サ二、三寸ノ淺溝ヲ掘リ其ノ中ニ肥料ヲ撒布覆土ス但畦間ノ空地狹キ茶園ニ於テハ畦間ニ肥料ヲ撒布シ之ヲ淺ク打込ム方法モ行ハル

四 間作綠肥

間作綠肥ヲ作付スルモノ至テ少シ當局ニ於テハ之ヲ獎勵シツ、アルモ實行者少キハ遺憾ナリ蓋シ綠肥ノ効果水田ニ於ケルガ如ク著カラザルニ因ルナランカ向後綠肥ノ使用法ニ就テノ研究甚ダ必要ナルヲ認ム茶園間作綠肥トシテ最成績良好ナルハ冬作綠肥トシテセラデラ及ルービン、夏作綠肥トシテ青刈大豆ナリ

五 敷草

敷草ハ從來一般ノ行フ處ニシテ殊ニ山間部ニ於テハ材料豊富ニシテ多量ニ施用シ以テ購入肥料ニ代ヘタリシガ近時材料各地漸次缺乏シ充分之ヲ行フヲ得ザルニ至レリ敷草ノ時期ハ八月乃至十月ニ行フモノ多シ用量ハ材料ノ豊否ニヨリ

支配セラル、モ段當三百貫乃至四百貫程度ヲ普通トス山草缺乏セル地方ニアリテハ稻藁ヲ以テ之ニ代フルモノアリ

改善ヲ要スル事項

- 一 各季ノ施肥ハ遲滯ナク其ノ適期ニ勵行スルコト
- 二 肥料ノ種類、選擇及其ノ配合ニ付更ニ一層ノ考慮ヲ加ヘ豫メ各肥料ノ成分價格ヲ計算シ最經濟ニシテ効果的ナル肥料ノ配合ヲ行フコト
- 三 肥料ノ選擇ニ當リテハ徒ラニ宣傳者ノ言ニ迷フコトナク新肥料ノ購入ハ之ニ先ダチ指導者ニ一應ノ相談ヲナスコト
- 四 肥料ノ共同購入及共同配合ヲ勵行スルコト
- 五 自給肥料ノ使用ヲ多カラシムルコト
- 六 差支ナキ限り間作綠肥ヲ栽培スルコト
- 七 敷草ハ勉メテ之ヲ行ヒ若シ材料ナキ場合ハ藁屑其ノ他稿稈類ヲ以テ之ニ代用スルコト
- 八 敷草ハ二番茶終了後及秋肥後ノ二回ニ行フヲ理想的トスルモ若シ一回ナラバ秋肥後直ニ行フヲ可トス刈草ヲ圃場ニ運搬シタル儘冬期迄放置シ居ルモノアリ怠慢甚シ改ムベキコト、ス

第八 摘採

一 摘採ノ時期及回数

本縣ニ於ケル摘採ノ時期及回数ヲ地方別ニ示セバ大略左ノ如シ

地 方	駿 東 郡		富 士 郡		庵 原 郡		安 倍 郡		志 太 郡		榛 原 郡		小 笠 郡		周 智 郡	
	北 部	南 部	北 部	南 部	北 部	南 部	北 部	南 部	北 部	南 部	北 部	南 部	北 部	南 部	北 部	南 部
一番茶時期	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬	五月 中下旬
二番茶時期	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬	七月 中旬
三番茶時期	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬	八月 中旬
四番茶時期																
年摘採回数	三回	一回	三回	三回	二回	二回	二回	二回	二回	二回	二回	二回	二回	二回	二回	二回

地 方	磐 田 郡		濱 名 郡		引 佐 郡	
	北 部	南 部	北 部	南 部	北 部	南 部
一番茶時期	五月 上中旬	五月 上中旬	五月 上中旬	五月 上中旬	五月 上中旬	五月 上中旬
二番茶時期	六月 下旬	六月 下旬	六月 下旬	六月 下旬	六月 下旬	六月 下旬
三番茶時期	八月 上中旬	八月 上中旬	八月 上中旬	八月 上中旬	八月 上中旬	八月 上中旬
四番茶時期	九月中下旬	九月中下旬	九月中下旬	九月中下旬	九月中下旬	九月中下旬
年摘採回数	三回	二回	三回	三回	三回	三回

備考 右ハ一般ヲ通ジテノ盛期ヲ示セルモノニシテ右同一区域内ニ於テモ地方ニヨリ多少ノ早晚アリ例ヘバ安倍志太、小笠、榛原各郡南部區域ニ於テモ海岸地方ハ最モ着手早ク一番茶ハ四月下旬ヨリ五月上旬、二番茶ハ六月上旬ヨリ中旬、三番茶ハ七月中旬ヨリ下旬ヲ盛期トスル處アルガ如シ

手摘ノ比較的盛ナルハ志太郡及周智郡ニシテ其ノ他ノ各郡ニ於テモ北部ニ於テハ相當手摘行ハレ殊ニ山間地方ハ殆ド皆手摘ト云フモ可ナリ今各郡組合ヨリノ報告ニ徴シ手摘、缺摘ノ割合ヲ示セバ左ノ如シ

組 合 管 内	手 摘		缺 摘		備 考
	摘 取 率	摘 取 率	摘 取 率	摘 取 率	
安倍郡及静岡市	三〇%	七〇%	九五%	七〇%	一般ニ摘採入念ナリ、 手摘ハ北部ニ比較的多シ 川根地方ハ殆ド手摘
庵原郡	八五%	一五%	九五%	七〇%	
志太郡	三五%	七〇%	九五%	七〇%	
小笠郡	三五%	七〇%	九五%	七〇%	

周智郡	六〇	四〇	手摘ハ近年再ビ増加ノ傾向ニアリ
磐田郡	四〇	六〇	手摘ハ一番茶六割、二番茶四割、三番茶三割
濱名郡	一〇	九〇	管内二、三段歩ヲ除クノ外全部手摘
引佐郡	一〇	九〇	一番茶手摘四割強、二番以降九割以上
富士郡	二五	七五	手摘手摘ト雖一般ニ粗放ナル方法ナリ
駿東郡	一〇	九〇	

三 缺 摘

缺摘ハ既ニ全ク普及シ最近ハ却テ手摘稍復活ノ徴アリ之レ缺摘ノ缺點タル嫩芽摘ノ不可能、芽揃不同、木莖古葉ノ混入ノ爲上級茶ノ製造ニ適セザルト他面自營自製及手揉製茶ノ復活ニ因由セルモノトス然シ全體ヨリ見レバ手摘ノ復活ハ極テ微々タルモノニシテ大勢ニ影響スル處ナシ

改善ヲ要スル事項

- 一 摘採期ヲ一般ニ今少シ早ムルコト
- 二 摘採缺ノ改善
- 三 葉賣經營者モ手揉設備ヲ設ケ一部早摘ヲ行ヒ盛期前一週間乃至十日間ハ手揉製造ヲ行フコト(主トシテ一番茶)
- 四 四番茶ノ摘採ハ樹勢旺盛ナル茶園ニ限り且極テ淺摘スルコト(一般ニ株面ナラシ程度ヲ可トス)

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

一 病 害

茶白星病 最モ發病多キハ四、五、六月ノ期ニシテ三斗式又ハ三斗五升式石灰半量ボルドー液ヲ撒布ス

茶赤葉枯病 發病盛ナルハ六月中旬乃至七月中旬及十月、十一月ノ二期ニシテ之ガ豫防トシテ二、三月頃五月下旬及十月、十一月頃年内三回ノ三斗式又ハ三斗五升式石灰ボルドー液ヲ撒布ス

茶餅病及白黴病(網燒病) 何レモ九月上旬ヨリ十一月中旬ニ亘リ發病多ク三斗五升式石灰ボルドー液ノ撒布ニヨリ豫防スルコトヲ得

白紋羽病 該病ハ各地方ノ茶園ニ點々發病スルヲ認ム一株ノ該病ニ侵サル、ヤ逐次隣接茶樹ニ傳染發芽不良トナリ遂ニ枯死スルニ至ル之ガ驅除豫防ハ最モ困難トスル處ニシテ病土ノ燒却殺菌法又ハ生石灰乳、ホルマリン、石灰硫黃合劑ノ濃厚ナルモノヲ撒布シ土壤消毒ヲ行フ

二 蟲 害

小綠横道 成蟲ニテ越年シ四月上旬産卵次デ孵化シ再後十月中旬迄數回ノ發生ヲ營ミ最モ被害甚シキ時期ハ二番茶及三番茶期トス之ガ驅除劑トシテ一般ニ使用セラレツ、アルハ除蟲菊石鹼液、六液、デリス劑、デリス乳劑トス

茶姑蠶 年二回ノ發生ヲ營ミ卵態ニテ越年シ五月上旬第一回ノ發生ヲナシ八月上旬第二回ノ發生ヲ見ル被害甚ダシキ
ハ一化性ヨリモ寧ロ二化性ニ於テ大ナリ各地方共多少ノ被害アルモ最モ被害甚シキ地方ハ駿東郡及富士郡ノ富士山
麓地帯及濱名郡三方ヶ原ナリトス之ガ驅除劑ハ除蟲菊石鹼液又ハ六液、デリス劑ヲ撒布スルヲ可トス

茶枝尺蠖 幼蟲態ニテ越年シ五月蛹化次デ成蟲トナリ六月中旬産卵シ六月下旬乃至七月上旬孵化ス被害激甚ナルハ七

八月ノ頃ナリ該蟲ノ被害特ニ甚シキハ安倍郡有度村、静岡市池田附近ニシテ茶葉ヲ喰害スルノミナラズ樹皮モ亦喰
害サレ遂ニ全園ヲ枯死セシメタルコトアリ之ガ驅除トシテハ五月中旬乃至六月上旬、七月下旬乃至八月上旬誘蛾燈
點火ヲ行ヒ尙幼蟲發生期タル六月下旬乃至七月上旬、八月下旬及十月中、下旬ノ頃除蟲菊石鹼液又ハ六液ヲ撒布ス
ルヲ可トス

茶苦瓜蟲 年二回ノ發生ニシテ第一回ハ七月中旬、第二回ハ九月下旬ニシテ何レモ葉裏ニ棲息シテ茶葉ヲ喰害ス該蟲

ハ静岡縣牧之原ノ特殊害蟲ニシテ最モ被害甚シキハ榛原郡五和村、牛尾原同金谷原及初倉村矢口原ノ地域トス而シ
テ週期的發生ヲ行ヒ他地方ニハ之ガ發生ヲ認メズ該蟲ノ驅除劑トシテ廣ク使用セラレツ、アルハ除蟲菊加用石鹼液
ナリトス

茶大葉捲蟲及茶青葉捲蟲 何レモ幼蟲態ニテ越年シ一番茶ノ末期即チ五月下旬ヨリ九月中旬迄絶エズ成蟲、幼蟲共ニ

發生ヲ認ム故ニ之ガ驅除トシテハ誘蛾燈點火ヲ行ヒ成蟲ヲ誘殺スルト共ニ除蟲菊加用石鹼液ヲ以テ藥液ノ蟲體ニ附
着スル様叮嚀ニ且強力噴霧器ヲ使用シ撒布スルヲ可トス

赤壁蝨及銹壁蝨 何レモ成蟲ニテ越年シ四月上旬産卵再後十月中旬迄十二、三回ノ發生ヲ行ヒ茶芽ノ養液ヲ吸收シ被
害甚シキ時ハ落葉セシムルコトアリ該蟲ノ驅除トシテハ石灰硫黃合劑ヲ撒布スルヲ最モ有効ト認ムルモ該劑ハ其ノ

時期ニ注意スルニ非ラザレバ藥害及製茶ニ異臭ヲ附スル憂アリ故ニ摘採期ニ近ヅキタル場合ハデリス劑ヲ撒布シ之
ガ驅除ヲ行フ

三 其ノ他ノ災害

霜ハ相當甚大ナル被害ヲ與フルモノニシテ四月上、中旬頃ノ氣溫低下シ晴天無風ノ場合ノ如キ最モ霜害ノ恐レアリ從
來霜害ニ對シテハ各地共之ガ豫防法ニ苦心スルモ適當ナル方法ナク僅ニ藁若ハ菰類ヲ茶株面ニ覆フカ又ハ燻煙ヲ行フ
ニ過ギス燻煙法ノ如キモ一部落又ハ一集團地舉ツテ實施セバ必シモ効果ナキニハ非ラザルモ之ガ實行ニ幾多ノ困難ノ
伴フモノトス

霜害後ノ處置トシテハ再發芽ヲ促進スル爲一般ニ速効性肥料ヲ施用シ被害激甚ナル場合ハ被害部ヲ剪除スルヲ可トス
改善ヲ要スル事項 害蟲及病蟲害共之ヲ未然ニ防除スルハ最モ緊要ナルコトナルモ一般ニ被害甚シキニ至リテ始メ

テ驅除スルヲ普通トス茶姑蠶、茶苦瓜蟲ノ如キ發生ノ當初ニ於テ驅除ヲ行ヘバ經費勞力共僅少ニテ効果ヲ擧ゲ得
ラル、モ相當被害ヲ認ムルニ至リテ驅除ヲ行フガ如キ或ハ害蟲ノ種類ト藥液ノ濃度撒布ノ時期等ヲ誤リ却ツテ茶
樹ヲ損傷スルコトハ往々見ル所ナリ故ニ左記事項ハ特ニ改善スベキ要點ナリト認ム

- 一 病害、蟲害共未然ニ防除スル様努ムルコト
- 二 發生ノ當初ニ於テ丁寧ニ驅除スルコト
- 三 藥液ノ選定ニ注意シ濃度及撒布ノ時期ヲ誤ラザルコト
- 四 藥劑ノ共同調製及之ガ撒布ハ共力一致行フコト

第十 樹勢更新法

樹勢ノ更新ハ專ラ臺切法ニ依ル其ノ時期ハ一番茶直後ヲ普通トス用具ハ臺切鎌ヲ用ヒ地際ニ於テ株幹ヲ内側ヨリ外方ニ斜ニ削ギ切ル臺切後切口ヲ燒クコトハ良法ナルモ一般ニ行フモノナシ臺切セル茶株ハ約一ヶ月ニテ萌芽ヲ始メ年内ニハ一尺乃至一尺五寸ノ伸育ヲナス之ガ仕立方ハ翌年一番茶ニ於テ頂部ヲ拾ヒ摘シ豫定樹高ノ三分ノ一程度ニテ前述ノ基本剪枝ヲ行フ(大仕立ニ於テハ當年モ其ノ儘トシ翌年之ヲ行フ)爾後ノ取扱ハ第五項ノ仕立法ニ準ズルモノトス臺切更新後成園ニ復スル時期ハ培養ノ如何ニヨリ遅速アルモ大體ニ於テ小仕立ニテハ五、六年中仕立ニテハ十年大仕立ニテハ十五年内外ヲ要スベシ

右ハ現在一般ニ行ハル、更新法ナルモ其ノ時機如何ニヨリテハ必シモ臺切ヲ要セズ高切法ニヨリ充分樹勢ノ更新ヲ遂ゲ得ベシ即チ多クノ當業者ハ其ノ時機ヲ失シ遂ニ臺切ノ已ムナキニ至リテ始メテ其ノ更新ヲ考慮スルヲ常トスルモノナルガ其レ以前未ダ甚シク樹勢ノ衰弱ヲ見ザル時期ニ於テハ高切ニヨリ多クノ場合其ノ目的ヲ達シ得ルモノナリ高切ノ部位ハ地上約一尺ノ程度ニシテ成ルベク分枝點ノ直上ヲ撰ビ銳利頑丈ナル剪枝鋏ヲ以テ水平ニ幹枝ヲ切斷スルモノトス時期ハ一番茶直後ヲ適期トシ之ニ後ル、程成績ハ不良ナリ高切セル茶株ハ一ヶ月内外ニテ萌芽シ來リ年内ニハ多數ノ強勢ナル新梢ニヨリ全株ヲ蔽ハルベシ此ノ方法ニヨルトキハ原狀ニ復スルコト極テ早く且最初ヨリ相當ノ收穫ヲ舉ゲ其ノ利益多大ナリ

改善ヲ要スル事項

- 一 常ニ樹勢ニ注意シ時期ヲ誤ラズ高切法ヲ行フコト

二 臺切ヲ行フ場合モ甚シク樹勢ノ衰弱セザル内ニ之ヲ行フコト
 三 甚シク樹勢衰弱シ一番茶ノ收穫多キヲ望ム能ハザル場合ハ三月下旬臺切ヲ行フコト
 四 更新後ノ萌芽ニ對シテハ病蟲害ノ防除ヲ勵行シ且肥培管理ヲ懇切ナラシムルコト
 五 地上部ノ更新ト同時ニ深堀ヲ行ヒ地下部モ共ニ更新スルヲ可ト思惟ス

三 重 縣

第一 採種ノ基種

一 採種ノ時期

十一月中旬乃至下旬

二 採種法及採種後ノ處理

外皮破レ將ニ種子ガ落下セントスルモノヲ採種シ剝皮スルカ又落下直後ニ拾集シ風乾貯藏ス

第二 種子ノ貯藏

春播スルモノハ大部分米俵、叭、桶等ニ入レ屋内ニ貯藏スレドモ中ニハ傾斜地ニ横穴ヲ堀リ埋藏スルモノアリ

改善ヲ要スル事項 秋播ハ貯藏ノ必要ナキモ春播ハ過濕、過乾ニ失セザル埋藏法ニ依リ翌春迄貯藏スルコト

埋藏法ハ雨水ノ浸入セザル傾斜地ヲ選ビ深サ二尺内外ヲ掘リ之ニ砂ト種子トヲ交互ニ積重ネ上部ニ土ヲ盛り置ク又種子ヲ俵ニ入レ傾斜地ニ埋藏スルカ又ハ俵ニ詰メ屋内ニ置ク場合ニハ過濕、過乾ニ失セザル様注意スルコト

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

近年ハ新開地ニ茶園ヲ開設スルモノ少ク多クハ古畑、桑園等ヲ深打開墾シ適當ナル作條ノ方向ヲ決定シテ整地ヲ行フヲ普通トス尙近年新植スルモノニアリテハ荒廢桑園ヲ茶園ニ改ムルニ當リ桑ノ畦間ヲ深耕整地シ茶種ヲ播下シ以テ茶園ヲ造成スルモノアリ此ノ場合下種後四、五年ノ間ニ順次桑樹ヲ拔棄ス

改善ヲ要スル事項 成ルベク新開地ニ茶園ヲ開設スルコト將來純茶園ヲ形成スル目的ヲ以テ出發スルコト

二 播種時ノ基肥

北伊勢地方ハ金肥トシテハ大豆粕、過燐酸石灰等自給肥料トシテハ腐熟セル堆肥、厩肥、下肥、落葉等ヲ多少ニ拘ハラズ施用スレドモ其ノ他ノ地方(南伊勢、伊賀、志摩、紀伊地方)ハ稀ニ腐熟セル堆肥、下肥等ヲ施用スルモノアレドモ殆ド施肥セザルヲ普通トス

改善ヲ要スル事項 配合肥料ノ外腐熟セル堆肥、厩肥、下肥等ノ自給肥料ヲ施用スルコト

三 播種期

殆ド春播(北伊勢地方ハ自二月下旬至三月下旬其ノ他ノ地方ハ自三月中旬至四月上旬)ナレドモ十一月、二月ノ候播下スルモノモアリ

四 播種法

種子ノ豫措 播種ニ際シテハ選種ヲ行ハズ發芽ヲ促進シ且發芽歩合ヲ良好ナラシムル爲數日間ノ浸水ヲナスモノアレドモ一般ニハ何等ノ措置ヲナサズ

改善ヲ要スル事項

- 一 下種ニ先立チ種子ヲ點檢シ不良種子ハ除去スルコト
- 二 種子或ハ土地方過度ニ乾燥セル場合ハ發芽ヲ促進シ且發芽歩合ヲ良好ナラシムル爲ニ二、三日間浸水シ吸水セシメ下種スルコト

播種量 畦幅五尺内外ニテ反當四、五斗ヲ普通トシ厚播スルモノハ五、六斗ヲ播下ス近年稍厚播スル傾向アリ

畦幅 畦ノ中心ヨリ中心迄五尺内外

播幅 一條播ノ場合六寸内外、二條播ノ場合四寸内外

畦ノ方向 地形ニ依リ一定セザルモ大體ニ於テ平坦地ナラバ南北畦ヲ傾斜地ナラバ斜面ニ對シテ横畦(直角)トナス

播種ノ方式方法及播種後ノ管理 殆ド條播ニシテ株播スルモノハ極テ少シ條播ハ一條播多ク二條播ヲナスモノモアリ

種子ハ作條一面ニ撒播シ一寸内外ノ覆土ヲナシ其上ニ切藁、乾草、糠殼等ヲ薄ク擴ゲ覆土ノミニテ被覆物ヲナサマルモノモアリ

改善ヲ要スル事項 覆土上ニハ旱害、雜草ノ繁茂ヲ防止スル爲ニ被覆物ヲ擴ゲ被覆物ハ發芽甲析前ニハ之ヲ取除キ

畦ノ兩側ニ敷込ム野鼠、モグラノ被害アル地方ハ極力防除ニ努ムルコト

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

北伊勢地方ハ其ノ他ノ地方(南伊勢、伊賀、志摩、紀伊地方)ニ比スレバ概シテ肥培管理懇切ナリ。肥培管理懇切ナルモノハ發芽後根際ニ乾草、藁等ヲ敷込ミ害蟲ノ驅除ニ努メ中耕除草ヲナシ腐熟セル下肥ヲ施用スルモノアレドモ多クハ肥培管理懇切ナラズ放任的ノモノ多シ而シテ一般ニ各種主トシテ蔬菜ノ間作行ハル

改善ヲ要スル事項 當年ニ於ケル肥培管理ノ如何ハ其ノ後ノ生育ニ至大ノ影響ヲ及ボスモノナレバ努メテ周列ヲ期セザル可カラズ即チ發芽シ初ムレバ早害ヲ防グ爲根際ニ敷草ヲナシ發芽シ終ルヲ待チテ除草、中耕ヲナシ追肥トシテ腐熟セル下肥或ハ其ノ他ノ速効性肥料ヲ施用ス九月第二回ノ除草、中耕施肥ヲナシ秋芽ノ伸育ヲ促シ根部ノ充實ヲ圖リ秋季ニ至リテ土寄ヲ行ヒ敷草ヲナシ防寒ノ備ヲナスコト他ノ間作ヲナサル場合ニハ優性ナル綠肥ヲ栽培シ地力ノ増進ヲ圖ルコト

二 發芽第二年ノ肥培管理

略前年ト同様ナルモ中ニハ秋期ノ基肥トシテ堆肥、大豆粕、油粕等ヲ施用シ密生セル個所ハ間作シ缺損セル個所ハ補植スルモノアリ

改善ヲ要スル事項 管理ハ略前年ト同様ナルモ今期ニ於ケル生育ヲ良好ナラシムル爲施肥量、敷草ヲ増施スルコト

三 發芽第三年ノ肥培管理

略前年ト同様ナルモ肥培管理周到ニシテ生育良好ナル茶園ハ樹型ヲ造ル爲一番茶拾摘後地上一尺内外ノ所ニテ水平ニ剪枝ス此ノ場合ニ番茶ハ摘採セズ尙桑園中ニ播種シタルモノハ本年頃ヨリ桑樹ヲ拔棄ス

改善ヲ要スル事項 管理ハ前年ニ準ズベキモ春肥(三月下旬)夏肥(六月中旬)秋肥(九月中旬)ハ除草、中耕ト同時ニ自給肥料ヲ主肥トシ補肥トシテ大豆粕、油粕、過磷酸石灰、硫酸加里等ノ配合肥料ヲ施用スルコト肥培管理周到ニシテ生育良好ナル茶園ハ樹型ヲ造ル基礎的作業トシテ一番茶拾摘後地上六、七寸ノ所ニテ水平剪枝スルコト

四 發芽第四年ノ肥培管理

肥培管理ハ略前年ト同様ナルモ生育不良ニテ前年ニ於テ樹型ヲ造ル爲ノ剪枝ヲナサルモノハ本年一番茶後行フ前年剪枝ヲ行ヒタルモノハ本年一番茶後或ハ二番茶後前年ノ剪枝面ヨリ三寸内外高ク剪枝ス

改善ヲ要スル事項 肥培管理ハ前年ニ準ズベキモ特ニ樹型ヲ造ルコトニ留意シ上伸勢力ヲ抑制シ株張ヲ良好ナラシムル様剪枝スルコト

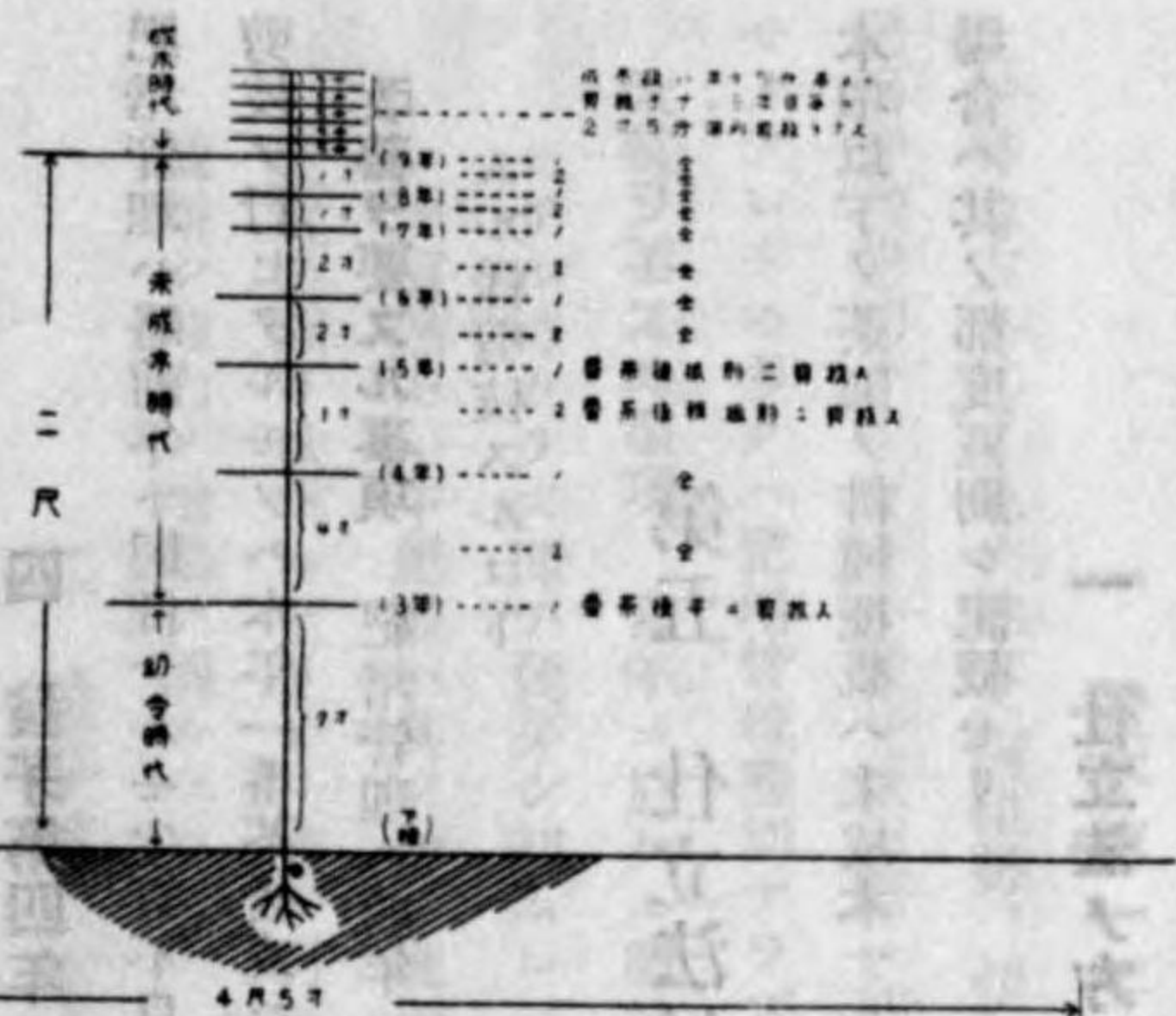
第五 仕立法並剪枝

本項以下ノ茶園ノ耕種梗概ハ未成木ナルト成木ナルトニ拘ラズ殆ド異點ヲ認メザルヲ以テ區別シテ記載セズ異點アル場合ハ其ノ都度區別シ記載セリ

一 仕立法ノ方式及方法

北伊勢地方 仕立ノ方式ハ殆ド中仕立(樹高二尺五寸内外)ノ畦作ナレドモ株作ヲナスモノモアリ仕立ノ方法ハ播種後三、四年ニシテ一番茶摘採後地上一尺内外ノ所ニテ枝梢ヲ剪除シ其ノ後ハ一番茶或ハ二番茶後年々二寸内外高ク剪

枝シ播種後八年乃至十年ニシテ樹高二尺内外、株張四、五尺内外ノ半圓形ニ仕立ツ成木後八年々一番茶或ハ二番茶後若干高メテ剪枝ヲナシ數年或ハ拾數年毎ニ深刈ヲ行フカ又ハ數拾年毎ニ臺刈ヲ行ヒテ樹勢ノ更新ヲナス



標準仕立法

南伊勢ノ山間部 仕立ノ方式ハ殆ド高仕立(樹高二尺以上)ノ株作ニシテ畦作ノモノ少ク殆ド裾張不良且摘採面粗糲ナル半剪枝園ニシテ放任仕立ナリ近年茶園ヲ新植セルモノハ株作ヲナスモノナク畦作ナリ又從來ノ高仕立モ漸次中仕立ニ改ムル傾向ニアリ仕立ノ方法ハ播種後四、五年ニシテ樹形ヲ造ル基礎的作業トシテ一番茶或ハ二番茶摘採後地上一尺二、三寸ノ處ニテ水平ニ剪枝ス爾後ハ半放任状態ニテ年々或ハ隔年ニ一番茶或ハ二番茶後上伸勢力ヲ抑制スル爲剪枝ヲ行フ程度ニテ大方ノ成木園トナレバ年一回又ハ隔年ニ剪枝ヲ行フ老衰セル成木茶園ハ數年ニ一回深刈又ハ臺刈ヲ行ヒテ大體ノ樹形ヲ保整シ兼テ樹勢ノ更新ヲ圖ル

改善ヲ要スル事項 將來茶園ヲ仕立テントスルモノハ畦作ニスルハ勿論在來ノ成木茶園ニシテ株作ノモノハ漸次畦作ニ改メ樹高高キニ過グルモノハ深刈又ハ臺刈ヲ行ヒテ樹高二尺内外ノ中仕立ニスルコト其ノ他改善スベキ點ハ上圖ノ標準仕立法ニ準據スルコト

二 手摘茶園ノ剪枝

一番茶或ハ二番茶後行フ

三 鉄摘茶園ノ剪枝

手摘茶園ノ剪枝ト大差ナキモ一番茶ヨリ鉄摘ヲナスモノハ株均シヲナス爲秋季或ハ春季發芽前徒長芽ヲ剪除ス鉄摘ヲ行フハ三重、鈴鹿兩郡ノ一部ニ限ラレ他ノ地方ハ殆ド手摘ナリ

第六 耕耘及除草

一 浅 耕

熱心ナル茶園經營者ハ春彼岸頃及各番茶後行フ一般ニハ春彼岸頃又ハ一番茶後除草ヲ兼ネ年一、二回行フカ又ハ他作物ノ中耕施肥等ノ都度之ヲ行フ

改善ヲ要スル事項 浅耕ハ左記ニ準據スルコト

時期及方法 第一回ハ春季發芽前三本鉄ヲ以テ畦間ヲ深サ三、四寸ニ打起シ上下土ヲ反轉シ其ノ儘トナシ粉碎セズ第二回ハ一番茶摘採後摘採ニヨリテ踏ミ固メラレタル畦間ヲ打起ス第三回ハ二番茶摘採後摘採ニヨリテ踏ミ固メラレタル畦間ヲ浅ク打起シ旱魃ヲ防グ爲根際ニ敷草ヲナス

二 元出及元寄

鈴鹿郡ノ一部ヲ除クノ外殆ド行ハズ

改善ヲ要スル事項 茶樹ノ旱害ヲ防止スル爲ニ番茶後元寄ヲナシ春季淺耕ノ際元出スルコト

三 深出及元耕

十、十一月ノ候行フ茶園ノ間作トシテ蒔蕪ヲ栽培スル地方ハ蒔蕪玉ノ採取ヲ兼テ十月之ヲ行フ

改善ヲ要スル事項 深耕ハ秋彼岸前後(九月中、下旬)枝下畦間全部ヲ深サ七、八寸ニ打起シ底土ヲ表面ニ露出セシムルコト

ムルコト

四 除草

年數回耕耘、施肥ノ際兼行スルカ又ハ特ニ除草ヲノミ行フ

第七 肥料及敷草

一 肥料ノ種類

北伊勢地方 金肥トシテハ大豆粕、油粕、鯨粕、硫酸アンモニア、過磷酸石灰、自給肥料トシテハ堆肥、人糞尿、敷草、塵埃、鶏糞等

其ノ他ノ地方 純茶園ニアリテモ大豆粕、鯨粕、油粕、硫酸アンモニア等ヲ施用スルモノハ稀有ニシテ肥培比較的可

寧ナルモノニアリテモ堆肥、人糞尿等ヲ施用スルニ過ギズ一般ハ敷草、塵埃等ヲ施用スル程度ヲ以テ普通トシ混植

茶園、畦畔茶園ノ多クハ他作物ノ肥料分ノ若干ヲ吸收スル状態ニアルヲ普通トス

改善ヲ要スル事項 土性改良上有効且必要ナル自給肥料ヲ主肥トシ補肥トシテハ金肥ヲ施用スルコト

二 施肥量 (種類別、施肥期別數量及所含三要素量)

前記ノ如キ状態ニテ肥料ノ種類ノ如キモ種々雜多ニシテ種類別、施肥期別數量及所含三要素量ノ慣行的標準ヲ明示スルコトハ至難ナルヲ以テ記載セズ參考トシテ施肥期別三要素量ヲ比較的多施スルモノ少施スルモノニ大別シ記載ス

比較的多施スルモノ (反當施用量)

施肥期	所含三要素量		
	窒素	磷酸	加里
基肥(九、十月)	二、五〇〇(年內施用量ノ五割)	一、二〇〇(年內施用量ノ六割)	一、八〇〇(年內施用量ノ六割)
春肥(三、四月)	一、〇〇〇(同 二割)	四〇〇(同 二割)	三〇〇(同 一割)
夏肥(一番茶或ハ二番茶後)	五〇〇(同 一割)	二〇〇(同 一割)	三〇〇(同 一割)
敷草(夏季)	一、〇〇〇(同 二割)	二〇〇(同 一割)	六〇〇(同 二割)
計	五、〇〇〇(年內施用量)	二、〇〇〇(年內施用量)	三、〇〇〇(年內施用量)

比較の少施スルモノ (反當施用量)

施肥期	所含三要素量		
	窒素	磷酸	加里
春肥(三、四月)	六〇〇(年內施用量ノ二割)	三〇〇(年內施用量ノ三割)	二〇〇(年內施用量ノ一割)
敷草(初秋)	二、四〇〇(同 八割)	七〇〇(同 七割)	一、八〇〇(同 九割)

計 三、〇〇〇(年内施用量) 一、〇〇〇(年内施用量) 二、〇〇〇(年内施用量)

改善ヲ要スル事項 一、二、三番茶ヲ摘採スル地方ノ反當施用量ハ左記ニ準據スベキモ三番茶ヲ摘採セザル地方ハ

夏肥ハ廢シ二、三番茶ヲ摘採セザル地方ハ春肥、第二回基肥ハ若干減施シ第一回基肥ヲ増施スルコト

施肥期	所 含 三 要 素 量		
	窒 素	磷 素	加 里
基肥 第一回(九月下旬)	二、四〇〇(年内施用量)	七五〇(年内施用量)	七五〇(年内施用量)
基肥 第二回(中下旬)	一、二〇〇(同)	一、七五〇(同)	一、二五〇(同)
春肥(四月上旬)	六〇〇(同)	一	一
夏肥(七月中旬)	一、二〇〇(同)	一	一
數 草(七月)	六〇〇(同)	一	二
計	六、〇〇〇(年内施用量)	二、五〇〇(年内施用量)	二、五〇〇(年内施用量)

三 施肥ノ時期及方法

基肥(十、十一月)春肥(三、四月)夏肥(一番茶或ハ二番茶後)ハ根際ニ肥溝ヲ掘リ埋施ス敷草(夏季)ハ畦間一面ニ敷込

四 間作綠肥

殆ド栽培セズ

改善ヲ要スル事項 地力ヲ増進スル爲未成木茶園ニハ倭性ナル綠肥(青刈大豆、セラデラ等)ヲ栽培スルコト

五 敷 草

一般ニ敷草(雜草、藁)ヲナス其ノ量ハ少キハ反當五十貫多キハ五百貫ニ及ブ

備考 雜草ハ乾草量ニテ算出セリ

第八 摘 採

一 摘採ノ時期及回数

摘採ノ時期 比較的摘採早キ平坦部及摘採遅キ山間部ノ平年ニ於ケル摘採時期ヲ示セバ左ノ如シ

番 茶 別	平 坦 部		山 間 部	
	普 通	早 場 所	普 通	遅 場 所
一 番 茶	至自 五月 二十五日	至自 五月 十五日	至自 六月 十五日	至自 六月 二十日
二 番 茶	至自 六月 二十日	至自 六月 二十五日	至自 七月 二十五日	至自 七月 十一日
三 番 茶	至自 八月 十五日	至自 八月 十三日	摘 採 せ ず	

志摩地方ノ早場所ハ四月十二日頃一番茶摘採ニ着手ス

摘採回数 一回(一番茶)摘採スルモノ

三割(茶園段別割合)

二回(一、二番茶)摘採スルモノ

四割

三回(一、二、三番茶)摘採スルモノ

三割

改善ヲ要スル事項 山間部ハ習慣上或ハ他ノ農業勞力トノ關係ニテ一番茶ノミ摘採スレドモ成ルベク二番茶モ摘採スルコト

二手 摘

殆下手摘トス

三 缺 摘

數年前迄ハ摘採勞銀ノ關係上相當缺摘普及セシガ近時ハ茶樹ノ生育狀態ト製茶品質ニ及ボス影響等ヨリシテ頓ニ減少シ三重、鈴鹿兩郡ノ一部ニ限ラレ他ノ地方ハ殆下缺摘ヲナサズ

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

病害ノ防除 熱心ナル茶業者ガ秋季或ハ春季石灰ボルト液ヲ撒布スル程度ニテ一般ニハ何等ノ防除手段ヲ講ゼズ

改善ヲ要スル事項 病害ニ罹リタルトキハ減收ヲ來スノミナラズ品質ニ至大ノ惡影響ヲ及ボスモノナレバ病菌ノ發生ヲ認メタルトキハ左記ニヨリ防除ニ努ムルコト

一 茶葉ノ病害 二月ヨリ六月迄ト九月ヨリ十一月ノ候ニ被害多ケレバ春秋二回石灰ボルト液ヲ撒布ス

二 枝幹ノ病害 二、三月ノ候濃厚ナル石灰ボルト液又ハ石灰硫黄合劑(一〇乃至一五倍)ニテ枝幹ヲ洗滌スルカ又ハ一番茶後臺刈ヲナシ焼却ス

三 根部ノ病害 二、三月ノ候石灰硫黄合劑、二硫化炭素、石灰粉、クロールピクリン等ヲ以テ土壤ヲ消毒シ被害樹ハ焼却ス尙附近ノ茶園ハ排水ノ設備ヲ施シ一齊ニ鍍入ヲ中止ス

害蟲ノ驅除 熱心ナル當業者ガ害蟲ノ被害ヲ認メ或ハ猖獗ヲ極ムルニ及ビテ驅除ヲ行フノミニテ一般ニ何等ノ手段ヲ講ゼザルヲ普通トス

改善ヲ要スル事項 發生ノ都度左記ニヨリ驅除スルコト

一 小綠浮塵子ノ驅除法 幼蟲ハ成蟲ニ比シ藥劑ニ對スル抵抗力極テ弱ク而モ幼稚ナル程此ノ傾向著ケレバ努メテ此ノ時代ニ左記藥劑ヲ茶葉ノ表裏ニ撒注スルコト

二 赤壁蝨ノ驅除法 三月中、下旬石灰硫黄合劑(ボーム比重一度)ヲ茶葉ノ表裏ニ附着スル様撒布ス幼齡茶樹ハ該蝨ノ被害多キヲ以テ六月下旬稀薄ナル藥液ヲ撒布スルコト

注意 本劑ハ惡臭藥劑ナルヲ以テ新芽ニ附着セザル様發芽前(摘採一ヶ月半前)ニ撒布シ摘採ニ當リテモ藥劑ノ附着セル古葉ノ混入セザル様注意スルコト

三 茶葉捲蟲ノ驅除法 現在適切ナル驅除法ナケレドモ左記藥劑ハ相當効果アリ三月中下旬、七月上旬ニフロライド液(フロライド四匁、水一斗)或ハ石鹼液(デリス石鹼十五匁、粉石鹼二十匁、水一斗)一番茶或ハ二番茶ニ發生多キトキハ摘採後刈込ヲナシ壓殺スルトキハ二番茶或ハ三番茶ノ發生ヲ少カラシム八月上旬ニ反當一、二個ノ誘蛾燈ヲ點燈シ産卵前ノ成蟲ヲ誘殺ス

- 四 茶蝨ノ驅除法 年二回(第一回ハ四月下旬乃至六月下旬、第二回ハ八月上旬乃至九月下旬)發生スレドモ幼蟲ノ幼齡ナル時代ニハ藥劑ニ對スル抵抗力極テ弱ク且群棲スルヲ以テ此ノ時代ニ左記藥劑ヲ撒布スルコト
- 除蟲菊加用石鹼液(除蟲菊粉二十匁、粉末石鹼二十匁、水一斗)
- 幼蟲ノ幼齡時代ハ朝晩ハ群棲スルヲ以テ石油ヲ點滴スレバ直ニ悉ク死滅ス
- 五 蓑蟲ノ驅除法 適當ナル驅除法ナキヲ以テ發生當時群棲スル幼蟲ヲ捕殺スルヨリ外ナシ
- 六 蚜蟲ノ驅除法 左記藥劑ヲ撒布ス
- 石鹼液(石鹼四十匁、水一斗)
- 七 介殼蟲類ノ驅除法 茶樹休眠期中ハ枝幹ニ石灰硫黃合劑(市販一〇乃至一五倍)ヲ幼蟲發生當時(六、七月)ハ松脂合劑又ハ石灰硫黃合劑(六〇倍)ヲ撒布ス

其ノ他ノ災害豫防

- 一 晚霜害ノ豫防 品質上進ヲ兼テ晚霜害ヲ豫防スルタメ藁覆、菰覆ヲナスモノアレドモ一般ニハ何等ノ措置ヲナササルヲ普通トス一部ノ熱心ナル茶業者ハ燻煙法ニヨリ豫防ス
- 改善ヲ要スル事項 現在適當ナル豫防法ナキモ相當ノ効果アル藁覆、菰覆、撒水、燻煙等ヲ行フコト
- 二 旱害及寒害ノ豫防 敷草ニヨリテ豫防ス

第十 樹勢更新法

臺刈(根刈)、中刈、抜切ノ三法トナス

臺刈法 本法ハ普通行ハル、樹勢更新法ニシテ管理粗放ニシテ樹勢ノ衰弱速ナル茶園ハ數年毎ニ比較的肥培管理ヲ丁寧ニシテ樹勢ノ衰弱遲キ茶園ハ拾數年或ハ數拾年毎ニ行フ

中刈法 樹勢ノ衰弱比較的少キ茶園ニ行ハルル樹勢更新法ナルモ餘リ行ハレズ

抜切法 南伊勢地方ノ一部ニ行ハルル樹勢更新法ニテ衰弱セル老幹ヲ數年毎ニ順次廻施抜切ルモノトス

改善ヲ要スル事項 從來ノ慣行の肥培管理仕立法ニテハ頻繁ナル臺刈若ハ抜切ノ方法ヲ執ラザルヲ得ザル理由アレドモ肥培管理ヲ改善懇切ニシ仕立法ヲ改ムルニ於テハ抜切ノ不必要ハ勿論樹勢更新法トシテノ主ナル臺刈ノ如キモ拾數年乃至數拾年ニテ行フ程度ヲ以テ經營上有利トス

滋賀縣

第一 採種

一 採種ノ時期

十月中旬乃至十一月中旬

二 採種法及採種後ノ處理

果皮開裂シテ自然ニ落下シタルモノノ内大粒ニシテ重キモノヲ選ビ拾ヒ集メ一日乃至二日間風乾ス

第二 種子ノ貯藏

前記風乾シタル種子ヲ箱、桶等ノ適當ナル容器ニ入レ屋内適宜ノ位置ニ貯藏ス

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

開墾 冬期ノ農閑ヲ選ビ伐木後大ナル根株ヲ堀起シ人力ニテ深サ七、八寸ノ荒起シヲナシ約三週間内外風乾シ然ル後草、竹、木根等ヲ土塊ヲ碎クト同時ニ熊手等ニテ振り出シ適宜ノ位置ニ集メ焼却ス
整地 三又鋤、鋤等ヲ用ヒ深サ一尺五、六寸ニ耕起シ更ニ細根ヲ拾ヒ整地ス此ノ時石灰反當六、七十貫ヲ撒布シテ整地スルモノモアリ

二 播種時ノ基肥

開墾地ニ直ニ播種スルモノニアリテハ間々反當十五、六貫ノ練搾粕ヲ施スモノアレドモ多クハ施肥セズ

三 播種期

凍害、獸害(鼠害)等ノ關係上秋播ハ殆ド行ハレズ主トシテ三月中旬ヨリ四月中旬ニ亙リ春播トス

四 播種法

種子ノ豫措 浸水二日乃至五日間行フモノアレドモ其ノ多クハ貯藏容器ヨリ取出シ直ニ播種ス

播種量 反當約三斗乃至四斗

畦幅 四尺乃至五尺

播幅 四寸五分乃至五寸(二畝幅)

畦ノ方向 地形及周圍ノ狀況ニ依リ一定セザレドモ區劃ノ短邊ニ添フモノ多シ

播種ノ方式方法及播種後ノ管理

播種ノ方式 從來ハ茶樹ノ仕立方法株作多キ爲株播(點播)輪播行ハレ又畦作多キ地ニ於テモ畦間廣キ(七尺乃至九尺)

二條播行ハレタルガ現在ニ於テハ條播トナシ畦間ヲ狹メ一條播ニス

播種方法 深サ二寸内外ノ作條ヲ切り豫メ用意シ置キタル種子ヲ播下シ覆土ヲナシ其ノ上ニ切藁、糞等ヲ撒布シ防

旱ニ供ス

播種後ノ管理 主トシテ除草ニ努メ發芽後ハ敷草ヲ茶樹ノ兩側ニ敷込ミ雜草ノ發生防止ト共ニ旱害ヲ防グニ供ス畦間

ニハ小豆等ヲ栽培シ主トシテ防旱ト共ニ空地ノ利用ニ留意ス

改善ヲ要スル事項 播種時ノ基肥施用者無キ状態ヲ改善シ堆肥、厩肥等ヲ施用セシムベキモノトス

第四 幼齡茶樹ノ肥培管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

施肥 發芽後油粕ノ粉末ヲ反當十貫内外ヲ降雨直後ニ敷草ノ下ニ撒布スルモノ腐熟人糞尿ヲ三、四倍ニ稀釋シタルモノヲ秋九月迄ニ數回施スモノ等アレドモ其ノ多クハ施肥セザルヲ普通トス

除草及耕耘 雜草ハ手ニテ抜き取り根際ヲ七、八寸隔タル處ハ淺耕ヲ兼ネ年數回行フ
 間作物 麥、小豆等ヲ收穫ヲ無視シテ栽培シ雜草ノ發生旱害ノ防止ニ供ス
 間引及除草 間引ハ密生セル部分ヲ降雨模様ノ時ニ行ヒ(劣品種淘汰ノ爲ニ行フモノハ殆ド無シ)株間ノ整理ヲ目的トス
 除草ニツキテハ最モ旱害ノ防除ニ注意シ病害蟲防除ハ著キ發生被害ヲ見ザルノ外行ハズ

二 發芽第二年ノ肥培管理

施肥 第一年ト略同様ナレドモ施肥スルモノニアリテハ其ノ施肥量ヲ稍増加ス
 摘心及間引 施肥シタルモノハ伸長著キ茶樹ノ心芽ヲ摘ミ捨テ分枝ヲ促ス剪定ノ如キ作業ヲ行フ施肥セザルモノハ其ノ儘放任シ置クモノトス間引ハ前年同様ノ心掛ニテ行フ
 除草及耕耘 根際ノモノハ手ニテ雜草ヲ抜き去リ淺耕ヲ兼ネタル除草ヲ數回行フ深耕ハ未ダ行ハズ
 敷草及除害 旱害ヲ防グ爲八月、下旬ニ於テ根際ニ刈草、稻藁等ヲ敷込ミ或ハ切藁(二、三寸ニ切斷シタルモノ)ヲ撒布ス病害蟲防除ハ前年同様ニシテ著キ發生被害ナキ限り行ハズ

三 發芽第三年ノ肥培管理

施肥 本年ヨリ始メテ反當十五、六貫乃至二十貫ノ油粕、糠搾粕等ノ粉末ヲ根際ニ撒布シ土ト混和施用スルモノ普通ニシテ更ニ夏季降雨少キ時期ニ於テ三、四倍ニ稀釋シタル人糞尿又ハ之ニ米糠、鶏糞等ヲ投入腐熟セシメタル薄キ水肥六、七百貫ヲ數回ニ亙リテ施スモノトス
 摘心及補植 伸長著ク勢力旺盛ナルモノハ一番茶ヲ摘採シ摘心ニ代ユ密生ノ部分ハ間引ヲ行ヒ生切レアル場合ニハ之ヲ以テ補植ス

ヲ以テ補植ス

除草及耕耘 夏季ノ雜草發生著キ時期ニ於テ一、二回一寸乃至二寸ノ除草ヲ兼ネ淺耕ヲナス敷草、敷藁等ヲナシタル

茶園ニ於テハ淺耕ヲ行ハズ而シテ秋(九月)若ハ八月中旬ノ比較的農閑ヲ利用シテ六、七寸ノ深耕ヲ行ヒ細根ヲ切ル

ト同時ニ土壤ヲ軟ク

除害及敷草 深耕セバ直ニ畦間ヲ地整シ防旱ノ爲反當約三百貫ノ敷草ヲ敷込ム病害蟲防除ハ前年ト同様著キ發生被害

ナキ限り行ハズ

間作物 施肥少ク樹勢貧弱ナル茶園ニノミ間作物トシテ前年同様ノ作物ヲ栽培ス

本縣ニアリテハ從來ヨリ氣候及習慣上第四、五、六年生迄ハ幼齡樹トシテ第三年ノ施肥管理方法ヲ繰返シ行フ

改善ヲ要スル事項

- 一 發芽第一年ヨリ幼齡樹間ノ初期ニ於テ施肥スルモノ殆ド無ク從テ幼齡樹トシテノ期間長キハ施肥ノ獎勵ニヨリ改善スベキナル點トス
- 二 間引ニ當リ集團淘汰ノ方法ニヨリ茶樹ノ品種ヲ選擇シ品種統一ヲ圖ラシムルヲ要ス

第五 仕立法並剪枝

一 未成木茶園

仕立法ノ方式及方法 條播ニ於テハ一條播、二條播ヲ問ハズ共ニ肩ノ稍張りタル半圓筒形ノ畦作トナス其ノ方法ハ第

四年(亦ハ第五、六年)ノ一番茶ヲ殆ド全部摘採シ地上約一尺五、六寸ニ於テ水平或ハ幾分形ヲ附シテ枝梢ヲ剪除シ
 二番茶以後ハ摘採セズ小枝ヲ分岐セシメ翌年又一番茶後ニ前年ノ切口ヨリ一、二寸高ク剪定シ第六年乃至第八年以
 後ハ二番茶摘採後ニ之ヲ繰返シ繼續シテ樹高約二尺一、二寸株張り三尺五、六寸乃至三尺七寸位ニ仕立ツルモノニ
 シテ成木茶樹トナリ求ムル樹高ノ五分ノ四内外ヲ發芽後ノ三、四年間ニ伸長剪除シ主幹トナシ分枝ハ高キ位置ヨリ
 密生セシメ裾下高キ樹形トス株作ニアリテハ主幹ノ剪定位置ハ畦作ト略同様ナレドモ支幹ヲ良ク發達セシメ馬蹄形
 ノ如ク形ヲ整ヘ仕立ツルモノトス

手摘茶園ノ剪枝 畦作株作ヲ問ハズ最初仕立中ノ三、四年間(發芽七、八年迄)ハ一番茶摘採直後剪枝ニテ前年切口
 ヨリ一、二寸位ツツ高ク形ヲ付スルヲ目的トシテ行ヒ以後ハ約二、三分位ツツ高位置ニテ剪枝シ發芽面ノ整齊ニ留
 意ス

缺摘茶園ノ剪枝 手摘茶園ニ於ケル剪枝ト略同様ナレドモ摘採面ヲ整一ナラシムル爲秋芽ノ伸長抽出シタルモノハ春
 彼岸前後(秋季十月上旬)ニモ行フコトアリ此ノ場合ハ番茶(晩茶)ノ賣行良好ニシテ刈落シノ價格良キ場合ナリニ於
 テ剪枝缺又ハ摘採缺ヲ用ヒテ剪除ス

二 成木茶樹

仕立法ノ方式及方法 一條播畦作ニ於テハ肩ノ張りタル樹高二尺内外株張り三尺七、八寸ノ裾枝ノ發達セザル半圓筒
 形トス二條播畦作ノ畦幅七尺以上モアルモノハ肩ノ張ラザル蒲鉾形トシ樹高三尺五寸乃至四尺ニシテ裾枝良ク發達
 シ株張り六尺五、六寸以上ノモノトス株作ニ於テハ馬蹄形ノ如キ高サ三尺五六、寸以上四尺五寸ニモ達スル仕立方
 式トナス其ノ方法ハ一條播、二條播ノ畦作ハ未成木茶樹ノ仕立方法ヲ延長シ毎年二番茶後ニ於テ剪枝缺ニ依リ前年

切口ト略同位置ヨリ刈落シ數年毎ニ稍深刈ヲナシ樹高ヲ維持セシムルモノナリ株作ニ於テハ未成木茶樹ノ期間更ニ
 長ク(畦作ハ八年内外株作ハ十二、三年間ヲ普通トス)主幹ヨリ分岐セル枝條ノ中央部(樹高ノ)ヨリ稍上ニ於テ分
 岐セシメ之ヲ主幹ト同様良ク充實發達セシメテ細枝ヲ密生セシム

手摘茶園ノ剪枝 一番茶後(管内甲賀郡大野村、土山町附近ハ二番茶後)直ニ剪枝缺ニヨリ前年切口ト同位置迄剪枝
 ス

缺摘茶園ノ剪枝 毎年二番茶摘採後ニ剪枝缺ニヨリ行フ者アレドモ多クハ隔年若ハ三、四年毎ニ深刈リヲナシ樹高ヲ
 維持セシム更ニ秋芽ノ伸長著ク(三番茶以後ハ摘採セズ)番(晩)茶ノ價格良キ時ハ秋十月上旬ニ於テ摘採缺ヲ用ヒ刈
 落シ然ラザル時ニ春彼岸前後ニ於テ秋芽ヲ刈リ發芽面ヲ整フ

改善ヲ要スル事項

一 未成木茶樹ニ於テ畦間ニ比シ樹高高ク從テ裾枝ノ發達セザル仕立方式ハ今後適宜ノ時期ニ於テ臺刈セシメ裾
 枝ヲ充分發達セシメタル肩ノ張り少キ蒲鉾形ト仕立替セシムベキナリ之ガ爲ニハ主幹剪定位置ヲ一尺内外トナ
 スベキモノトス

二 二番茶迄ノ摘採ナルガ故ニ剪枝ハ必ズ一番茶後ニ行ヒ二番茶ノ茶芽品位ヲ向上セシムベキコト
 三 缺摘茶園ニ於テ秋芽ノ剪除ヲ翌春行フハ之ヲ其ノ年ノ秋ニ於テ剪除セシメ以テ翌年一番茶ノ品位ヲ向上セシ
 メ肥料分ノ無効消費ヲ除クベシ

第六 耕耘及除草

一 未成木茶樹

淺耕 除草ヲ兼ネタル淺耕ハ年四回乃至五回行フヲ普通トスレドモ多クハ敷草アリテ耕耘出來ザルガ爲畦間ニ相當餘裕アル四、五年間トス其ノ時期ハ三月下旬、一番茶直後(六月中、下旬)、二番茶後(七月下旬)八月ノ四回又ハ九月中、下旬ニ更ニ一回行ヒ年五回トス

元出及元寄 殆ド行フモノナシ

深耕 秋基肥ノ時(九月乃至十一月)七、八寸ノ深サニ行フヲ普通トスレドモ朝宮地方ニ於テハ八月二番茶直後ニ行フ尙鋤掘リト稱スル深掘リハ三、四年毎ニ深サ一尺一、二寸ニ秋十一月行フモノナリ

除草 年四回乃至五回淺耕ト兼ネ行フモノナレドモ根際ノモノ及敷草アル茶園ハ手ニテ行フ

二 成木茶樹

淺耕 春彼岸前後、一番茶後、二番茶後ノ年三回一、二寸ニ除草ヲ兼ネ行フ敷草アル茶園ハ行ハズ

元出及元寄 殆ド行フモノナシ

深耕 年一回トシ九月ヨリ十一月ノ頃七、八寸ノ深サニ行フ此ノ時期ニ於テ農繁ノ爲行ヒ得ザルモノハ三月ニ於テ行フ尙深掘リハ鋤ヲ用ヒ十一月頃ニ於テ深サ一尺二、三寸ニ三、四年毎ニ行ヒ此ノ年ハ七、八寸ノ深耕ハ行ハズ

除草 年四回乃至五回ニシテ畦間ニ敷草アルモノハ手ニテ拔キ然ラザルモノハ淺耕ト兼ネ行フ普通春彼岸後一回一、二番茶後各一回八月一回ニシテ年五回ノモノハ更ニ秋彼岸頃ニ於テ一回除草ス

第七 肥料及敷草

一 未成木茶樹

肥料ノ種類 人糞尿、煉搾粕、菜種油粕、大豆粕等ヲ主ナルモノトシ之ニ過磷酸石灰又ハ骨粉等ヲ加用スルモノ煉搾粕ノ代用トシテ鱒粕、鯨粕等ヲ用フルモノ等アリ

施肥量 (種類別、施肥期別數量及所含三要素量)

種類	施肥期	數量	所含三要素量			摘要
			窒素	磷酸	加里	
煉搾粕	九月乃至十一月	二〇、〇〇〇	一、八七二	八五二	一四〇	水ニテ稀釋シタルモノニシテ所含三要素量ハ窒素〇・五五%、磷酸〇・一三%、加里〇・二七%トシテ其ノ三分ノ一量ヲ算出計上ス
過磷酸石灰	九月乃至十一月	四、〇〇〇	一、〇五〇	二二五	三〇〇	
大豆粕	三月乃至四月	一五、〇〇〇	五二六	二五三	一三〇	
菜種油粕	同	一〇、〇〇〇	八〇〇	一九五	四〇五	
硫酸アンモニア	六月上旬	四、〇〇〇	八二五	一九五	四〇五	
人糞尿	三月乃至五月	四五、〇〇〇	八二五	一九五	四〇五	
同	六月中旬	四五、〇〇〇	八二五	一九五	四〇五	
同	十二月乃至二月	四五、〇〇〇	六、七二三	二、五六五	一、七八五	
計	計					

備考 播種後七、八年生頃ノ茶樹施肥量ノ一例トス

施肥ノ時期及方法 發芽後五、六年迄ハ秋基肥トシテ九月乃至十一月ニ施シ春肥ハ三月乃至四月トス夏肥ハ施ス者殆

下無シ其ノ方法ハ敷草無キ茶園ニ於テハ茶樹兩雨落部位ニ一、二寸ノ作條ヲ切り施肥シ覆土ス敷草アルモノハ敷草ヲ畦ノ一方ニ取寄セ肥料ヲ撒布シテ鋤ニテ土ト混和シ敷草ヲ元ノ如ク敷込ミ置クモノトス人糞尿ノ如キ水肥ハ敷草ノ上ヨリ茶樹ノ兩側ニ施用ス

間作綠肥 五、六年生頃迄ノ畦間ニ餘裕アル時ハ青刈大豆ヲ夏作綠肥トシテ栽培スルモノモアレドモ多クハ栽培セズ

敷草 間敷ト稱シ八月中旬ヨリ九月中旬迄ニ反當四百貫乃至六百貫勿ラ敷込ム而シテ敷草ニ供スル物ハ竹笹、樹木ノ莖葉(栗、ホス(櫟ニ似タル樹木))山草等ナリ

二 成木茶樹

肥料ノ種類 人糞尿、鯨搾粕、菜種油粕、大豆粕等ヲ主ナルモノトシ鯨搾粕ノ代用トシテ鰯粕、鯨粕ヲ用フルモノ硫酸アンモニア、過磷酸石灰、鶏糞等ヲ加用スルモノ等アリ

施肥量 (種類別、施肥期別數量及所含三要素量)

種類	施肥期	數量	所含三要素量			摘
			窒素	磷酸	加里	
大豆	九月乃至十一月	二五、〇〇〇	一、七五〇	三七五	五〇〇	
鯨搾粕	同	二五、〇〇〇	二、三四〇	一、〇六五	一七五	
菜種油粕	二月	二〇、〇〇〇	一、〇五二	五〇六	二六〇	
未成木茶樹						

同	四月中旬	二〇、〇〇〇	一、〇五二	五〇六	二六〇	
人糞尿	一月	六〇〇、〇〇〇	一、一〇〇	二六〇	五四〇	水ニテ稀釋シタルモノニシテ所含三要素ヲ窒素〇・五五%、磷酸〇・一三%、加里〇・二七%トシテ其ノ三分ノ一ヲ計上ス
同	三月乃至四月	六〇〇、〇〇〇	一、一〇〇	二六〇	五四〇	
同	六月	六〇〇、〇〇〇	一、一〇〇	二六〇	五四〇	
計			九、四九四	三、二三二	二、八一五	

備考 十六、七年以上二十五年生頃迄ノ反當施用量ノ一例トス

施肥ノ時期及方法 秋ノ施肥ハ九月ヨリ十一月ニ亘リテ敷草ヲ畦間ノ一方ニ掻集メ茶樹兩側雨落部位ニ前記肥料ノ混合シタルモノヲ撒布シ鋤ニテ二、三寸ニ土ヲ堀リツツ混和シ敷草ヲ元ノ如ク敷込ミ置クモノニシテ春期施ス油粕モ

同方法ニ依ル人糞尿ハ腐熟セシメ茶樹ノ兩側方敷草ノ上ヨリ施用ス

間作綠肥 栽培セズ

敷草 間敷ト稱シ八月中旬ヨリ九月ニ於テ反當四百貫乃至六百貫ヲ敷草ス敷草ニ用フルモノハ竹笹(熊笹)、樹木ノ細キ莖葉(栗、ホス等ノ新梢)山草等ナリ

第八 摘採

一 未成木茶樹

摘採ノ時期及回数 發芽後五、六年迄ノモノハ年一回一番茶ニ限り樹形ヲ整フルヲ目的トシテ摘採シ其レ以上ノ年數

ヲ經過シタルモノハ二番茶迄摘採ス摘採期(主産地タル甲賀郡、土山町、大野村附近)
一番茶 五月二十日始 六月十日頃終了 二番茶 七月十日始 七月二十日終了

手摘 新葉四枚乃至五枚ヲ生ジタル頃ニ一方ヨリ順次新芽全部ヲ摘ミ取ル(皆摘ト稱ス)但懷芽及裾芽ハ樹形造整上摘採セズ一人一日當摘採量約四貫五百匁摘採雇傭契約ハ日雇ニアラズシテ殆ド目摘ト稱シテ摘採量ニ對シテ賃銀ヲ支拂フモノトス一貫匁摘採十錢乃至十五錢外ニ食事ノ際ニ於テ副食及一人二、三錢宛ノ間食ヲ給ス(食物ハ摘採持參スルモノトス)

鉄摘 手摘茶樹ト略同様ナレドモ特ニ茶樹ノ凹部ニ生ジタル芽ハ摘採セズ供用摘採鉄ハ内田式ニシテ他式ハ殆ド使用セズ一人一日摘採量十五貫乃至二十貫ニシテ摘採量ノ多少ニ應ジテ賃金ヲ支給ス一貫匁當五錢内外ニシテ食事ニ際シテノ給與ハ手摘ト變ラズ

二 成木茶樹

摘採ノ時期及回数 年二回トシテ二番茶迄摘採ス摘採ノ時期ハ一番茶ハ五月二十日頃始六月十日頃終了二番茶ハ七月十日頃始七月二十日頃終了

手摘 新葉四、五枚ヲ生ジタル頃ニ裾巡リト稱シテ裾芽ヲ摘採シツ、廻リ摘ミヲナシ次ニ其レニ引續キ上部(天芽ト稱ス)ノ芽ヲ拾ヒ摘ミシツ、一ヶ所ノ茶園ヲ一週間内外ニシテ摘採シ終リ更ニ遍場所茶園ニ及ブ方法ヲ普通トスレドモ樹勢均一ニシテ發芽伸育共ニ齊一ナル茶園ニ於テハ皆摘ミノ方法ニヨリ一方ヨリ順次茶芽全部ヲ摘ミ終ルモノナリ摘採一日ノ摘採量ハ七、八貫乃至十貫ニ及ブコトアリテ一貫匁ノ摘採十二、三錢乃至十錢ナリ傭入方法給與等ハ未成木茶樹ノ場合ト變ラズ

鉄摘 茶芽ノ發育手摘茶樹ニ比シ遜色無ク新葉四、五枚ヲ生ジタル時ニ一齊ニ摘採ス一人一日當二十貫乃至五十貫ノ摘採量ニシテ一貫匁ノ摘採亦三錢五厘内外ナリ日雇(日當定額支給)スルモノナシ
改善ヲ要スル事項 手摘ニ於テ摘採スルニ當リ新芽全部ヲ摘取ルガ爲芽ノ形大ナルハ手摘ノ効少キガ故ニ傭入方法ノ改善ニヨリ粗糲トナルヲ防止シ改善セシムベキモノト思考ス

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

一 本縣ニ於ケル茶樹ノ主ナル病蟲害

病害 茶赤葉枯病、茶赤燒病、白紋羽病、茶餅病等
害蟲 赤壁蝨、茶葉捲蟲、茶蝸蝻、小綠浮塵子、蓑蟲等

二 病蟲害防除方法

縣下主産地ニハ部落若ハ共同製茶場等ノ區域ニ依リ茶樹病害蟲防除組合(或ハ茶園改良實行組合)ヲ設ケ共同シテ病蟲害ノ驅除豫防ヲ實行シツ、アリテ茶業組合聯合會議所ニ於テ其ノ實績ニ依リ毎年相當ノ補助金ヲ交付シ以テ指導獎勵ヲナシツ、アリテ效果亦相當アリ

三 其ノ他ノ災害防除

特ニ意ヲ用ヒツ、アルハ一番茶期ニ於ケル晚霜ノ被害豫防ナリ既ニ熱力家ハ個人或ハ一部落共同シテ測候所ノ晚霜警報(町村役場ニ電報ヲ以テ發シ又ハラヂオニ於テ放送ス)及自己ノ體験ニ依リ結霜ヲ知り茶園全部ニ菰掛ケ(覆架ス)若ハ燻煙スル等ノ方法ヲ實施シツ、アリテ菰ノ覆架ニ依ル方法ハ完全ニ被害ヲ防止シタル實例アリ燻煙方法ニ於テハ未

ダ絶対的防止ノ効果ヲ認メズ

第十 樹勢更新法

臺刈法ニ依ルヲ主トス而シテ其ノ時期ハ一番茶摘採後ニ於テ數畦又ハ數株宛最モ衰弱セルモノヨリ臺刈シ數年ヲ要シテ其ノ茶園全部ヲ更新ス(臺刈シタル茶樹ニ對シテ特ニ施肥スルモノ切株ヲ燒クモノ深耕シテ根部ノ更新ヲ圖ルモノ)發芽シタル芽ノ弱少芽ヲ淘汰スルモノ等ノ方法ヲ實施スルモノ殆ド無キ状態ナリ) 臺刈ニヨリ樹勢ヲ更新シタルモノハ三ヶ年位ハ摘採セズ放任シ四年目頃ニ於テ一番茶ヲ摘採シテ未成木茶樹ノ仕立方法ニヨリ仕立七、八年後ニシテ成木茶樹トナサシム

改善ヲ要スル事項

- 一 氣候ノ關係特ニ本縣ニ於テハ著ク他産茶地府縣ニ比シ遅場所ナルガ故ニ臺刈更新法ハ一番茶前(三月下旬)ヨリ四月上旬ニ執行スルヲ必要トス
- 二 本縣茶園ノ現状ハ臺刈更新及改植ヲ要スベキ茶園ハ縣下茶園總面積ノ約一割餘ヲ算シ之ガ改植臺刈更新ハ最モ急ヲ要スベキモノトス

京 都 府

第一 採 種

採種ハ特別ナル採圃園ヲ設定セルモノナク普通ニ栽培セル茶園ニ於テ自然ニ開花結實セルモノヲ採リテ種子トナス從テ品種的ニ類別セルモノナシト雖所謂「宇治種」トシテ形態略一致セル本府茶園ヨリ採種セルモノハ自ラ略統一セル良种ヲ得ルモノトス肥沃ナル茶園ニ於テハ採種量僅少ナリト雖充實セル良种子ヲ得ラル、モノトス

一 採種ノ時期

開花ヨリ一ヶ年ヲ經過シテ種子充分ニ成熟シ蒴ノ裂開セルヲ採種ノ適期トス本府ニ於テハ十月下旬ヨリ十一月中旬迄ヲ普通トス

二 採種方法及採種後ノ處理

蒴裂開シテ種子ノ落下セルモノヲ拾ヒ集ムルヲ通例トス又枝上ニ成熟セルモノヲ蒴ノ儘採收シ陰乾後剝ギ取ルコトアリ此ノ場合ハ成熟不充分ノモノヲ混ゼサル様注意ス

三 種子ノ選擇

完熟セルモノニシテ中粒以上重量重キモノヲ擇ブ種子一升重量二百匁以上粒數ハ九百粒内外種皮濃灰色形狀成ルベク球形ナルヲ可トス

第二 種子ノ貯藏

採種セル種子ハ之ヲ十日内外陰乾シタル後以等ニ容レ鼠害ナキ乾燥納屋ニ貯藏スルヲ普通トス

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

茶樹ハ直根深ク土中ニ浸入スルモノナレバ水田又ハ畑地ト雖特ニ深ク打チ起シ所謂床破リヲナシ然ル上土塊ヲ充分ニ細破シ整地ス開墾地ニアリテモ雜草及樹木ノ根ヲ選リ出シ深ク打チ起スコトヲ要ス

二 播種時ノ基肥

播種時ノ基肥トシテ作條トナルベキ根元ニ深ク堆肥、厩肥、粕類等ヲ埋メヨク土壤ト混和シ施用ス

三 播種期

春蒔 冬季寒冷ナル地方ニ於テハ貯藏セル種子ヲ春彼岸頃ニ播下ス本府ハ多ク此ノ法ニヨル

秋蒔 冬季温暖ナル地方ニ於テハ採種後直ニ十月下旬ヨリ十一月中旬ニ播下ス

四 播種法

種子ノ豫措 春播ノ場合ハ浸水五日間ノ後沈下セル種子ヲ選ビテ播下ス

播種量 作條一尺ニ對シ完全ニ選別シタルモノヲ十五粒内外播下ス依テ條ノ距離ニヨリ種子量ヲ算定ス

畦幅及播幅 株播ハ四尺乃至六尺ノ畦幅ニ三尺乃至四尺ヲ距テ、直徑一尺乃至一尺五寸ノ輪形ヲ畫キ之ニ播下ス條播ハ煎茶園四尺乃至五尺玉露園ハ六尺ノ畦幅トシ一條播ハ一尺乃至五寸二條播ハ一尺乃至五寸ノ條間ニ一列播ヲ行フ

畦ノ方向 畦ハ芽立及通風等ヲ良好ナラシムル爲土地ノ狀況ニヨリ定ムルモ通例南北畦トナシ傾斜地ハ水平線ニ沿フヲ理想トス

播種ノ方式方法及播種後ノ管理 條溝或ハ輪溝ニ種子ヲ落下シ一寸内外ノ覆土ヲ行ヒ其ノ上ニ切藁、糠殻ノ類ヲ以テ防寒ト共ニ早魃ヲ防グ

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

初年度管理ハ夏季稀薄ナル水肥ヲ施與シ九月下旬乃至十月上旬鯨粕、油粕、大豆粕、堆肥、厩肥、米糠、木灰等ノ基肥ヲ成園ノ三分ノ一量位施ス發芽後異種劣等種又ハ生育不良ノモノヲ間引キ常ニ雜草ノ芟除ト防旱防寒ニ努ム

二 發芽第二年ノ肥培管理

施肥ハ標準量ノ二分ノ一位ヲ施シナルベク回数ヲ多ク分施ス害虫ノ防除ト雜草ノ除去ニ注意シ適宜間作ヲ行フモノトス

三 發芽第三年ノ肥培管理

生育狀況ニ應ジ肥料施用量ヲ漸次増加シ順調ナル生育ヲナスモノニアリテハ標準量ノ三分ノ二位施用ス其ノ他ノ管理ハ第二年ニ準ス

第五 仕立法竝剪枝

一 剪枝ノ時期

一番茶摘採後ニ之ヲ行フ

二 仕立ノ方式及方法

玉露園及優良煎茶園造成ニ對シテハ高造法ニヨリ樹高五尺内外ノ半圓ヲ標準トス收量本位トスル普通園ニテハ樹高三尺内外ノ半圓形ニ仕立ツ

三 手摘茶園ノ剪枝

摘採回数少キ肥沃茶園ニテハ銳利ナル剪枝鋏ヲ以テ前年摘採面ヨリ稍高ク刈リ込ム玉露園ノ如キ日覆ノ爲衰弱セル茶園及荒廢ニ近キ老齡茶園ハ深刈ヲ行ヒ強壯ナル母枝ノ發生ヲ促ス淺刈ヲ連續スレバ樹形過大トナルヲ以テ四、五年目ニ一回ノ深刈ヲ行フ

第六 耕耘及除草

一 淺 耕

第一回淺耕ハ春季發芽前三、四寸ノ深サニ耕起シ畦ヲ平ニシ土塊ヲ細碎スルト同時ニ枝下ニ施肥溝ヲ作り芽出肥ヲ施シ覆土ス第二回淺耕ハ六月中旬摘採ノ爲踏ミ固メタル土壤ヲ粉碎スルコトナク四寸内外ニ堀起ス

二 元出及元寄

十月中旬深耕ニヨリ膨軟トナリタル根元ノ土壤ヲ畦間ニ出シ同時ニ株元ノ落葉等ヲ掻キ出シ肥溝ヲ作ル施肥毎ニ畦間ノ土ヲ以テ覆土シ十二月ニ至リ株元ニ高ク盛り上グ

三 深 耕

毎年一回九月下旬ヨリ十月中旬ノ頃畦間全體ヲ七、八寸ノ深サニ耕起シ茶樹ノ上根ヲ切斷ス

四 除 草

夏季中常ニ茶園ヲ巡視シ雜草ノ生ズルヲ見レバ直ニ之ヲ除ク玉露園ニハ藁稈ヲ煎茶園ニハ青草ヲ敷キ込ミ雜草ノ生ズルヲ防グ

第七 肥料及敷草

一 肥料ノ種類

玉露園ノ肥料ハ茶種油粕及人糞尿ヲ主肥料トナシ適宜人造肥料其ノ他ノ肥料ヲ配合ス又有機質肥料トシテ堆肥、青草等ヲ施シ有機質分ノ補給ニ努ム土壤ノ酸性強キ場合ニハ適量ノ生石灰ヲ施シテ之ヲ中和スルモノトス

參考 玉露園ニ對シ肥料種類試驗ノ成績(十一年平均)平ノ如シ

區 名	反當收量	品 質			位 順	備 考		
		色 澤	水 色	香 氣				
硫酸アンモニア	一一七、五五〇 ^每	一六・六 ^點	一六・四 ^點	一六・五 ^點	一五・八 ^點	六三・五 ^點	五	樹勢最初ヨリ幾分劣レルノ傾向ヲ認ム
人 糞 尿	一一〇、〇〇〇	一七・五	一六・九	一八・一	一八・〇	七〇・五	二	年々色澤香氣良好ナリ
大 豆 粕	一一二、一六〇	一六・一	一六・七	一六・一	一五・七	六四・六	四	香氣ニ一種ノ青臭アリ味不調ナリ
練 搾 粕	一一二、五五〇	一八・一	一七・三	一七・〇	一七・〇	六九・四	三	樹勢旺盛ナリ
菜 種 油 粕	一一五、一三〇	一八・四	一八・二	一八・六	一八・四	七三・六	一	年々品質優良ナリ

山間部煎茶園ハ青草ヲ主肥料トシ之ニ茶種油粕其ノ他粕類、硫酸アンモニア等ヲ適宜施用ス

二 施肥量 (種類別、施肥期別數量及所含三要素量)

京都府茶業研究所玉露園標準施肥量 (反當)

種類	施肥量			所含三要素量			摘 要
	基肥	追肥	合計	窒素	磷酸	加里	
人糞尿	310,000 <small>反</small>	110,000 <small>反</small>	420,000 <small>反</small>	4,000 <small>反</small>	1,066 <small>反</small>	2,334 <small>反</small>	濃厚人糞尿ハ三倍ニ薄メテ施用ス
茶種油粕	35,000	25,000	60,000	3,110	1,500	840	
硫酸アンモニア	—	—	14,000	3,000	—	—	
過磷酸石灰	10,000	—	10,000	—	1,900	—	
木灰	3,000	—	3,000	10,410	5,826	9,236	
合計	358,000	135,000	493,000	10,520	4,466	13,980	

同煎茶園標準施肥量 (反當)

種類	施肥量			所含三要素量			摘 要
	基肥	追肥	合計	窒素	磷酸	加里	
大豆粕	35,000 <small>反</small>	—	35,000 <small>反</small>	2,275 <small>反</small>	555 <small>反</small>	705 <small>反</small>	七月施用
菜種油粕	16,000	16,000	32,000	1,600	800	1,016	
合計	51,000	16,000	67,000	3,875	1,355	1,721	

三 施肥ノ時期及方法

第一回基肥ハ九月下旬ヨリ十月上旬迄、第二回補肥ハ二月下旬、第三回追肥ハ三月下旬ヨリ四月上旬迄、第四回追肥ハ六月中旬、第五回追肥ハ七月中旬、基肥ハ深耕後深サ五、六寸ノ溝ヲ枝下ノ位置ニ作り元出セル株際ノ落葉表土ト共ニ溝中ニ埋メ浅ク覆土ス補肥ハ基肥ヨリ稍浅キ肥溝トナシ施肥後覆土ス追肥ハ浅耕後枝下ニ深サ三、四寸ノ肥溝ヲ作り施肥シ覆土ス肥溝ノ位置ハ樹勢及根部ノ状態ニヨリ定ム基肥ハ遅効肥料ヲ株元ニ遠ク且深ク施シ追肥ハ發芽ノ促進ニ供スベキニヨリ速効肥料ヲ充分腐熟セシメ液肥トシテ根際ニ近ク施ス

四 間作綠肥

茶樹ノ成園ニ達セザル間ハ畦間廣ク間作ヲナシ得ルヲ以テザイトウキツケン、セラデラ、青刈大豆等ノ間作ヲナシ綠肥トス成園ニ達スレバ枝密生ジ枝張廣ク兩方ヨリ伸ビテ畦間ニ間作ヲナシ得ザル迄繁茂スルヲ可トスルヲ以テ之ヲ行ヒ難シ

五 敷草

畦間ニハ七、八月頃青草、綠肥、稿稈等ヲ多量ニ敷キ込ミ施肥トナスト共ニ防旱トナシ且雜草ノ生ズルヲ防グ

第八摘採

本地方ニ於テハ播種後三年乃至四年ニ及ベハ枝梢繁茂シ多少ノ摘採ヲナシ得ルニ至ル幼木ニ對スル摘採ハ單ニ樹形ヲ整ヘルノミヲ目的トシ樹勢及枝張ヲ察シテ之ガ均勢ヲ圖ルニ止ム而シテ六、七年ニ至レバ樹形漸ク整ヒ收穫ヲ増加シ十年以後普通量ノ摘採ヲ見ルニ至ル

一 摘採ノ時期及回数

一番茶ハ五月初旬ヨリ同下旬、二番茶ハ六月下旬ヨリ七月上旬、但ニ番茶ハ全部摘採ヲ行フコトナク樹形ヲ整フルヲ以テ目的トシ一番茶ニ對スル割合多キモ五割普通ニ、三割トス

二 手摘

三葉掛折摘ヲ標準トス食指及母指ヲ使用シ母指ヲ強ク働カシ折り取ルモノトス

三 鋏摘

鋏摘茶園ガ晚秋十月頃又ハ三月頃ニ株均シト稱シニ番茶後伸長セシ徒長枝ヲ適度ノ處ニテ截斷シ發芽後刈リ取ル鋏ノ刃ハナルベク先ヲ上ゲ目ニ使用シ一度ニ豫定ノ深サニ刈リ取ル

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

病蟲害驅除法ハ左記ニ依ルモ霜害豫防ハ主トシテ被覆法ニ依ル

一 蟲害

茶 蝨 類

習性 孵化シタル幼蟲ノ二、三齡迄ハ多數頭ヲ揃ヘテ群居ス成蟲雄ノ翅色ハ第一回(夏)發生ノモノハ黒褐色ニシテ第二回(秋)發生ノモノハ黄色ナリ雌ハ二回共黄色ナリ卵ハ古枝及古葉ニ産ミ付ケ鱗粉ヲ以テ包ム

驅除法

- 一 除蟲菊石鹼液
- 一 ネオトン又ハデリス石鹼
- 一 幼蟲ノ群居セル枝葉ヲ切り採リ燒棄スルカ又ハ松明ヲ作りテ茶園ヲ巡視シ群集セルモノヲ燒殺スベシ

茶 枝 尺 蠖

習性 一化性尺蠖ノ翅色ハ灰黒色ニシテ三化性尺蠖ノ翅色ハ茶褐色ナリ孵化シタル幼蟲ハ初メ産卵場所附近ノ茶樹ヲ喰害ス樹木ヲ動搖サス時ハ糸ニヨリテ垂下ス幼蟲老熟セバ土中ニ入りテ蛹トナル

驅除法

- 一 除蟲菊石鹼液
- 一 デリス石鹼又ハネオトン

赤 壁 蝨

習性 雨露ヲ嫌フヲ以テ旱天ノ年ハ發生多ク被害大ナリ常ニ葉裏ニ棲息シ越冬ノ際株元ノ日當リ良キ葉裏ニ潛ム

驅除法

- 一 石灰硫黄合劑ヲ冬期(三月中旬)ハ一度内外、夏期ニ於テハ〇・二乃至〇・五ヲ撒布スベシ
- 一 硫酸ニコチン八百倍又ハネオトンヲ用フルモ効アリ

刺 蟲

京都府

習性 常ニ葉裏ニ棲息シ葉肉ヲ喰害ス幼蟲ハ土中ニ入り小豆大ノ繭ヲ作り翌年六月羽化ス成蟲ハ葉裏ニ點々産卵ス

驅除法 一 除蟲菊石鹼液

一 デリス石鹼又ハネオトン

養蠶蟲

習性 雄ノミ蛾トナリテ飛ビ雌ハ成蟲トナリ巢ノ中ニ居テ卵ヲ産ム幼蟲ハ初メ一ヶ所ニ多數群居スルモ成育スルニ從ヒ離散ス

驅除法 一 五、六月頃捕殺スベシ

介殼蟲類

習性 茶丸介殼蟲ト茶長介殼蟲ノ二種ニシテ前者ハ年一回後者ハ年三回ノ發生ナリ孵化當時ハ何レモ運動活潑ナレ共二齡以後ハ各居所ヲ定メテ介殼ヲ被ルニ至ル兩者共受胎シタル雌蟲ニテ越冬ス

驅除法 一 石灰硫黄合劑ヲ冬期ハ三度夏期ハ〇・五度ノモノヲ枝幹ニ掛ケ注グヘシ

一 冬期石油乳劑五倍液ヲ撒希スベシ

一 樹勢ヲ旺盛ナラシムレバ蟲害ニ罹リ難シ

一 孵化當時ノ幼蟲ナレバデリス石鹼又ハネオトンニテモヨシ

小綠横道

習性 暖氣ヲ好ミ風及日光ヲ嫌フ故ニ通風惡シキ茶園ニ被害多シ常ニ葉裏ニ棲息シ葉液ヲ吸收シテ芽及葉ヲ枯死セシム卵ハ一週間ニテ孵化シ幼蟲ハ三、四日ニテ脱皮シ四回ノ脱皮ヲ終ヘテ成蟲トナル蒸暑キ天候ノ時ニ發生多シ

驅除法 一 除蟲菊石鹼液

一 ネオトン又ハデリス石鹼

茶捲捲蟲

習性 幼蟲ハ茶葉ヲ綴リテ其ノ中ニ棲息シ茶葉ヲ喰害ス盛食期ニハ卷葉ガ物ニ觸ル、時直ニ巢ヲ拔ケ出テ地上ニ落下ス旱天ノ續ク時ニハ發生多ク産卵ハ四、五十粒ヲ一塊トナシ鱗狀ニ産ミ付ク

驅除法

一 茶樹ヲ動搖シテ垂下セル幼蟲ニ除蟲菊、石鹼液又ハネオトン或ハデリス石鹼ヲ撒布スベシ

天牛(鐵砲蟲)

習性 幼蟲ノ小ナル間ハ新梢内ヲ喰害ス成長スルニ從ヒ根際ニ下リ遂ニハ根ニ入りテ之ヲ喰害ス喰入孔ヨリ黄色ノ圓キ糞ヲ漏出スルヲ以テ容易ニ發見スルヲ得

驅除法 一 被害小枝ハ剪除シ之ヲ燒棄スベシ

一 大木ノ根ニ入りタルモノハ喰入孔ヨリ針金ヲ入レ蟲ヲ突キ殺スカニ硫化炭素ヲ注入シテ後密閉スルコト

スリツプス

習性 群集シテ幼芽ヲ嘗メテ害シ霜害ニカ、リタル如ク赤變セシム
驅除法 一 除蟲菊石鹼液又ハネオトノヲ撒布スベシ

二病

害

茶白星病

病徴 主トシテ嫩芽嫩梢ニ發病ス殊ニ肥料缺乏シタル茶樹又ハ濃霧ノ地ニハ本病ノ被害多シ初メハ微細ナル圓形紫褐色ノ斑點ヲ多數散生シ病斑ハ遂ニ灰白色トナリ被害部ニ小孔ヲ生ズ
防除法 一 三月下旬(春季發芽前)又ハ一番茶摘採後四斗式ボルドー液ヲ撒布スルコト
一 茶園ノ培養ヲ懇切ニスルコト

茶赤葉枯病

病徴 葉及新梢ニ發病シ被害葉ハ初期ニ於テハ水分缺乏ノ如キ狀ヲ呈シ後茶褐色ニシテ不規則ナル病斑ヲ生ジ病斑中ニハ波狀ノ輪紋ヲ生ズ日ヲ經ルニ從ヒ遂ニ灰白色トナリテ枯死ス六月ノ梅雨期及十月頃ヨリ冬期ニカケテ發病最モ盛ナリ
防除法 一 一番茶後又ハ十月頃ニ四斗式ボルドー液ヲ撒布スベシ

茶赤燒病

病徴 初メ圓形茶褐色ノ病斑ヲ主脈及葉柄近ク散生シ各病斑ハ擴大シテ隣接ノモノト融合シ流動形ノ大病斑トナル病斑ノ外縁ハ多少波狀ヲナシ輪廓判明ナリ病斑中ニハ數個ノ波狀ヲナセル輪紋アリ病葉ハ速ニ凋落シ

茶株ハ一時赤裸トナル本病ハ排水不良ノ茶園又ハ窒素肥料ニ偏シタル茶園ニ被害多ク殊ニ梅雨期及秋期ニ發病多シ
防除法 一 發芽前一番茶後及十月ニ四斗式ボルドー液ヲ撒布スルコト
一 被害多キ部分ハ病葉ヲ振落シテ掻キ集メ燒却スルコト

自紋羽病

病徴 發病ノ茶樹ハ漸次勢力衰へ遂ニ枯死スルモノニシテ被害樹ハ初期ニ於テ其ノ根部ヲ檢スル時ハ白色ノ菌糸網狀ニ走りテ菌糸束ヲナシ病勢進ムニ從ヒ黒褐色トナリ皮下侵入シ大小不完全ナル黒色ノ菌核ヲ生ズ本病ハ俗ニ立枯ト稱シ粘質ニシテ排水惡シク又ハ有機質多キ茶園ニ發生シ波紋ヲ畫キテ漸次擴大シ大被害ヲ及ボスモノナリ
防除法 一 被害初期ニアリテハ根部ヲ暴露シ石灰乳(石灰一貫匁水一斗)或ハ石灰硫黃合劑ボルドー液等ヲ撒布シ土ヲ覆ヒ置クベシ
一 茶園ノ排水ヲ良クシ耕耘ヲ懇切ニスルコト
一 被害甚シキモノハ堀リ取りテ燒却シ跡地ニハ石灰乳ヲ施スベシ

第十 樹勢更新法

樹勢衰頹ニ傾ケル茶樹ハ臺刈法ニヨリ之ガ更新ヲ行フ
時期 一番茶前(四月下旬)行ヘルモノ成績特ニ良好ナルモ普通ハ經濟上ヲ顧慮シ摘採直後ニ行フ

方法 土際ヨリ銳利ナル鎌ヲ以テ斜ニ切載ス其ノ方法ハ南又ハ東向クルヲ可トス臺刈後ハ直ニ淺耕ヲ行ヒ且發芽ヲ促進スルクメ速効肥料ヲ施シ新芽發生後ハ害蟲ノ發生ニ注意シ又夏季ノ旱魃ヲ防グクメ敷草ヲナシ置ク

奈良縣

第一採種

一 採種ノ時期

採種ノ時期ハ破穎期即チ十一月上、中旬ヲ普通トスルモ破穎後ニ於テハ敷草中ニ種子投入シ採種困難ナル爲中ニハ破穎前ニ採種スルモノアリ

改善ヲ要スル事項

品種ニヨリ種子ノ熟期ニ著キ差異アルヲ以テ早熟種ヨリ順次ニ採種スルヲ要ス破穎前ニ採種スルトキハ種子未熟ニシテ發芽不良ヲ來ス處アリ

二 採種法及採種後ノ處理

採種法 特ニ採種圃ヲ設クルコトナク普通茶園ニ於テ品種ノ良否種子ノ熟期等ヲ顧慮スルコトナク結實セル種子全部ヲ採集スルヲ普通トス

採種後ノ處理 採種セル種子ハ十日内外陰乾シタル後穎皮ヲ去リ肉眼鑑別ニヨリ不良種子ヲ除キ明春迄貯藏ス

改善ヲ要スル事項

採種圃ヲ設ケ優良種子ヲ採種スルヲ要ス

第二種子ノ貯藏

貯藏セントスル種子ハ乾燥セル細砂又ハ土ト混ジ洞穴(山間地方ニ於テ芋類ヲ貯藏スル爲山腹ニ造レル簡易ナル穴藏)ニ埋藏スルヲ普通トス簡單ナルモノハ吹又ハ俵ニ入レタルマ、乾燥セル土中ニ貯藏スルモノアリ

第三茶園ノ開設

一 開墾及整地

開墾作業ハ冬季行フヲ普通トシ先ヅ樹木ヲ伐截シ下草ヲ刈取りタル後荒起シヲナス次ニ荒起ヲナシタル土壤ノ稍風化スルヲ待チ深サ二尺内外(深キハ三尺)ニ耕起ス此ノ際笹根、雜草根ヲ丁寧ニ除去スルモノトス開墾地ハ著ク急傾斜ノ場合ヲ除クノ外階段ヲ設クルコトナク自然ノ傾斜ニ從ヒ整地ス

二 播種時ノ基肥

播種時ノ基肥トシテハ堆肥ヲ用フルヲ普通トスルモ油粕類又ハ人糞尿ヲ施用スル場合アリ施肥量ハ一定セザルモ概シテ小面積ノ新設茶園ノ場合ハ多ク施用シ大面積トナルニ從ヒ減少スルヲ普通トス施肥法ハ堆肥ヲ用フル場合ハ一尺以上ノ深キ作條ヲ掘リテ底部ニ施シ油粕類ノ場合ニハ稍淺ク施用ス

改善ヲ要スル事項

基肥多キ程發芽後ノ生育良好ニシテ成園ニ達スル年數ヲ短縮シ得ルヲ以テ經濟ノ許ス限り多肥スルヲ必要トス

三 播種ノ時期

冬季開墾ヲ行ヒタル畑ニ播種スルヲ普通トスルヲ以テ其ノ時期ハ概ネ三月中、下旬ナリ

改善ヲ要スル事項 播種期早キ程發芽歩合多ク且其ノ後ノ生育良好ナルヲ以テ整地完了セバ直ニ播種スルヲ可トス

既ニ秋季整地済ノ畑ニ於テハ秋播トナスベシ

四 播 種 法

種子ノ豫措 播種前二、三日浸水スルモノアルモ一般ニハ何等豫措ヲ施スコトナシ

播種量、反當二斗内外ヲ普通トスルモ當場ノ試驗成績ヲ參酌シ漸次薄播トナス傾向アリ

畦幅 四尺五寸乃至五尺ヲ普通トスルモ當場ニ於ケル速成法ニ則リ二尺五寸乃至三尺ノ畦間(十年生内外ニシテ一畦

置キニ拔取り五尺乃至六尺ノ畦間トナス法)トナスモノ尠カラズ

播幅、一條播ニ於テハ五寸内外(一畝幅)トシ二條播ニ於テハ一尺トナス輪播ノ場合ニ於ケル直徑ハ一尺乃至一尺五寸

畦ノ方向 平坦地ニ於テハ南北畦トスルモ傾斜地ニ於テハ傾斜方向ニ並行トナス慣習アリ

播種ノ方式方法及播種後ノ管理

播種ノ方式 二條播トナスモノ最モ多ク一條播之ニ次グ舊來ノ茶園ハ概ネ輪播法ニヨリタルモ近時ハ殆ド之ヲ採用

スルモノナシ

播種法 種子ヲ成ルベク厚薄ナク播下シタル後細粉セル土壤ヲ以テ淺ク覆土ス丁寧ニ下種スルモノハ尺度ヲ以テ二

寸乃至三寸ノ等距離ニ種子ヲ並べ隣部ヲ下方ニ向ケ篩分セル細土ヲ被覆ス

播種後ノ管理 播種セル作條ニハ敷草又ハ糞糞ヲ施シ標識トナスト共ニ過乾及雜草ヲ防止ス

改善ヲ要スル事項

一、傾斜地ニ於ケル畦ノ方向ハ成ルベク傾斜方向ニ直角トスベシ

二、覆土ノ深淺ハ發芽ノ良否ニ密接ナル關係アルヲ以テ種子ノ過乾ニ失セザル範圍ニ於テ成ルベク淺クスルヲ要

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

五月下旬乃至六月上、中旬ニ至レバ發芽スルヲ以テ雜草ヲ除キ發育ヲ良好ナラシム八月頃ヨリ秋季ニ亘リ稀薄ナル水肥ヲ二、三回施用ス

一年生茶樹ハ旱害又ハ寒害ヲ被リ易キヲ以テ株元ニ充分敷草ヲナシ之ヲ保護ス尙晚秋株元ニ土寄ヲ行フモノアリ

新設茶園ニハ畦間ニ間作綠肥ヲ栽培シ土壤ノ流出ヲ防グト共ニ雜草ヲ抑壓シ兼ネテ肥料經濟ヲ圖ルモノトス

尙芋、萊菔等ヲ間作スルモノアルモ一般ニハ綠肥ノ外間作ヲ行ハズ

二 發芽第二年ノ肥培管理

發芽第二年ニ於テハ只管發育ヲ促進シ強健ナル苗木トナスニ努ムルモノニシテ常ニ除草ヲ怠ラズ病蟲害ヲ未然ニ防グト共ニ出來得ル限り液肥ノ施用回数ヲ多クス

改善ヲ要スル事項

一 一番茶ノ發芽時期ニ芽ノ良否ヲ鑑別シ五寸内外ノ距離ニ間引スルヲ可トス

三 樹勢旺盛ナルトキハ第二年目ニ於テ早クモ摘採ヲ行ハントスルモノアルモ當年ハ絶體ニ之ヲ行ハザルコト肝要ナリ

三 發芽第三年ノ肥培管理

樹勢旺盛ナルモノハ一番茶ニ於テ頂芽ノミヲ摘採シ直ニ七、八寸ノ高サニ剪枝ス(寒冷地ニシテ茶樹ノ發育遅キ地方ハ四年目ニ至リ剪枝ス)二番茶ハ摘採スルコトナク充分枝條ヲ發育セシム夏季ハ液肥ヲ施シ秋季ニ至リ深耕ヲ行ヒ同時ニ基肥ヲ施用ス(當年度ノ施肥量ハ反當窒素一貫乃至二貫匁トス)

四 發芽第四年ノ肥培管理

此ノ年ヨリ普通茶園ト略同様ノ管理ヲ行フモノナルモ摘採及剪枝ニ當リテハ常ニ樹形ヲ造ルコトニ留意シ裾張りヲ良好ナラシムルニ努メ缺摘茶園トナスモノハ當年ニ番茶ヨリ摘採缺ヲ應用ス此ノ年ノ施肥量ハ反當窒素二貫乃至三貫匁トス

第五 仕立法並剪枝

一 仕立法ノ方式及方法

新植茶園 畦仕立ニシテ樹高二尺乃至二尺五寸ノ中仕立ナリ
舊來ノ茶園 株形中仕立ニシテ樹高二尺五寸乃至三尺ナリト雖近時摘採缺ヲ應用スル關係上漸次畦仕立ニ改良セラレ樹高モ稍低目トナル傾向アリ

仕立法 一定ノ樹形トナリタル成木茶樹ノ仕立法ハ年々殆ド異ナルコトナキヲ以テ左ニ未成木茶樹ノ仕立法ニ就キ記スベシ

未成木茶樹仕立法(畦幅五尺ノ場合)

- 一 三年生 一番茶ハ頂芽ノミ摘採シタル後地上七、八寸ノ位置(成ルベク低キヲ可トス)ヨリ水平ニ剪枝ス二番茶ハ摘採セズ
- 二 四年生 一番茶摘採後一尺ノ高サニ稍弧狀ニ剪枝ス而シテ二番茶ノ摘採ハ成ルベク徒長芽ノミニ止メ側枝ノ發育ヲ助成セシム
- 三 五年生 一番茶摘採後一尺三、四寸ノ高サニ弧狀ニ剪枝ス此ノ年ヨリ二番茶モ全部摘採ス
- 四 六年生以後 爾後毎年二、三寸宛樹形ヲ整ヘ八、九年生ニシテ左圖ノ如キ樹形トナシ仕立ヲ完了ス



改善ヲ要スル事項

- 一 株仕立ハ全部畦仕立ニ改ムルヲ可トス

- 二 樹高ハ畦間ノ約半分トナスヲ原則トスルモ往々畦間ニ比シ樹高大ナルモノアリ斯ル茶樹ハ裾張り不良ニシテ却ツテ發芽面積少キヲ以テ樹高ヲ低メルノ要アリ
- 三 未成木園ニ於テ過度ノ摘採ヲナストキハ適當ナル仕立ヲ行ヒ難キヲ以テ側枝ノ發育ヲ阻害スルガ如キ摘採及剪枝ヲ避クベシ

二 手摘茶園ノ剪枝

剪枝ノ時期 成木未成木園ヲ問ハズ何レモ一番茶後剪枝ス

剪枝ノ形狀 茶樹ノ斷面半圓形ニ近キ形狀所謂丸刈最モ多シ



剪枝ノ方法 剪枝ハ箱付ノ剪枝鋏(番刈鋏ト云フ)ヲ用ヒテ行フ剪枝セル枝條ハ副産物トシテ之ヲ收穫シ番茶ノ原料トナス剪枝ノ位置ハ年々少シジ、淺ク上部ニテ刈リ四、五年目ニ元ノ位置迄深刈スルモノトス

改善ヲ要スル事項 刈落枝條ヲ收穫スルヲ主トシ剪枝面ノ凹凸精粗ヲ顧慮セザルモノアリ注意ヲ要ス

三 缺摘茶園ノ剪枝

剪枝ノ時期 缺摘開始後二、三年ハ發芽面不揃ナルヲ以テ毎年一番茶摘採後手摘茶園ノ如ク剪枝ス爾後ハ隔年又摘採後ノ剪枝

ハ二年目ニ行フモノトス

徒長芽ノ整枝 秋季ノ徒長芽ハ毎年九月中下旬乃至十月初旬ニ剪除ス其ノ適期ハ地方ニヨリ異ナルモ茶芽ノ發育停止期前ニシテ整枝後更ニ新芽ノ發生ヲ來スコトナキモ腋芽ノ充實ニハ尙差支ヘナキ時期トス

剪枝ノ形狀 裾張り良好ナル半圓筒形ヲ普通トスルモ中ニハ樹高ヲ低クシ平刈トナスモノアリ

剪枝方法 一番茶後ノ剪枝ハ發芽面ノ齊整ヲ主眼トシテ懇切周到ニ行フ秋季ノ整枝ハ徒長芽ノミヲ淺ク剪除ス改善ヲ要スル事項 徒長芽ノ整枝ヲ春季行フモノアルモ收量ヲ減ズルヲ以テ必ズ秋季行フヲ要ス

第六 耕耘及除草

一 淺 耕

敷草ヲ充分施セル茶園ハ殆ド淺耕ヲ行フコトナシ敷草少キ茶園ニ於テハ三月上中旬、一番茶摘採後及二番茶摘採後ノ三回ニ淺耕ヲ行フ淺耕ハ常ニ除草ヲ兼ネ行フモノニシテ耕起ノ深サハ三、四寸トス

二 元出及元寄

一般ニ元出及元寄作業ヲ行ハズ但冬季ニ於ケル幼茶樹保護ノ爲元寄ヲナスモノアリ

三 深 耕

從來敷草ヲ充分施セル茶園ハ深耕ヲ行ハザルヲ通例トセシガ極力獎勵ヲ行ヘタル結果近時之ヲ實施スルモノ漸ク多キニ至レリ其ノ時期ハ九月中旬乃至十月中旬ニシテ深サ七、八寸ニ耕起シ舊根ヲ切斷スルト共ニ成ルベク底土ヲ表面ニ反轉露出セシメ且前年ノ敷草ヲ打込ムモノトス尙從來無耕耘ノ茶園ニ於テ一時ニ全園ヲ深耕スルトキハ急激ナル斷根ニヨリ樹勢ヲ衰弱セシムルコトアルヲ以テ斯ル場合ニハ一畦置ニ毎年交互ニ深耕スルモノトス

四 除 草

除草ハ淺耕ト同時ニ行フヲ普通トス敷草多キ茶園ハ殆ド除草ノ要ナク毎年冬季茶園ノ周圍ヨリ蔓延スル笹根、樹根等ヲ除去スル程度ナリ尙近時笹根ノ蔓延甚シキ茶園ニハ夏期鹽素酸加里(十間ニ對シ二百匁内外)ヲ園周ニ撒布シ之ヲ防

止スルモノ多シ

第七 肥料及敷草

一 肥料ノ種類

肥料ノ種類ハ地方ニヨリ一定セザルモ茶種油粕ヲ使用スルモノ最多ク大豆粕、棉實粕等之ニ次グ又縣下一部ニハ凍豆腐ヲ主肥トスル地方アリ從來肥料ハ殆ド單用スルヲ普通トセシガ近時肥料智識ノ普及ニ件ヒ三要素ノ配合ニ留意スルニ至レリ尙縣ニ於テ指示セル施肥法ニ則リ全購聯ノ手ヲ經テ配合肥料ヲ購入スルモノモ亦尠カラズ

二 施肥量

成木茶園反當施肥量 (反當生葉二五〇乃至三〇〇貫收穫程度ノ茶園)

施肥期	種類	數量	所含三要素量			分施ノ割合
			窒素	磷酸	加里	
秋 (基肥 九月中旬乃至十月上旬)	茶種油粕	三〇、〇〇〇 <small>担</small>	一、五〇〇 <small>担</small>	七五〇 <small>担</small>	四五〇 <small>担</small>	五割
	棉實粕	二五、〇〇〇	一、五〇〇	六〇〇	三二〇	
	過磷酸石灰	一、〇〇〇	一	一五〇	一	
	硫酸加里	一、五〇〇	一	一	七二〇	
	大豆粕	二九、〇〇〇	二、〇〇〇	四〇〇	五八〇	

追	種類	數量	所含三要素量			分施ノ割合
			窒素	磷酸	加里	
春 (三月上旬肥)	過磷酸石灰	七、三〇〇	一	一、一〇〇	一	約三割
	硫酸加里	二、〇〇〇	一	一	九六〇	
追 (一番茶後肥)	硫酸アンモニア	五、〇〇〇	一、〇五〇	一	一	約二割
	計	六、〇五〇	三、〇〇〇	三、〇三〇	三、〇三〇	

未成木茶園反當施肥量

樹齡	窒素	磷酸	加里
四年生	三、〇〇〇 <small>担</small>	一、五〇〇 <small>担</small>	一、五〇〇 <small>担</small>
五年生	四、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
六年生	五、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇

備考 施肥時期肥料ノ種類等ハ成木茶園ニ準ズ

三 施肥ノ時期及方法

秋肥 九月中、下旬ニ施用スルヲ普通トスルモ中ニハ十月中、下旬ニ及ブモノアリ概シテ寒地ハ早ク暖地ハ稍遅ク施用ス施肥ノ方法ハ深耕直後又深耕ト同時ニ施用スルヲ常トシ前者ハ茶園ノ周圍所謂雨落附近ヲ四、五寸ノ深サニ堀リ豫メ配合セル肥料ヲ施シ覆土スルモノニシテ後者ハ深耕直前畦間一面ニ肥料ヲ撒布シ耕耘ノ際ヨク土壤ト混和スル方法ナリ從來敷草多キ茶園ニシテ耕耘ヲ行ハザルモノハ往々基肥ヲ茶株ノ中央ニ多量ニ施ス慣習アリシモ近時大

ニ改メラレタリ
 春肥 三月上、中旬淺耕ト同時ニ施用スルヲ普通トス施肥ノ位置ハ秋肥ヨリ稍外方ニシテ淺ク施用ス砂質土壤ノ地方ハ秋肥ノ量ヲ一、二割減シ春肥ヲ多クスルモノアリ
 追肥 肥培懇切ナルモノハ四月上中旬及一、二番茶後追肥ヲ施スモ一般ニハ一番茶後ニ施用スルノミナリ追肥ハ液肥トシテ畦間一面ニ撒布スルヲ普通トス

改善ヲ要スル事項

- 一 茶株ノ中央ニ集塊シテ施肥スル方法ハ改ムベシ
- 二 必ズ年三回以上ニ分施スルヲ可トス

四 間作綠肥

未成木茶園ニ於テハ夏作トシテ青刈大豆、冬作トシテザイトウイッケン、ルーピン等ヲ間作スルモ成木茶園ニ於テハ畦ノ間隙少キ關係上之ヲ栽培スルモノ極テ稀ナリ綠肥ヲ栽培スルトキハ莖葉繁茂スルニ從ヒ茶株面ヲ覆ヒ裾張リヲ不良ナラシムルコトアルヲ以テ倒壓又ハ中刈ヲ行ヒ之ヲ防止ス

五 敷草

一般ニ敷草ハ多量ニ施用スルヲ常トス敷草ノ材料ハ主トシテ山草ニシテ八月頃刈取リテ茶園ニ運搬シ置キ秋肥施用後敷込ムモノトス普通反當五百貫(生)内外ニシテ年々敷込ム爲多キモノハ全ク畦間ノ土壤ヲ被覆シ雜草ヲ生ズルコトナシ
 改善ヲ要スル事項 敷草アルモノハ春季萌芽期ニ於ケル凍害ノ被害大ナルヲ以テ晩霜期ニ至ラバ一時敷草ヲ除去ス

第八 摘採

一 摘採ノ時期及回数

ルカ又ハ株元ニ寄セテ畦間ノ土壤ヲ露出スルヲ可トス凍害ヲ受クル茶園ニ春季新鮮ナル稻藁等ヲ敷込ムガ如キハ最モ忌ムベキナリ
 摘採ノ時期 本縣ニ於ケル摘採ノ時期ハ平坦部ト山間部トニ於テ著キ差異アルノミナラズ同一地方ニ於テモ地形ニヨリ一定セズ又凍害ノ有無、強弱ニ左右セラル、コト多ク年々依リテハ平坦部ニ於テ二番茶ヲ終了スル頃尙山間部ニ於テ一番茶ヲ製造スルガ如キ奇現象ヲ呈スルコトアリ例年ニ於ケル摘採ノ時期ハ大要次ノ如シ
 平坦地方 一番茶 五月七、八日乃至二十一日 二番茶 六月二十、八九日乃至七月十日 三番茶 八月中旬
 山間地方 一番茶 五月十七、八日乃至六月十日 二番茶 七月十一、二日乃至八月上旬
 摘採回数 手摘茶園ハ何レモ二番茶迄トス缺摘茶園ハ三番茶迄摘採スルモノアルモ多クハ二番茶迄トシ三番茶ハ株面ヲ摘フル目的ヲ以テ徒長芽ヲ摘採スル程度ナリ

二 手摘

一番茶ハ手摘トナスモノ多シ摘採方法ハ普通折摘ニシテ本葉五、六葉ヲ出テタルモノヲ葉腋ヨリ折リテ摘採ス一人一日ノ摘採量ハ四、五貫乃至七、八貫トス

三 缺摘

純摘ハ比較的凍害少キ地方ニ於テ行ハレ其ノ他ノ地方ニ於テハ一番茶ヲ手摘トナシニ番茶ノミヲ摘トナスモノ多シ摘採ハ内田式ヲ使用スルモノ最モ多ク一人一日ノ功程ハ生葉二十乃至四十貫ナリ摘採ヲ行フモノハ一般ニ摘採期ヲ遅延セシムル嫌アルモ施肥量ハ却テ手摘茶園ヨリ多キヲ普通トスルヲ以テ硬葉摘ナルニ拘ラズ相當品質優良ナリ尙一部ニハタクリト稱シ秋芽ノ徒長セルモノヲ整枝スルコトナク放任シ一番茶ニ於テ古葉諸共刈取ルモノアリ

改善ヲ要スル事項 硬葉摘ニ陥ルノ弊風ヲ除クト共ニ「タクリ」製ノ如キ粗暴ナル摘採法ヲ改ムルヲ要ス

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

一 病 蟲 害

赤壁蝨ノ驅除 赤壁蝨驅除ハ年中行事ノ一トシテ必ズ勵行スルヲ普通トス其ノ方法ハ三月下旬頃石灰硫黃合劑ボーメ比重〇・八度液ヲ撒布スルモノトス

小綠浮塵子ノ驅除 未ダ赤壁蝨驅除ノ如ク全般ニ徹底セザレドモ熱心ナル當業者ハ一番茶後ノ剪枝直後ニ於テ必ズ驅除劑ヲ撒布ス使用スル藥劑ハ除蟲菊加用石油乳劑、同石鹼液又ハネオトン液等ナリ

茶葉捲蟲ノ驅除 本蟲ハ未ダ山間主産地ニハ大ナル發生ヲ見ザルモ平坦地方ノ茶園ハ年々激甚ナル慘害ヲ被リツ、アリ驅除法ハ尙研究中ニ屬スルモ誘蛾燈誘殺法或ハ孵化期ニ於ケル除蟲菊劑又ハ硫酸ニコチン劑ノ撒布ハ最モ効果多キガ如シ

ルビ一蠟蟲ノ驅除 本蟲ハ最近茶園ニ發生セル害蟲ニシテ平坦部ノ混植茶園ニ多シ七月上旬松脂合劑ヲ以テ驅除ス

其ノ他ノ害蟲驅除 茶ノ枝尺蠖發生セルトキハ四月上旬除蟲菊加用石鹼液ヲ撒布ス茶葉蠹ハ手ヲ以テ捕殺スルカ或ハ十月上旬毒劑ヲ撒布ス

病害豫防 茶餅病、茶赤葉枯病、茶白星病等ハ發生ノ都度石灰ボルドー液ヲ撒布ス白紋羽病ヲ發見セルトキハ被害樹及其ノ周圍ノ茶樹ヲ抜き取り跡地ハ石灰乳ヲ以テ消毒ス

二 凍 害

本縣主産地ハ年々萌芽期ニ於テ激甚ナル凍害ヲ被リ其ノ損害著ク大ナルヲ以テ之ガ豫防法ニ就テハ種々攻究中ナルモ未ダ完全ナル方法ヲ發見スルニ至ラズ一般ニ實施セラレツ、アル凍害豫防法次ノ如シ

覆蓋法 凍害ヲ豫知シタルトキ葉又ハ菰新聞紙類ヲ以テ茶株面ヲ被覆スル方法ニシテ丁寧ナルモノハ覆下園ノ如ク支柱ヲ樹テ柵ヲ造ルモノアルモ一般ニハ直接茶株面ニ掛クルモノトス

改善ヲ要スル事項 被覆物ヲ直接茶株面ニ掛クルトキハ効果ヲ減ズルヲ以テ必ズ株面トノ間ニ若干ノ間隙ヲ設クルコト肝要ナリ

燻煙法 茶園ノ周圍ニテ葉又ハ青葉ヲ燻燒シ附近ノ氣温ヲ高ムルト共ニ空氣ノ流動ヲ助ケ且水蒸氣ヲ發散セシメ葉温ノ低下ヲ防グニアリ單獨ニテ小面積ノ燻煙ハ効果少キモ集團地ニ於テ共同シテ施行セバ相當効果ヲ收メ得ルモノトス

敷草除去法 晩春凍害ノ虞アル時期ニ到ラバ畦間ノ敷草ヲ一時除去スルカ又ハ株元ニ押寄セテ畦間ノ土壤ヲ成ルベク多ク露出セシムル方法ナリコレ敷草アルトキハ夜間ニ於ケル地表温ヲ著ク低下セシムル爲被害ヲ大ナラシムレバナリ尙便法トシテ凍害ヲ豫知シタル晩ニ敷草ヲ全部茶株面ニ覆ヒ掛ケ覆蓋ト敷草除去ノ二方法ヲ同時ニ行ヒ著

ク効果ヲ擧ゲツ、アルモノアリ

凍害豫防實施ノ時期 豫防開始時期ハ燠煙法等ハ氣温攝氏三度内外ニ下降セルトキヲ適當トスルモ若シ凍害ヲ的確ニ豫知スルコトヲ得バ覆蓋法ノ如キハ晝間ヨリ實施スルヲ可トス覆蓋法ハ時期ト手數ヲ要スルコト多ク大面積ヲ實施セントスル場合ニハ作業遅キ茶園ハ氣温零度以下トナリ葉面ニ結霜ヲ見ルニ到ルベキモ尙豫防効果大ナルヲ以テ引續キ覆蓋作業ヲ繼續スベキモノトス

被害後ノ處置

- 一 速効性肥料ヲ施用ス
- 二 茶芽全滅ヲ見タルトキハ再ビ石灰硫黄合劑ヲ撒布ス
- 三 被害著ク激甚ナル場合ニ限り淺刈ヲ行フ

三 寒害 熱心ナルモノハ藥類ヲ以テ防風壁ヲ造リ或ハ茶園ノ西北方ニ防風林ヲ設クルモノアルモ一般ニハ何等ノ豫防方法ヲ講ズルモノナシ

第十 樹勢更新法

樹勢更新法トシテハ臺刈ヲ行フ

時期 臺刈ノ時期ハ普通一番茶摘採後ナルモ樹勢ノ衰弱甚シキモノハ三月下旬ニ之ヲ行フ

方法 鋸又ハ鎌ヲ以テ地上ニ一寸ノ位置ヨリ切截シ切口ヲ滑ラカナラシム又臺刈後株元ニテ藥類ヲ燃燒シ樹液ノ昇

岡山縣

第一 採種

騰ヲ防グト共ニ病菌害蟲ヲ殺滅スル場合アリ尙樹勢未ダ相當強力ナル茶樹ノ場合ニハ地上ニ一尺内外ノ位置ニテ中刈スルコトアリ

臺刈後ノ管理 臺刈セル茶樹ハ多數新梢發生スルヲ以テ九月頃ニ至リ適當ニ間引ヲ行フ新梢ニハ浮塵子、茶餅病等發生シ易キヲ以テ若シ發生ノ徵アルトキハ直ニ藥劑ヲ撒布ス二年目ノ一番茶ハ上部ノミヲ摘採シ直ニ一尺内外ノ高サニニ剪枝ス二番茶ハ摘採スルコトナク枝梢ヲ充分發見セシムルトキハ三年目ニハ殆ド成木園トナルモノナリ

十一月中旬乃至下旬

- 一 採種ノ時期
- 二 採種法及採種後ノ處理

第二 種子ノ貯藏

前記古吠又ハ古俵ニ入レタル種子ヲ其ノ儘排水良好ノ畑地ヲ撰ビ適當ノ箇所ニ埋メ蒔又ハ蒔ヲ以テ覆ヒ置クモノトス

少量ノモノハ桶又ハ瓶ニ等量ノ砂ト混シ貯藏ス

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

開墾地ハ先ヅ雜草木ヲ切り拂ヒ之等ノ根株ヲ堀取り充分深耕シ土塊ヲ碎キツ、整地ヲ行ヒ播種準備ヲナス

二 播種時ノ基肥

堆肥及人糞尿ヲ主トス而シテ人糞尿ハ播種前播種溝ニ施用シ下種後覆土上ニ堆肥ヲ施ス

三 播種期

十一月中旬乃至下旬又ハ三月上旬乃至四月上旬

四 播種法

種子ノ豫措 之ヲ行ハズ

播種量 一斗五升内外

畦幅 三尺乃至六尺

播幅 四寸内外

畦ノ方向 茶園ハ大部分傾斜地ナルヲ以テ傾斜ヲ横切り行ヘリ

播種ノ方式方法及播種後ノ管理 點播ヲ主トシ四尺内外ノ間隔ニ一ヶ所四、五粒乃至七、八粒ヲ下種シ除草中耕以外

管理ヲ行ハズ

改善ヲ要スル事項

基肥トシテ堆肥三百貫以上ヲ反當施用セシムルコト開墾地ニ播種スル場合ハ石灰反當二十貫乃至三十貫施用セシムルコト播種量ハ反當四斗五升内外トスルコト畦幅ハ四尺乃至五尺トナサシムルコト播種ハ條播トナサシムルコト等ヲ目下獎勵セリ

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

播種後ハ除草ヲ行ヒ旱害豫防ノ爲七月上旬乃至中旬ノ候芝草類ヲ施シ秋季降霜前深耕ヲ行ヒタル後根元ニ作溝基肥ヲ施シ株元ニ土寄ス發芽後二寸乃至三寸ニ伸長シタル時及七月乃至八月ノ候ニ稀釋人糞尿ヲ施用シ尙適時間引ヲ行フ

二 發芽第二年ノ肥培管理

四月上旬頃淺耕シ春肥ヲ施シ芝草類ヲ一面ニ撒布シ置キ秋季降霜前深耕ヲ行ヒ株元ニ作溝シ之ニ基肥ヲ施シ株元ニ土寄ヲナスコト第一年ニ同ジ

三 發芽第三年ノ肥培管理

第二年ニ同ジ

第五 仕立法竝整枝

一 仕立法ノ方式及方法

未成木園 播種後三年目位ニシテ八月下旬頃上部ノ枝梢ヲ切り除キ高サ一尺五寸乃至二尺位ノ低作饅頭形ニ仕立ツル

未モノトス

既成木園 饅頭形低作ニシテ一番茶芽摘採後勢力旺盛ナルモノヲ剪除シ八月下旬乃至九月上旬深刈ヲ行ヒ其ノ儘放置ス

二 手摘茶園ノ剪枝

未成木園 播種後三年目位ニシテ盛ニ生育セル上部枝梢ヲ剪除シ爾後八月下旬乃至九月上旬中央部ノ枝梢ヲ深ク剪リ上部ノ發育ヲ抑制シ側部ノ發育ヲ圖ルベク剪枝ヲ行フ

既成木園 毎年二番茶摘採ノ際本年ノ新梢ヲ殆ド全部剪リ採ルヲ普通トスルモ中ニハ毎年地上五寸位ヲ殘シ深刈ヲナシスモノアリ

三 缺摘茶園ノ剪枝

缺摘茶園ナシ

改善ヲ要スル事項 本縣ニ於テハ從來肥培管理不十分ニシテ且仕立法並剪枝當ヲ得ザルモノ多ク爲ニ反當收葉量尠カリシヲ以テ施肥量ノ増加ヲ圖ルハ勿論未成木茶園ニアリテハ上枝ノ伸長ヲ抑制スルト共ニ四年目位ニ至リ一番茶摘採後適當ノ箇所ヨリ水平刈ヲ行ヒ整枝茶樹ノ基礎ヲ作ラシメ將來二尺乃至二尺五寸ノ樹高ヲ有スル蒲鉾形トナサシメ既成木茶園ニアリテハ補植實生其ノ他ニヨリ間隔廣キ株間ヲ連續セシメ樹高二尺乃至二尺五寸ノ蒲鉾形トシ勢力衰退セル茶樹ハ臺刈ヲ行ヒ更ニ前記ノ樹形ニ仕立シメツ、アリ

第六 耕耘及除草

一 淺耕

春季彼岸頃三寸位ノ深サニ淺耕ス

二 元出及元寄

秋彼岸頃ヨリ十月頃迄ニ株元ノ土ヲ上根ノ少シ顯ル、位ヲ度トシ畦ノ中央ニ搔キ寄セ元出ヲ行ヒ元寄ハ秋冬ノ季ノ深耕後直ニ株元ニ土寄ヲ行フ

三 深耕

秋季降霜前株元四寸乃至五寸ノ處ヨリ一尺以上ノ深サニ耕起ス而シテ一畦ノ兩側ヲ同年度内ニ深耕スルヲ避ケ初年度ハ畦ノ一側ヲ次年度ハ他ノ一側ヲ行ヒ三年目ハ中止シ四年目ニ至リ前記ノ方法ヲ以テ深耕ス

四 除草

三月下旬以降雜草發生ノ都度之ヲ行フ

改善ヲ要スル事項 第六項ハ明治晩年頃迄慣行セシモ一部栽培熱心家ヲ除キテハ之ヲ行フモノ尠キニヨリ上記ノ事項勵行方ヲ唱導シツ、アリ

第七 肥料及敷草

一 肥料ノ種類

堆肥、大豆粕、菜種粕、硫酸アンモニア、人糞尿、草木灰、過磷酸石灰

二 施肥量

植付初年目

種類	數量	元	追肥	所含三要素量	
				窒素	磷酸
堆肥	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	八月上旬	九〇〇	四二〇
人糞	一五〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	八五五	一九五
					一、〇四〇
					四〇五

植付二年目

種類	數量	元	追肥	所含三要素量	
				窒素	磷酸
堆肥	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	七月七旬	九〇〇	四二〇
芝草	三〇〇、〇〇〇	一、四四〇	三〇〇、〇〇〇	一、四四〇	一、〇四〇
大豆	一二〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	四月上旬	九二〇	二四〇
硫酸アンモニア	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	一、〇〇〇	一三二
過磷酸石灰	三、〇〇〇	三、〇〇〇		六〇〇	一九〇
					一、〇四〇
					八七〇

三 施肥ノ時期及方法

元肥 深耕後株元ニ三寸ノ深サニ作溝之ニ施肥覆土ス

追肥 淺耕後及一番茶摘採後株ニ近ク稀釋施用シ芝草ハ株間ノ畦へ一面ニ撒布ス

四 間作綠肥

行フモノナシ

五 敷草

大部分施用セズ施用スルモノアルモ其ノ量尠シ

改善ヲ要スル事項 植付三年目以降ノ施肥量ハ植付二年ニ準ジ明治四十二、三年頃迄施用セシモ爾後茶ノ不況ト同時ニ熱心ナル當業者ハ芝草撒布及少量ノ速効性肥料ヲ施用セルニ過ギズ殆ド施肥セザルモノ多キニ至レルモ近時茶業經營ノ改善ヲ計ラシムルト同時ニ合理的施肥ヲ獎勵セル結果ハ漸次施肥ヲ行フニ至レリ將來經營改善上生産費節減ノ目的ヲ以テ「ルービン」或ハ青刈大豆等ノ間作綠肥ヲ栽培セシムルト同時ニ少クモ反當三百貫以上ノ敷草ヲ施用セシムベク獎勵中ナリ

第八 摘採

一 摘採ノ時期及回数

第一回ハ五月十日乃至五月二十五日、第二回ハ七月二十日乃至八月中旬

二 手摘

摘採時期ニ至レバ新梢ノ先端四乃至五葉ヲ手先ニテ摘採ス

目下行フモノナシ

改善ヲ要スル事項

目下樹勢衰退セルモノ多ク爲ニ新梢モ五日乃至十日ニシテ木質化シ摘採期間短キニヨリ剪枝及施肥ニヨリ樹勢ノ回復ヲ計リ摘採期間ヲ長カラシメ尙手摘ノ場合ハ摘採時期ヲ失セズ新梢三葉ヲ摘採セシムルコト將來茶樹勢力旺盛トナリ勞力不足地ニ於テ機械製茶ヲナス場合ハ缺摘ヲ行ハシムルコト

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

病害トシテハ茶赤葉枯病、蟲害トシテハ茶蝨、茶枝尺蠖等ノ被害アルモ大被害ヲ認メザルニヨリ驅除ヲ行ハズ改善ヲ要スル事項、今後之ガ驅除豫防法ヲ徹底セシメ極力防除ニ努メシメントス

第十 樹勢更新方法

臺刈 樹勢著ク衰退セルモノハ一番茶芽摘採後土際ヨリ全部刈取りヲ行ヒ特ニ施肥ヲ充分ニシ乾燥ヲ防グ爲數草ヲ施シ一、二年間ハ過度ノ摘採ヲ行ハズ樹勢ノ回復ヲ圖ルモノトス
施肥 過度ノ摘採ヲ行ハズ施肥ヲ行フコト本縣ノ茶樹ハ施肥不十分且老齡衰弱茶園多ク爲ニ臺刈施肥ヲ要スルモノ大部分ヲ占ムルモ特ニ施肥ハ樹勢回復上必要ナルヲ認ム

愛媛縣

甲 平地栽培ヲ主トスル地方 (周桑郡中川村)

第一 採種

一 採種ノ時期

十月下旬ヨリ十一月下旬迄約一ヶ月間トス

二 採種法及採種後ノ處理

十月下旬ヨリ順次成熟開裂セル種子ヲ挽ギ取ルカ或ハ脱穎シタルモノヲ拾取ス採集セル種子ハ普通ハ直ニ秋播トスルモ貯藏シテ春播トナスモノアリ

第二 種子ノ貯藏

風乾シタルモノヲ吹俵等ニ入レ濕氣少キ場所ニ貯藏ス

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

茶樹ハ深根植物ニシテ幼木時代早寒害ニ罹リ易キヲ以テ開墾整地ノ際一尺以上ノ天地返シヲナス若シ全園ニ亙リテ行フ能ハザル場合ハ播種ノ畦筋二尺幅位ヲ行フ

二 播種時ノ基肥

腐熟シタル堆肥ヲ反當三百貫位播種前整地ノ際鋤込ムヲ普通トス

三 播種期

十一月上旬ヨリ翌年五月上旬迄ニ播種スルモ當地方ハ採種直後ノ播種方最モ適合セルヲ以テ毎年十一月上旬ヨリ十二月中旬迄ニ播種ヲ終了ス

四 播種法

種子ノ豫措 春播ハ二晝夜位浸水シテ播種スルモ秋播ハ其ノ要ナシ

播種量 反當二斗五升乃至三斗トス

畦幅 四尺乃至五尺

播幅 條播ノ場合ハ一、二尺位繼續シテ少シク間隔ヲ置キ點播ノトキハ直徑一尺二寸ノ圓形ニ播溝ヲ造リ二寸間隔ニ

一粒宛下種ス

畦ノ方向 園ノ状態ニヨリテ異ナレドモ事情ノ許ス限り南北畦トス

播種ノ方式方法及播種後ノ管理 條播ノ場合ハ畦幅四尺中央ニ播溝ヲ作り點播ノ場合ハ畦幅五尺ノ中央ニ一尺八寸置

キニ直徑一尺二寸ノ圓形ニ播溝ヲ作りテ播下シ一寸位ノ覆土ヲナシ其ノ上ニ切藁又ハ籾殻ノ類ヲ撒布シテ乾燥或ハ

寒害ヲ防グテ發芽スレバ間引ヲナシ條播ノ分ハ間隔ヲ三寸トナシ點播ノ分ハ二寸置トス

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

早寒害防除ノ爲根元ニ反當百五十貫位ノ敷藁或ハ敷草ヲナス耕耘ハ畦ノ中間ニ止メ夏季及冬季ノ二回トス施肥ハ液肥(下肥)ヲ數回施用ス間作ニハ大豆小豆麥類ヲ栽培ス

二 發芽第二年ノ肥培管理

第一年ト同様百五十貫位ノ敷草ヲナス耕耘除草ハ第一年同様雜草ノ繁茂ヲ防グ程度ニ行フ施肥ハ冬季中耕ノ際大豆粕十貫硫酸アンモニア二貫位ヲ根ニ觸レザル様鋤キ込ム尙六月頃液肥(下肥)ヲ適宜施用ス間作ハ第一年ト同様ノコト

三 發芽第三年ノ肥培管理

敷草耕耘除草間作等皆第二年ニ同シ施肥ハ油粕二十貫過磷酸五貫ヲ混ジ三月頃鋤込ム六月及九月ノ二回ニ下肥二百貫ヲ施シ石灰二十貫ヲ冬期耕耘ノ際圃場一面ニ撒布シテ打込ム

四 發芽第四年ノ肥培管理

敷草耕耘除草ハ第二、第三年ニ準ズルモ間作ハ茶ノ繁茂ニ從ヒ行ハザルヲ常トス當年ハ初メテ收葉ヲ見ルニ付葉質ニ關係深キ肥料ヲ選擇スルヲ要ス普通三月下旬魚肥二十貫油粕十貫六月中旬大豆粕二十貫下肥百貫位ヲ夫々施用スルモノトス播種後三年目迄ハ自然ニ放任セルヲ以テ不規則ナル發育ヲナセルニ依リ先ヅ第一樹形ヲ整ヘル方針ノモトニ收

其後刈込ヲナス

第五 仕立法竝剪枝

一 未成木茶樹ノ仕立法ノ方式及方法

各梢ノ先端ヨリ三葉ヲ摘ミテ煎茶用ニ其ノ他ノ殘葉ハ手ニテ扱ギ取り番茶用ニ供ス而シテ樹形ヲ整フル爲ニ根部ヨリ四五本ノ强健ナル枝條ヲ殘シテ盃狀形ニ剪除ス

二 成木茶樹ノ仕立法ノ方式及方法

七八年ヲ經過スレバ樹形整フニ付叢生スル新梢ヲ三葉掛ケニ摘採シ煎茶用ニ供シ其ノ他ノ殘葉ハ手ニテ扱ギ取りテ番茶用ニ供ス樹形ノ亂レル憂アラバ適當ニ剪除ス

三 未成木茶樹ノ手摘茶園ノ剪枝

前項既述ノ如ク收葉後强健ナル枝條ヲ殘シテ盃狀形ニ剪枝シ爾後成木ニ達スル迄此ノ方法ヲ繼續スルコト

四 成木茶樹ノ手摘茶園ノ剪枝

樹形ノ整ヒタルモノハ剪枝ノ必要ナク亂レントスル憂アルモノニ限り適當ニ剪除スルニ止ム

五 成木茶樹ノ缺摘茶園ノ剪枝

五月中旬新梢ヲ三葉摘トナシ煎茶用ニ供ス殘部ハ新梢ヲ摘採缺ニテ第一回ノ摘採ヲナシ七月上旬第二回ノ缺摘ヲナス毎年此ノ方法ヲ繰返スモノナリ但成木ノ状態旺盛ナルトキハ九月頃第三回ノ缺摘ヲ行フコトアリ

第六 耕耘及除草

一 淺 耕

茶樹ハ根ノ損傷ヲ忌ムモノナレバ「チビ鉄」様ノモノニテ根元ヲ淺耕スルヲ普通トス

二 元出及元寄

成木茶樹ハ相當繁茂シテ畦間狭クナルヲ以テ元出元寄共不可能トナリ完全ニ行ハレザルニ至ル

三 深 耕

未成木期間ハ畦ノ中央ヲ牛耕ニヨリ深耕ヲナス成木園ハ枝條繁茂シテ自然牛耕出來ザルニ至ルヲ以テ施肥ノ際深耕スル程度ニ止ム

四 除 草

未成木時代ハ敷草ニヨリ防止スル外一、二回除草ヲナス成木茶樹ハ一番茶摘採後淺耕シテ除草ヲナス其ノ後敷草ニヨリ防止スルモノ多シ

第七 肥料及敷草

一 肥料ノ種類

魚肥、油粕、人糞尿、過磷酸石灰等ヲ併用ス

二 施 肥 量

(種類別、施肥期別數等量及所含三要素量)

一 未成木茶樹施肥量(反當)

種類	施肥期	種類					合計	所含三要素量		
		木灰	人糞	過磷酸石灰	魚肥	大豆粕		窒素	磷酸	加里
合計	三月	10,000		5,000	15,000		3,000	2,000	1,600	
	六月				15,000	100,000				
	九月									
	十二月					100,000				
	合計		10,000	100,000	15,000	15,000	3,000	2,000	1,600	
	合計		10,000	100,000	15,000	15,000	3,000	2,000	1,600	

備考 敷草ハ旱寒害防止用ニ用ユルヲ以テ計入セズ

二 成木茶樹施肥量(反當)

種類	施肥期	種類		合計	所含三要素量		
		菜種粕	硫酸アンモニア		窒素	磷酸	加里
合計	三月	20,000	10,000	30,000	2,000	1,100	1,000
	四月						
	六月						
	九月						
	十二月						
	合計		20,000	10,000	30,000	2,000	1,100

種類	施肥期	種類				合計	所含三要素量		
		木灰	人糞	硫酸加里	石灰		窒素	磷酸	加里
合計	三月	15,000				11,300	6,400	8,450	
	四月			8,000					
	六月				100,000				
	九月				100,000				
	十二月				10,000				
	合計		15,000	8,000	100,000	10,000	11,300	6,400	8,450

備考 糞及石灰ハ間接肥料トシテ施用スルヲ以テ成分量ニ算入セズ

右ハ當村ニ於ケル玉露園トシテ優良ナル茶園ニ施用スル分量ニシテ普通ノ前茶園ハ此ノ半量内外ノモノ多シ但施用方法時期等ハ同一ナリ

三 施肥ノ時期及方法

前表ノ通り普通芽出肥トシテ三月ニ第一回ヲ行ヒ成木園ハ更ニ四月速効肥料ヲ施用シニ番茶摘採後六月下旬下肥ヲ施スモノ多シ施肥法ハ密生園ハ畦間ニ撒布シテ鋤キ込ムモ然ラザルモノハ株元ヲ淺耕シテ埋メ込ムモノ多シ

四 間作綠肥

未成木時代ハ空地利用ノ爲大豆ヲ間作シテ綠肥トシテ鋤キ込ムコトアルモ成木ニ達スレバ間作ヲ行ハズ

五 敷草

未成木時代ハ旱害ト雜草ノ繁茂ヲ防止スル爲根元ニ少量施用ス成木園ハ専ラ有機質補給用トシテ六月及十二月ニ反當三百貫内外ノ敷草ヲナス

第八 摘採

一 摘採ノ時期及回数

普通年二回五月上旬及六月下旬トス

二 手摘

五月上旬ニ一回行フ其ノ後ハ缺摘トス

三 缺摘

六月下旬(二番茶)及九月頃缺摘ヲ行ヒ主トシテ川柳茶(番茶ノ上等)トナス

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

病蟲害及災害ノ主ナルモノハ浮塵子、介殼蟲、蓑蟲、霜害、旱害等トス

浮塵子 從來石灰硫黄合劑ヲ以テ防除シタルモ製茶ノ香氣ヲ損ズルヲ以テ爾後研究ヲ重ネタル結果現在ハ硫酸ニコチン劑ノ八百倍乃至千倍ヲ使用シ驅除ヲナス

介殼蟲 全園ニ蔓延セル場合ハ摘葉後直ニ石灰硫黄合劑ノ撒布ニヨリ防除スルモ部分的ノ場合ハ石油浸布ヲ以テ摩擦

防除ヲナスヲ普通トス

蓑蟲 手ニテ捕殺スルヲ普通トス

霜害豫防 霜害豫防ト製茶ノ品質上進ノ目的ニテ優良茶園ニハ新藁ノ覆ヒ(藁カブセ)ヲナスモノアリ
旱害 敷草ニヨリ防除ス

第十 樹勢更新法

成木園ニシテ老衰又ハ病蟲害ノ災害ニヨリ著ク園ノ荒廢セルモノハ根際ヨリ剪除シテ更新ヲ計ルコトアリ

乙 山茶栽培ヲ主トスル地方 (上浮穴郡弘形村)

第一 採種

一 採種ノ時期

十月下旬

二 採種法及採種後ノ處理

自然落果セルモノヲ採取ス

第二 種子ノ貯藏

特別ナル貯藏法ナシ桶俵等適當ナルモノニ入レ其ノ儘家ノ一部ニ貯藏ス

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

切替畑ヲ其ノ儘茶園ニ利用スルモノ多ク簡單ナル堀り起シニ止ム

二 播種時ノ基肥

一般ニハ行ハズ僅ニ山草堆肥ヲ施用スルモノアリ

三 播種期

三月乃至四月

四 播種法

點播多ク僅ニ條播スルモノアリ
種子ノ豫措 行フモノナシ

播種量 反當五六斗

畦幅 二尺五寸乃至三尺

播幅 一尺

畦ノ方向 一定セズ

播種ノ方式 特別ニナク覆土スルノミ

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

二 發芽第二年ノ肥培管理

三 發芽第三年ノ肥培管理

除草中耕

註 菽類、玉蜀黍等間作物ノ肥料ヲ吸收スルヲ以テ充分生育ス

第五 仕立法竝剪枝

摘採シ得ル程度ニ成育シタル茶樹ニ付テハ適當ノ高サニ鎌ヲ以テ刈込ヲ行フ

第六 耕耘及除草

二、三回中耕除草ヲ兼テ行フ

第七 肥料及敷草

一 肥料ノ種類

山草、下肥、堆肥、大豆粕

二 施肥ノ量

不明(茶樹ニ専用スルモノナシ)ナルモ反當自給肥料(山草堆肥)五、六百貫下肥金肥等五六圓位トス

三 施肥ノ時期及方法

芽出シ前下肥及金肥ヲ施シ茶葉摘採後山草等ヲ施用スニ最モ以テ宜シ

四 間作綠肥

ナシ

五 敷草

五百乃至六百貫

第八 摘採

一 摘採ノ時期及回数

植付後三四年目ヨリ年一回摘採ス(五月中下旬)

二 手摘

全部手摘トス

三 摘採ノ時期及回数
植付後三四年目ヨリ年一回摘採ス(五月中下旬)
二 手摘
全部手摘トス

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

別ニ行ハズ

第十 樹勢更新法

老木ハ時ニ刈込ミヲ強クスル外荒廢シタルモノハ根刈ヲ行フ

高知縣

第一 採種

一 採種ノ時期

採種用ニ供スルモノハ十月中下旬種子ノ成熟シ正ニ脱落セントスル時又落下後直ニ採取ス

二 採種法及採種後ノ處理

成熟セル種子ヲ鬼皮ノマ、採取スルカ又ハ落下後種子ノミヲ採取シ蔭乾ヲ行ヒ（鬼皮ノマ、採取セルモノハ鬼皮ヲ除キ）選別シ大形ニシテ重ク黒褐色ヲ呈セル優良ナルモノ、ミトナス

第二 種子ノ貯藏

秋播ノ場合ヲ除キ種子ノ貯藏ヲ行フ貯藏ハ能ク蔭乾シタル種子ヲ土地ノ乾燥セル温度ノ變化少ナキ場所ヲ選ビ種子ノ量ニ應ジタル深サ三尺位ノ穴ヲ堀リ周圍ヲ乾燥シタル藁又ハ藎ニテ圍ヒ種子ト砂トヲ混合シ穴ノ中ニ詰メ乾燥藁又ハ藎ヲ覆ヒ其ノ上ニ土ヲ十分ニ掛ケ山型トナシ軒下ノ場合ノ他ハ屋根ヲ造リ雨水ノ浸入ヲ防グ

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

新開地ノ場合ハ勿論古畑ニアリテモ最初成ルベク深く地面ヲ耕起シ殊ニ新開地ハ木株草根竹根等ハ出來得ル限り叮嚀ニ除却シ土塊ヲ碎キ地均ヲ行フ殊ニ急傾斜地ニ於テハ段畑トナス

二 播種時ノ基肥

基肥ハ從來使用スルモノ少カリシモ之ガ施用ノ有無多少ハ幼苗生育ニ至大ノ影響アルヲ以テ將來左ノ標準ヲ以テ獎勵セントス播種直前反當堆肥（刈草）二百貫大豆粕十五貫ヲ播溝ニ深く埋没シ充分覆土ヲナシ播種ス

三 播種期

開墾整地等勞力分配上秋播ヲ行フモノ少ク概ネ春播トナス春播ハ春期温暖トナリ結水ナキニ至リタル頃二月下旬ヨリ

三月下旬迄ニ行フ

四 播種法

種子ノ豫措 播種時期ハ場所等ニヨリ差異アルモ春播ニアリテハ播種前三日内外清水ニ浸シ播種ス

播種量 播種量ハ畦幅播種ノ方式種子ノ良否等ニヨリ差異アルモ普通反當四斗ヲ以テ標準トス

畦幅 土地ノ肥瘠又ハ仕立法ニヨリ畦幅ヲ異ニスレドモ普通五尺ヲ標準トス

播幅 一條播ニアリテハ五寸乃至六寸トシ二條播ニアリテハ三寸トシ中間ヲ一尺ノ距離ニ二條ヲ作ルヲ普通トス

畦ノ方向 畦ノ方向ハ地形ニ依リテ異ナルモ平坦地ニアリテハ地區ノ長徑ニ並行ニ作り傾斜地ニアリテハ傾斜線ニ直

角ニ畦ヲ作ルヲ普通トス

播種ノ方式方法及播種後ノ管理 土地ノ肥瘠ニヨリテ一條播、二條播トナスモ二條播ヲ獎勵シツ、アリ整地シタル土地ニ播溝ヲ深く堀リ基肥ヲ施シ十分土ヲ覆ヒ其ノ上ニ播種ヲ行ヒ一寸五分内外ノ覆土ヲナシ藁刈草等ヲ被ヒ乾燥ヲ

防グモノトス播種後發芽迄ニ相當ノ日時ヲ要スルヲ以テ其ノ間特ニ除草ニ注意ヲナス

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

發芽直後ノ茶樹ハ抵抗力極テ弱キヲ以テ特ニ除草ニ注意シ中耕ハ秋期迄ニ二、三回行フト共ニ液肥（下肥又ハ硫酸ア
ンモニア）ヲ二、三回施用シ茶樹ノ培養ニ努メ秋期ニ至レバ深耕ヲ行ヒ堆肥、大豆粕、魚粕等ノ肥料ヲ茶樹根元ニ施
用シ敷草ヲナス從來施肥量甚ダ少カリシヲ以テ將來左ノ標準ニ依リ獎勵セントス冬期ハ特ニ除草ニ注意ス

第一年ノ施肥成分量 (敷草ノ成分量ハ含まズ)

窒素 三、〇〇〇匁 加里 一、五〇〇匁 磷酸 五〇〇匁 硫酸 五〇〇匁

二 發芽第二年ノ肥培管理

春季(三月)大豆粕、油粕等ノ肥料ヲ施用シ夏期七、八月ノ頃硫酸アンモニア又ハ人糞尿ヲ液肥トシテ施用シ秋期ニ至レバ第一年ト同様ノ肥料ヲ施用シ敷草ヲ行フ施肥量ハ茶樹ノ生育ニ伴ヒ増加ス耕作除草等第一年ニ準ズ

三 發芽第三年ノ肥培管理

第一回ノ剪枝ヲ行フ剪枝ハ地上七、八寸ヨリ水平ニ剪除シ側枝ノ伸長ニ努ム

四 間作物ノ栽培

畦間ノ間隔廣キヲ以テ間作トシテ豆類、里芋、蕎麥、生薑等ヲ栽培ス

第五 仕立法並剪枝

茶樹仕立法ノ良否ハ收葉量ノ品質ニ關係ヲ有スルノミナラズ樹齡並摘採功程ニ著キ影響ヲ及ボスモノナルヲ以テ栽培經營上最重要ナル事項ナリ然ルニ從來之ニ意ヲ用フルモノ少カリシハ最モ遺憾トスルモノニシテ將來ニ於テハ之ガ根本的ノ改善ヲ行ヒ合理的方法ニ依ラシメントス

一 仕立法ノ方式及方法

仕立法ノ方法ハ肥培ノ程度氣候ノ寒暖製茶法ノ如何ニヨリ異ルモ本縣ノ氣候並茶業ノ現狀ヨリスレバ左ノ方法ニ依ラシムルヲ理想トス

成木園ノ樹型及仕立法

成木園ノ樹型及仕立法ハ樹高二尺乃至二尺五寸、株張五尺乃至四尺五寸、樹型半圓筒型トス

理想的仕立法ハ主幹ノ數少ク地表ヲ少シク上リテ(四、五寸)數本ニ分枝シ順次上ルニ從ツテ多數ノ枝條ヲ生ジ裾枝ニ至ルマデ茶芽密生シ摘採面ノ平坦ナル半圓筒型又ハ蒲鉾型トナスモノナリ從ツテ發芽第三年目ヨリ一番茶ヲ摘採シ直後地上七、八寸ノ高サニテ上部ヲ水平ニ剪定シ順次樹高ヲ高メ樹型ヲ整ヘツ、三、四年繰返シ此ノ方法ヲ行ヒ裾枝ノ發育ヲ促シ樹型ノ整備ニ努ム

本縣ニ於テハ發芽後七年生ニシテ成木園ニ到達ス

未成木園ノ樹型及仕立法

未成木茶樹ニアリテハ發芽三年目ノ一番茶ヲ摘採シ直後地上七、八寸ノ高サニテ上部ヲ水平ニ剪定シ側枝ノ發育ヲ促シ年々三、四寸宛樹高ヲ高メツ、漸次上部ヲ圓型ニ剪枝スルモノトス

二 手摘茶園ノ剪枝

普通一番茶後ニ剪枝ス地方ニヨリテハ二番茶後、三番茶後行フト雖モ其ノ時期ハ氣候病蟲害ノ發生其ノ他農事トノ關係等ニ從テ夫々按配シツ、アルモノナリ本縣ニ於テハ一番茶後剪枝スルモ枝條ノ伸長盛ニシテ多數ノ徒長枝ヲ發生シ株面不揃トナルヲ以テ秋芽ノ發育停止後剪枝ヲ行フヲ要ス再整剪枝ノ時期ハ十月中下旬ナリ剪枝ノ方法ハ土地深ク肥沃ニシテ樹勢強キモノハ深クシ土壤瘠薄淺土ニシテ樹勢弱キモノハ淺クシ且四、五年目毎ニ稍深ク刈込ミ樹型ノ増大ヲ防ギ樹高ヲ二尺乃至二尺五寸ニ保タシムルモノトス

三 缺摘茶園ノ剪枝

缺摘茶園ハ特ニ株面整齊ナラザレバ木莖古葉等ノ混入ヲ招クニヨリ秋芽ノ伸育盛ナル時ハ秋期株直シノ剪枝ヲ行フカ

又ハ春期發育前之ヲ行フモノトス秋ノ株直シハ晩秋ノ茶芽伸育ヲ止メ剪枝スルモ再ビ發芽ヲ見ザル程度(十月下旬)或ハ春季發芽前(三月初旬頃)之ヲ行フ其ノ際過度ノ剪除ハ收葉量ニ影響スルコト多キヲ以テ極テ淺ク剪枝ス茶園ハ缺摘ニ依リ年々樹型ヲ増大シ發芽數ハ増加スルモ葉型ヲ縮少シ樹勢ヲ衰退セシムルヲ以テ四、五年目毎ニ稍深刈ヲナシ施肥量ヲモ増加シ樹勢ノ回復ヲ圖ルモノトス

第六 耕耘及除草

茶樹ハ他ノ作物ニ比シ樹性强キモ年内ニハ數回ノ摘採ヲ行フヲ以テ自然根部ノ活動ヲ促シ樹勢ヲ維持スルヲ要シ常ニ之ガ發生ヲ容易ナラシムル爲メ土壤ヲ膨軟ニシ氣水ノ流通ヲ圖リ且肥料ノ分解ヲ良好ナラシムルト共ニ肥料性分ノ流失ヲ防ギ適度ノ水分ヲ保持セシムル爲メ耕耘ヲ必要トスルモノナリ

一 淺 耕

時期 春期發芽前(三月上旬)及一番茶後(五月下旬乃至六月上旬)二番茶後(七月下旬)ノ三回ニ之ヲ行フ

方法 三本畝ヲ用ヒ春期ハ根元ニ鍬入セヌ様三、四寸ノ深サニ輕ク打起シ土壤ヲ粉碎シ同時ニ芽出肥ヲ施用ス一番茶後ハ摘採後畦間ノ踏ミ固メラレタルモノヲ三、四寸ノ深サニ打起シ土壤ヲ粉碎シ土壤ヲ膨軟ナラシム二番茶後ハ一番茶後ノ方法ニ準ジ耕耘ヲ行フ

二 深耕元出及元寄

時期 九月中下旬

方法 三本畝ヲ用ヒ畦間ヲ深サ五、六寸ニ耕起シ古キ枝根ヲ切斷シ敷草ハ深く鋤込ミ根元ノ土壤ヲ畦間ノ中央ニ盛り

土壤ノ風化ヲ促シ旬日ヲ經テ土壤ヲ粉碎シ土壤ヲ根元ニ寄セ敷草ヲ行フモノトス

三 除草

除草ハ淺耕ノ際之ヲ兼ネ行フノ外必要ト認ムル時行フモノニシテ除草ノ時期大要左ノ如シ
 一月中旬、三月上旬、四月中旬、五月下旬又六月上旬、七月中下旬、八月中下旬、九月上旬、十二月上旬
 未成木茶園ノ耕耘除草ハ成木園ニ準ズ

第七 肥料及敷草

施肥ノ多少ハ茶ノ品質收葉量ニ至大ノ影響ヲ及ボスモノニシテ實ニ茶業ノ根本ナリ然ルニ從來施肥量ノ不足並施用方法ノ不合理ナル爲メ損失極テ大ナレバ將來之ガ施用ニ關シ合理的方法ヲ獎勵セザルベカラズ又敷草ハ茶樹ノ個性上最モ必要ナルノミナラズ旱、寒害ノ防除其ノ他耕種並土性改善上必要ナルヲ以テ多用ヲ獎勵シツツアリ本項ニ對シ本縣ニ於テ改善獎勵セントスル方法左ノ如シ

成木園

一 肥料ノ種類

大豆粕、油粕、魚肥、人糞尿、硫酸アンモニア、過磷酸石灰、硫酸加里

二 施肥量

土質、樹齡及茶樹ノ成育狀態等ニヨリ異ルモ生葉二百五十貫乃至三百貫ノ收量(一、二、三、番茶摘採)ニ對スル標準成分量左ノ如シ

窒素六貫匁、磷酸三貫匁、加里三貫匁(敷草ノ含有成分ヲ含マズ)
右成分ニ基ク施肥量ノ標準

種類	數量	施肥量		所含三要素量	
		基肥	春肥	窒素	磷酸加里
大豆	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、九三三	六二五
油粕	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	—	七〇	八二〇
硫酸アンモニア	一一、〇〇〇	—	三、七〇〇	二、一〇〇	三六〇
過磷酸石灰	一一、〇〇〇	—	—	—	一、六〇〇
硫酸加里	四、五〇〇	四、五〇〇	—	—	—
敷草	一〇〇、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	—	—	—
計	二八二、五〇〇	二八二、五〇〇	一三、七〇〇	六、八七三	二、六二五

三 施肥ノ時期及方法

施肥ノ時期 秋期九月下旬乃至十月上旬(基肥又元肥) 春期三月上旬(春肥) 一番茶後及二番茶後ノ四回トス

施肥ノ方法 基肥ハ深耕ト同時ニ元出ヲ行ヒタル後其ノ窪キ所ニ施シ直ニ元寄ヲ行ヒ覆土ヲナシ春肥、夏肥ハ淺耕後根元ニ溝ヲ切り施用シ覆土ヲ行フ特ニ畦間狭キモノハ深耕又ハ淺耕直前肥料ヲ撒布シ耕耘シツ、土中ニ埋メルモノトス 基肥ニハ遅効性又ハ固形肥料ヲ施用シ追肥春肥夏肥ニハ速効性ノモノヲ使用ス

四 間作緑肥

間作緑肥作物ノ栽培施用ハ金肥節減地力増進上最モ必要ナルヲ以テ將來之ガ栽培ノ奨励ヲナス計畫ニシテ本年度「ルビン」ノ試作ヲナシツ、アリ

五 敷草

敷草ノ時期ハ秋期耕耘後畦間ニ敷込ムヲ普通トナスモ猶夏期旱害防止用トシテ七、八月頃敷込ムコトアリ敷草量ハ畦間ノ廣狭ニ依リ差異アルモノ一反歩ニ對シ乾草二百貫ヲ標準トス

未成木園

一 肥料ノ種類

大豆粕、人糞尿、硫酸アンモニア、過磷酸石灰、油粕、硫酸加里

二 施肥ノ標準量

施肥標準量左ノ如シ

樹齡	所含三要素量		敷草量 (乾燥量)	備考
	窒素	磷酸加里		
一	四、五〇〇	二、五〇〇	九〇、〇〇〇	播種基肥ヲ含ム
二	三、二〇〇	一、八〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	
三	三、五〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	摘採開始
四	四、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	
五	六、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
六	六、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	

成木園ニ準ズ	三 施肥ノ時期及方法	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇
成木園ニ準ズ	四 間作綠肥	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
成木園ニ準ズ	五 敷草	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

第八摘採

一 摘採ノ時期及回数

品質優秀ナル製茶ハ肥培充分ナル軟芽ニ依ツテ得ラル從ツテ茶芽ノ伸育状態ヲ觀察シテ茶芽ノ硬化セヌ嫩芽ノ内ニ之ヲ行フヲ要ス摘採期遅ルル時ハ收葉ヲ増スモ茶葉ハ硬化シ木莖古葉ノ混入多ク製茶ノ品質低下スルニ止マラズ樹勢ヲ著ク消耗衰弱シ多量ノ施肥ヲ要シ結局經營上不利ヲ招クモノナルヲ以テ極力早摘ヲ獎勵シツ、アリ摘採回数ハ年三回トス摘採開始期左ノ如シ

第一回四月下旬乃至五月上旬、第二回六月下旬乃至七月上旬、第三回八月中下旬

自然茶樹ニアリテハ年一回ヲ摘採ヲ行フ摘採開始期ハ四月下旬乃至五月上旬ナリ未成木園ニ於テハ樹型整備ヲ目標トシ摘採ハ輕クナスモ初年(發芽後三年目)ハ一番茶ノミ二年目(發芽後四年目)ハ一、二番茶三年目(發芽後五年目)ハ一、二、三番茶ヲ摘採シ以後ハ年三回ノ摘採ヲ行フモノトス

第二手摘採

手摘ハ自然茶園又ハ品質本位ノ優良茶製造並未成木園ニ行ヒツ、アリ普通ハ折摘ニシテ五、六葉開キトナリタル時三、四葉ヲ摘ミ取ル末期ニ至リテハ扱摘ヲ行フ(主トシテ自然茶園)モノアリ

三 缺摘

普通栽培茶園ニ於テ經濟的經營上使用セシメントスルモノニシテ將來増殖セントスル茶園ニ對シテハ充分ナル指導ノ上缺摘ノ獎勵ヲナサントスルモノナリ現在使用セル摘採缺ハ内田式最モ多シ

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

一 病蟲害

病蟲害共本縣ニ於テハ甚ダ少シ害蟲ノ主ナルモノハ小綠浮塵子ニシテ二番茶發芽當時又ハ三番茶發芽當時ニ發生スルモノ多ク除蟲菊石鹼液、ネオトン等ノ藥劑ヲ用ヒ驅除シツ、アリ

本縣山茶園ハ其ノ他ノ災害ニシテハ寒害、雪害ハ山間部高燥地ノ山茶園ニ於テ往々受クルコトアルモ特別ノ管理ヲ施スコトナシ普通山茶園又ハ栽培茶園ニ於テハ被害ナシ晚霜害ハ一部地方ノ栽培茶園ヲ除ク外極テ少シ

第十 樹勢更新法

栽培茶園ハ創設最近ニシテ更新期ニ達シタルモノナク山茶(無肥料ナルモノ)ニアリテ八十ケ年内外ニテ一度宛臺刈方法ニ依リ更新シツ、アリ更新後ノ成績ハ極テ良好ナリ

第十一 山茶園ノ栽培狀況

本縣山茶園ハ製紙原料(主トシテ楮)麥、玉蜀黍等ノ混植栽培ニシテ肥培管理ニ於テモ亦特ニ茶樹ニ對スルモノトシテ行フコトナク混植又ハ間作物ノ管理ト同時ニ行フヲ普通トス然レドモ斯ノ如キハ生産上甚ダ不利ナルヲ以テ適當ナル方法ニ依リ純茶園ニ改良シ集約栽培ヲ獎勵セントス摘採剪枝ノ狀況等左ノ如シ

一 摘採

摘採ハ手摘ニシテ折摘ヲ行フ末期ニ至レバ扱摘ニ依ルモノ多シ

二 剪枝

一番茶摘採後直ニ剪枝缺又ハ鎌等ヲ用ヒ上部ヲ剪枝シ樹型ヲ高サ一尺五寸乃至二尺株張三尺内外ノ半球型ニ仕立テツ、アリ從來無剪枝トナシ三年目又ハ甚シキ時ニハ毎年根元ヨリ刈リ(臺刈)取ルヲ一種ノ剪枝ト誤認シテ行ヒツ、アリシガ最近ニ於テハ殆下此ノ方法ヲ行フモノナシ

福岡縣

第一 採種

一 採種ノ時期

晚秋(十一月中下旬)種子破莢シテ脫落セントスル頃ヲ見計ヒ採集ス

二 採種法及採種後ノ處理

種子完熟セバ破莢シテ地上ニ落下スルニヨリ落下ニ先立チ挽ギ取ルカ落下シタルモノヲ拾集ス採取シタル種實ハ竹籠又ハ筵上ニ擴ゲ室内ニ一週間位風乾放置セバ外殼ヲ着スルモノノ自然ニ破綻スルニヨリ破綻セバ外殼ノ軟カナル内ニ剝ギ種子ハ濃褐色ヲ呈シ圓味ヲ帶ビタル内容ノ充實シタルモノヲ撰別ス撰別シタル種子ハ室内ニテ充分風乾スルモノトス

第二 種子ノ貯藏

風乾シタル種子ハ吠俵等ニ入レ納屋ニ貯藏スルモ貯藏中ハ積ミ重ネテ種子ノ酸酵セザル様ニ注意ス

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

茶樹ヲ新ニ播付クベキ圃場ハ播種前充分ニ深ク打チ起シテ後整地ス殊ニ山野ヲ開墾スル新開地ニアリテハ秋冬ノ農閑期ヲ利用シテ深ク荒起ヲナシ木株草根等ヲ振ヒ出シ更ニ叮嚀ニ精耕シテ後整地ス排水不良ニシテ過濕ノ患アル地ハ排水ノ設備ヲナス

二 播種時ノ基肥

一般ニ播種時ノ基肥ハ施スモノ尠ク發芽後追肥トシテ人糞尿、硫酸アンモニア等ノ液肥ヲ施スモノ多シ然レドモ播種時ノ基肥施用ハ極テ必要ナルニヨリ反當堆肥二百貫大豆粕八貫過燐酸石灰三貫ヲ配合スルコトヲ獎勵シツ、アリ

三 播種期

秋播ハ翌春發芽早ク且伸育旺盛ニシテ早害ニ耐ユルノ力强キタメ秋季十一月下旬頃ニ採集シタル種子ヲ直ニ下種スルモノアルモ一般ニハ翌春三月中下旬ノ頃播種スルモノ多シ

四 播種法

種子ノ豫措 春播トナストキハ特ニ種子ノ貯藏ヲ叮嚀ニシテハ風乾セル種子ヲ二、三日間浸水後播種ス

播種量 反當三斗五升乃至四斗ヲ標準トナスモ播種法及畦幅ニヨリテ次ノ如ク多少相違ス而シテ茶樹ハ普通ノ場合幼稚ナル際ハ相當密生スル方却テ生育可良ナレバ稍下種量ヲ増シ發芽後一二年間ニ於テ相當ニ間引ス

畦幅 (畦幅) 畦幅ニヨリテ畦間ノ寬度ヲ定ムルコトアリ (反當種子量) 畦幅ニヨリテ畦間ノ寬度ヲ定ムルコトアリ

畦幅 四尺五寸乃至五尺 三斗五升 畦幅ニヨリテ畦間ノ寬度ヲ定ムルコトアリ

六 尺 二斗 畦幅ニヨリテ畦間ノ寬度ヲ定ムルコトアリ

畦幅 四尺五寸乃至五尺ヲ標準トス

播幅 五寸乃至六寸ヲ標準トス

畦ノ方向 地勢ニヨリテ定ムベキモ平坦地ニ於テハ大體南北畦ヲ理想トス實用的ニハ園圃ノ狀態ニヨリ定ムルヲ得策トス地劃ノ長サニ並行シテ見通シ良ク作り傾斜地ニ於テハ急傾斜ノ場合ハ傾斜ヲ横切り緩傾斜ノ場合ハ地劃ト周圍ノ事情ニヨリテ傾斜ニ並行シ或ハ斜ニ作ルコトアリ

播種ノ方式方法及播種後ノ管理 播種法ニハ種々アレドモ條播ヲ有利トス條播ニハ一條播二條播ノ別アルモ何レニテ

モ可ナリ播種スベキ所ハ入念ニ土塊ヲ碎キテ整地シ畦間ヲ定メ一條播ハ手鉞ニテ五六寸ノ幅一條ニ二條播ノ場合ハ條間ヲ八寸乃至一尺トシ二條ニ何レモ深サ二寸内外ノ播溝ヲ切り播溝ニハ播種時ノ基肥トシテ堆肥又ハ配合肥料ヲ

施シ播溝片側ノ土ヲ覆ヒ下種シ鉞ニテ輕ク壓シ反對側ノ土ヲ被ヒ播種終レバ播付ケタル上ニ敷藁、糞糠等ヲ以テ覆フ

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

茶樹ハ幼樹ノ發育促進保護最モ大切ニシテ此ノ間充分ナル肥培ト適切ナル管理ヲ加ヘ第一年目秋期迄ニハ健全ナル茶樹ニ養成スルコト最モ緊要ナリ秋春播何レニテモ五月中下旬ノ頃ニ至レバ發芽シ漸次伸育スルモノナレバ發芽後ハ雜草ノ發生ニ注意シ早目ニ除草ヲ兼テ淺耕ヲナシ其ノ都度稀釋シタル速効性液肥ヲ施用ス發芽後夏季ノ早害ニカ、リ枯死シ易キモノナレバ五月下旬頃茶樹ノ兩側ニ敷草ヲナシ其ノ被害ヲ防グコト尙育中密生ノ稚苗又ハ一見樹勢著ク貧弱ナルモノ茶芽ノ赤黒色ヲナスモノ葉形ノ大小過度ナルモノ等ハ間引シ形態樹勢ノ均一ヲ圖ルコト間引ハ一回ニ行ハズシテ一、三年間ニ亘リ隨時行フモ其ノ時期ハ春秋ノ候降雨後土壤ノ膨軟ナル時ニ行フ秋期ニ於ケル基肥ハ努メテ配

合肥料ヲ早日ニ施シ秋芽ノ促伸ニ努ムルコト茶樹幼少ナル間ハ春夏ノ候ニ於テ根菜類又ハ綠肥作物等ノ如キ茶樹ノ伸育ヲ阻害セザル適當ナル間作ヲナスハ幼茶樹ノ保護トモナリ間作ニヨリ相當ノ收益ヲ擧グルコトニ努ムルハ生産經濟上必要ナリ

二 發芽第二年ノ肥培管理

初年ニ比シ成育極テ旺盛トナルニヨリ前年ニ準ジテ肥培管理ニ努メ摘採セザルヲ可トスルモ樹型ノ基礎ヲ作ル爲強制枝ヲ抑制シ側枝、裾枝ノ伸育ヲ促スタメ一番茶直後地上五、六寸ノ位置ヨリ剪枝面ヲ水平ニ剪枝ヲナス前年ノ敷草ハ四月上旬春肥ノ際ニ打込ミ梅雨後新ニ反當百五十貫匁内外ノ敷草ヲ施ス

三 發芽第三年ノ肥培管理

第四年ヨリ摘採ノ準備仕立ヲナスタメ本年ヨリ一番茶ノ摘採ヲナスモ輕ク茶株ヲ摘ヘル程度ニ止メ二番茶以後ノ摘採ハセザルコト一番茶ノ拾ヒ摘ミヲ終レバ直ニ地上六、七寸ヲ程度トシ中心勢力ヲ抑制スル様ニ剪枝ヲナスモ高刈ニナリ易キヲ以テ注意ヲ要ス第三年目ノ肥培管理モ大體前年ニ準ズルモ秋季ノ基肥ヲ施スト同時ニ深耕ヲ行ヒ明年摘採ヲ行フ場合ニハ九月乃至十月ニ再整剪枝ヲ行フ要アリ

四 幼齡茶樹ノ施肥

幼齡茶樹施肥例ヲ示セバ次ノ如クナルモ茶樹栽培上最モ必要ナル有機質ヲ附與シ土壤ノ改善ヲ圖ルト共ニ幼茶樹ノ健全ナル發達ヲ助長スル目的ヲ以テ腐熟セル堆肥ヲ施シ四年目以後ハ年々敷込ム刈草ニヨリ補フモノトス

種類	反當施肥量	所含要素量		
		窒素	磷酸	酸加里
堆肥	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、二六〇
大豆粕	八、〇〇〇	五三四	一〇六	一二八
過磷酸石灰	三、〇〇〇	一、五三四	四五〇	一、三八八
計				

二 第一年目施肥量

種類	反當施肥量	所含要素量		
		窒素	磷酸	酸加里
堆肥	六二〇、〇〇〇	一、〇〇〇	五二〇	一、二六〇
大豆粕	五、〇〇〇	二〇三三四	一六六	八〇
硫酸アンモニア	一〇、〇〇〇	二、〇五九	一	
過磷酸石灰	六、〇〇〇	一	九〇一	
硫酸加里	一、〇〇〇	一	一	
計		三、三九三	一、四八七	一、八一七

二貫ヲ基肥八貫ヲ二回ニ追肥トシテ分肥

三 第一年目肥料分施例

種別	反當施肥量	所含三要素量			備考
		窒素	磷酸	硫酸加里	
第一回夏肥 六月	硫酸アンモニア	4,000	824	520	
第二回夏肥 八月	同	4,000	824	520	
小計	堆肥	20,000	1,648	1,040	
同	大豆粕	5,000	334	266	
同	硫酸アンモニア	2,000	412	901	
同	過磷酸石灰	6,000	1,746	1,487	
同	硫酸加里	1,000	3,394	1,487	
小計	計	33,000	8,740	4,777	
大豆粕	堆肥	20,000	1,648	1,040	
計	反當施肥量	668	1,332	160	

四 第二年目施肥量

硫酸アンモニア	10,000	2,059	1,201	716	
過磷酸石灰	8,000	1,853	1,136		
硫酸加里	1,500				
計		3,727			

五 第二年目分施肥例

施肥期	種類	反當施肥量	所含三要素量	備考
春肥 三月	大豆粕	4,000	267	
同	硫酸アンモニア	4,000	824	
同	過磷酸石灰	4,000	600	
小計		12,000	1,691	
夏肥 六月	硫酸アンモニア	3,000	618	
同	同	3,000	618	
小計		6,000	1,236	
夏肥 八月	同	3,000	618	
小計		3,000	618	
基肥 九月	堆肥	20,000	1,648	
同	大豆粕	6,000	401	
同	過磷酸石灰	4,000		
計		30,000	2,049	

施肥期	種類	反當施肥量	所含三要素量			備考
			窒素	磷酸	加里	
六	第三年自施肥量					
小計	硫酸加里		一、五〇〇	一、四〇一	一、一九八	七、一六
同計			三、七二八	一、八五一	二、〇七二	二、一三六
種別	堆肥	二〇〇、〇〇〇 ^反	一、〇〇〇 ^反	五二〇 ^反	一、二六〇 ^反	
	大豆粕	一〇、〇〇〇	六六八	一三二	一六〇	
	菜種油	五、〇〇〇	二五三	一一二	六五	
	硫酸アンモニア	一〇、〇〇〇	二、〇五九			
	過磷酸石灰	九、〇〇〇	一、三五〇			
計	硫酸加里	二、〇〇〇	三、九八〇	二、二二四	二、四四〇	

七 第三年自施肥例

施肥期	種類	反當施肥量	所含三要素量			備考
			窒素	磷酸	加里	
小計	大豆粕	五、〇〇〇	三三四	二五三	六六	八〇 ^反
同計	菜種油	五、〇〇〇	六一八	一一二	一二二	六五
同計	硫酸アンモニア	三、〇〇〇	四一八	二二五	六〇〇	一四五
同計	過磷酸石灰	四、〇〇〇	二、二〇五	七七八	六〇〇	
同計	堆肥	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	五二〇	一、二六〇	
同計	大豆粕	五、〇〇〇	三三四	二五三	六六	八〇
同計	菜種油	一、〇〇〇	二〇六	七五一		
同計	硫酸アンモニア	五、〇〇〇	四一八	二二五	六〇〇	
同計	過磷酸石灰	二、〇〇〇	一、三五〇	七七八	六〇〇	
同計	硫酸加里	二、〇〇〇	三、九八一	二、二二五	二、四四〇	

第五 仕立法並剪枝

一 仕立法ノ方式及方法

普通前茶園仕立ハ樹ノ高サ二尺乃至二尺五寸位ヲ標準トナシ裾張ヲ廣クシテ摘採面積ヲ多クスル様仕立ツ玉露園若ハ特殊優良品質ノ茶園仕立ハ樹ノ高サ三尺乃至五尺位ニ仕立テ肥培管理ニ努メ枝張りヲ充分ニ助長セシム樹形ハ剪枝摘採等ニヨリ茶株頂部ノ徒長ヲ抑制シテ裾張ヲ充分ニ張ラシメ株張りヲ廣クセル圓形ノ頂邊ヲ緩カニシタル樹形トナス

二 手摘茶園ノ剪枝

一番茶摘採後若ハ二番茶摘採後直ニ行フモ勞力ノ調節上發芽ノ遲速ヲ生ゼシムル様或ハ病蟲害等ノ發生狀態ニヨリ次ノ茶期ヲ考慮スルタメ全茶園ヲ二等分シ一區ハ一番茶直後剪枝ヲ行フモノアリ衰弱茶園ハ深刈トシ旺盛ナル園ハ自然淺刈ニヨリ半圓形又ハ蒲鉾形トス

三 缺摘茶園ノ剪枝

茶株面ヲ整齊セザレバ缺摘ニ際シテ木莖古葉等ノ混入ヲ招クニヨリ毎年一番茶直後ニ於テ前年ノ秋生育シタル梢ノ基部ヨリ少シク上リテ剪枝ヲ行ヒ樹形ヲ整ヒ尙三番茶ノ缺摘後秋芽ノ伸育盛ナル場合ハ剪枝後秋芽伸長スルモ年内ニ茶葉硬化シテ寒害ヲ被ラザル程度トス尙缺摘ヲ年々繼續スルトキハ自然茶株ノ衰弱ヲ來シ茶葉及茶芽ノ伸育短少トナルニヨリ其ノ際ハ一回深刈ヲ行ヒ茶株面枝葉ノ更新ヲ圖ルコト必要ナリ從來ノ手摘茶園ヲ缺摘茶園トナスニハ一番茶ヲ手摘トシ直ニ剪定シテ株均シヲナシ二番茶ヨリ缺摘トスルモ一方法ナリ

第六 耕耘及除草

一 淺 耕

第一回ハ三月上旬頃施肥ニ際シテ行フモノニシテ除草ヲ兼ネ根元ニ餘リ鉞入レセザル様淺耕ス第二回ハ一番茶摘採後踏ミ固メラレタル土ヲ軟クスルト共ニ施肥ノタメニ行フモノニシテ土塊ハ成ルベク粉碎セザル様淺ク打ち起スモノトス第三回ハ二番茶直後ニ行フモノニテ前回ト大差ナキモ夏期旱魃ノ季節ナレバ根元ニ鉞入セザル様注意シ淺耕ス

二 元出及元寄

秋季深耕後基肥ヲ了レバ畦間中央ノ土ヲ株元ニ寄セ元寄ヲナシ春季淺耕ノ際株間ニ元寄シタル土ヲ畦間ニ搔キ出シ元出ヲナス

三 深 耕

九月中旬十月七旬ニ亘リテ行ヒ茶株枝端直下(雨落)ヨリ外方ヲ深サ六、七寸ニ土塊ヲ粉碎スルコトナク耕起スルモノニテ株元ハ餘リ深耕セザルコト成木茶園ニテハ茶樹ノ發育適當ナル時ハ茶株ト茶株トハ相接觸シ畦間ニ餘リ空所ナキヲ以テ肥料等ハ畦間ニ撒布シ畦ノ一方ヨリ一鉞乃至二鉞ニ打ち起シ施肥ト耕耘トヲ兼ネ行フ程度ニテ可ナリ

四 除 草

淺耕及深耕並施肥ニ際シテハ除草ヲ兼ネ行フモノトス

第七 肥料及敷草

一 肥料ノ種類

幼齡茶樹 堆肥、大豆粕、硫酸アンモニア、過磷酸石灰、硫酸加里

成木茶樹 茶種粕、大豆粕、過磷酸石灰、硫酸加里、硫酸アンモニア
二施肥量 (成木園反當施肥量)

種類	數量	所含三要素量		
		窒素	磷酸	加里
大豆粕	五〇、〇〇〇	三、三四〇	六六〇	八〇〇
茶種粕	四〇、〇〇〇	二、〇二〇	九七二	五二〇
硫酸アンモニア	一三、〇〇〇	二、六七七	—	—
過磷酸石灰	九、〇〇〇	—	一、三五一	—
硫酸加里	四、〇〇〇	—	—	一、九一〇
計	—	八、〇〇〇	二、九八三	三、二三〇
標準成分量	—	八、〇〇〇	三、〇〇〇	三、二〇〇

同上分施例

一基肥

種類	數量	所含三要素量		
		窒素	磷酸	加里
大豆粕	二〇、〇〇〇	一、三三六	二、六四	三二〇

種類	數量	所含三要素量		
		窒素	磷酸	加里
茶種粕	一五、〇〇〇	七五八	三六五	一九五
硫酸アンモニア	一、五〇〇	三〇九	—	—
過磷酸石灰	四、五〇〇	—	六七五	—
硫酸加里	四、〇〇〇	—	—	一、九一〇
計	—	二、四〇三	一、三〇四	二、四二五

二春肥 (三月上旬)

種類	數量	所含三要素量		
		窒素	磷酸	加里
大豆粕	一五、〇〇〇	一、〇〇二	一九八	二四〇
茶種粕	一〇、〇〇〇	五〇五	二四三	一三〇
硫酸アンモニア	四、五〇〇	九二七	—	—
過磷酸石灰	四、五〇〇	—	六七五	—
計	—	二、四三四	一、一一六	三七〇

三夏肥第一回 (一番茶後)

種類	數量	量	室	所	含	三	要	素	量
大豆	八、〇〇〇	八、〇〇〇			五三四		一〇六		一二八
菜種	九、〇〇〇	九、〇〇〇			四五五		二一九		一一七
計	二、〇〇〇	二、〇〇〇			一、六〇七		三二五		二四五

四 夏肥第二回 (二番茶後)

種類	數量	量	室	所	含	三	要	素	量
大豆	七、〇〇〇	七、〇〇〇			四六八		九二		一一二
菜種	六、〇〇〇	六、〇〇〇			三〇三		一四六		七八
計	四、〇〇〇	四、〇〇〇			一、五九五		二三八		一九〇

三 施肥ノ時期及方法

基肥

(秋肥)

自九月中旬

普通十月上旬

(深耕後茶株ノ枝張雨落ヲ中心ニ深サ四寸ノ肥溝ヲ作り施肥後ハ土寄ヲ兼ネ覆土ス)

春肥 (芽出肥) 自二月下旬 普通三月中旬 (秋季株元ニ土寄シタル土ヲ畦間ニ搔キ出スト同時ニ淺キ肥溝ヲ作り施用シ覆土ス)

夏肥 (一番茶摘採後) 自五月中旬 普通五月下旬 (夏肥ハ除草淺耕後株元雨落ヲ中心トセル淺キ肥溝ヲ作り施用シ覆土ス)

第二回夏肥 (二番茶摘採後) 自六月下旬 普通七月上旬

四 間作綠肥

青刈大豆ヲ茶園ノ畦間ニ春季四月上旬頃反當四乃至五升ヲ播種シ七月上旬頃ノ開花期ニ引き拔キ三、四日間日乾シ根元ニ敷込ミ同時ニ若干量ノ石灰ヲ撒布シ覆土ス

五 敷草

茶樹ハ根元ニ日光ノ直射ヲ嫌ミ且有機質ヲ好ムヲ以テ六月上中旬ノ頃山草藁等ヲ反當二、三百貫ヲ畦間ニ敷込ミ早魃及雜草繁茂ヲ防止ス

第八 摘採

其ノ組合ハ... 摘採ノ時期及回数 一番茶ハ自四月下旬至五月中旬、二番茶ハ自六月中旬至七月上旬、三番茶ハ八月上中旬

普通前茶園ハ年三回ノ摘採ヲナスモ優良茶ヲ製スル茶園及玉露園ハ年一回ノ摘採ニ止ム

手摘茶園ハ一般ニ早摘トナシ普通新芽ガ伸ビ三、四葉開キタル頃ヨリ摘ミ初メ二葉又ハ三葉掛ケ摘ミヲナスモ發芽伸長ノ程度ニ應ジテ數回ノ廻リ摘ミヲナス一日一人生葉三貫乃至五貫勿ヲ摘採スルヲ普通トス

三 摘

摘採ハ輕便銳利ノモノヲ選ビ使用スルトキハ常ニ幾分又先ヲ上ゲル心持ニテ摘採茶株面ニ輕クノセ茶芽ヲ二回刈リニスルコトナク一度ニ刈リ更ニ前進シ株ノ裾ヨリ順次上段ニ向ヒ摘採ス摘ミ跡ハ幾分ノ高低ヲ生ジ或ハ残り芽アルモ其ノ場合ハ摘採後直ニ整枝シテ株面ノ均齊ヲ圖ルヲ要ス一日一人生葉二、三十貫ヲ摘採シ得ルモ之ガ摘採上注意スベキコトハ

- 一 深摘ミハ絕對ニ戒ムルコト
- 一 茶株面ハ必ラス整一ニ刈込ムコト
- 一 肥料ヲ一層増加施用スルコト
- 一 秋期ノ飛芽ヲ剪除シ株面ヲ整齊スルコト
- 一 一番茶摘採後毎年剪枝缺ヲ以テ樹型ヲ整ヘル程度ニ剪枝スルコト

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

茶樹ノ主ナル病蟲害ハ浮塵子、赤壁蝨、茶粘蝨、蚜蟲、茶葉捲蟲、囊蟲、ルビ一蠟蟲、茶赤葉枯病、茶白星病、白紋羽病等ニシテ之等ノ發生シタルトキハ其ノ都度適當ナル藥劑ヲ調製シ強力ナル噴霧器ヲ使用撒布シ驅除ニ努ム其ノ主ナル藥劑ハ石油乳劑、除蟲菊加用石油乳劑、石灰硫黃合劑、除蟲菊加用石鹼水、松脂合劑、石灰ボルドー液

第十 樹勢更新法

樹勢ノ更新ヲ圖ルニハ臺刈ニヨリ新梢ヲ發生セシメ適當ノ管理ヲ行ヒテ茶株ニ仕立ツ其ノ實施時期ハ二、三月ヲ適當トスルモ經濟的見地ヨリ一番茶摘採後直ニ行フヲ得策ナリトス之ヲ行フニハ株元ノ落葉、土等ヲ掘キ除キ銳利ナル鎌ニテ土際ヨリ斜ニ切斷シ株元枝條ヲモ悉ク除去ス又中刈ト稱シ樹勢老衰甚シカラザルモノ又ハ茶株高キニ失シタルトキ或ハ手摘ヲ缺摘トナス場合等ニ行フ方法ニシテ主幹ヲ地元ヨリ適當ノ高サニ保チテ切斷シ新梢ヲ發生セシムルコトアリ臺刈又ハ中刈ヲ行ヒタル後ハ速効性液肥ヲ施シ根元ニ敷草ヲナシ乾燥ヲ防ギ發芽後ハ浮塵子其他病蟲害發生防除ニ留意シ一、二年間ハ摘採ヲ控ヘ樹勢ノ旺盛ト茶株ノ整枝ニ努ムルコト肝要ナリ

佐賀縣

第一 採種

一 摘採ノ時期

九月中旬乃至十月中旬

二 採種法及採種後ノ處理

九、十月果殼帶黃褐色ヲ呈スルニ及ビ母樹ヨリ殼ト共ニ採取シ蔭乾スルコト十餘日ニシテ殼付ノマ、堆積貯藏ス

第二 種子ノ貯藏

前時期ニ採種シ蔭乾ヲ行ヒ殼付ノマ、比較的乾燥セル場所ヲ撰ビテ堆積シ「コモ類」ニテ被覆シテ明春二月下旬迄貯藏ス貯藏期間中ニ於テ濕氣ト堆積酸酵熱ノ爲ニ殆ド二月中、下旬ニ至レバ催芽シ發根スルヲ以テ直ニ播種ヲナス

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

本縣ハ土地狹少而モ傾斜地ニ富ミ新開茶畑ハ主トシテ傾斜地ニシテ岩石砂礫ニ富ム然レドモ至極叮嚀ニ開墾ヲ行ヒ砂礫雜木根等ヲ除去シ石垣ヲ築キテ成ルベク平面ニ段畑式ニ開墾整地ヲナス

二 播種時ノ基肥

從來ノ慣行ニ於テハ殆ド基肥ヲ施サザルモ獎勵ノ結果新設茶園ニアリテハ深サ約一尺位ノ作條ヲ掘リテ其ノ中ニ堆肥厩肥、蠶糞等手ニ入り易キモノヲ施スニ至レリ

三 播種期

三月中下旬

四 播種法

種子ノ豫措 普通特別ナル豫措ヲ施行セズタ、催芽發根セルモノヨリ撰ビテ下種ヲ行フ

播種量 殼付(果皮付)ニテ反當四斗乃至五斗

畦幅 六尺乃至七尺、畑地狹少耕地不足ニ起因セシ結果カ普通作兼作ノ意味合ヨリ甚ダ廣ク畦幅ヲ設ケル慣習アリ

播幅 從來ハ徑一尺内外ノ株播ノミナリシガ一昨年來播幅五寸内外ノ條播ヲ獎勵標準トナセリ

畦ノ方向 傾斜地ハ主トシテ傾斜ニ直角ニ平地ハ概ネ南北畦トス

播種ノ方式及方法 從來ハ殆ド輪播法ニシテ莖一尺内外二尺間隔ノ方法ニヨル

附記 今後ハ左記方法ヲ勵行ス

- 一 畦幅ト樹形ノ關係 同ジ樹勢ニアル場合ハ樹形大ナルモノホド品質佳良ナレドモ其ノ反面ニハ肥料需要ノ率増大シ經濟上ノ不利ヲ招致スルモノナレバ生産方針ニ從ヒ樹形ヲ判定スルモノトス從ツテ畦幅亦樹形ニ支配サルハ當然ナリ

畦幅ハ四尺五寸乃至五尺、樹高ハ二尺五寸内外、樹形ハ蒲鉾形

- 二 播種量(反當) 發芽後不適當ナル幼苗ヲ除去シ比較的優良ト認ムルモノヲ育成スル主義ヲ可トスル意味ニ於テ播種量ハ稍多量ニ使用スルヲ可トス

畦幅 上等種 四尺五寸 二斗八升

普通種 四尺五寸 二斗五升

三斗五升

- 三 播式ト畦ノ方向 畦ノ方向ハ普通南北ヲ可トスレドモ傾斜地ニアリテハ之ニ直角ニ立テ又畜力ヲ利用スル場合ニハ成ルベク長畦トナスヲ可トス播式ハ系狀一條播又ハ五寸幅二條播トス

- 四 播種準備 播付前ニ當リテ幼根ノ伸育ヲ容易ナラシムル基礎方法ノ有無ハ第二年後ノ伸育即チ幼樹時代ノ收穫ニ非常ニ相違ヲ來スモノナレバ成ルベク叮嚀ナル準備ヲ肝要トス其ノ方法ハ播畦ヲ一尺位ノ溝ニ耕起シ其中へ基肥トシテ堆肥厩肥或ハ雜草落葉糞類等ニ肥料ヲ加味シタルモノヲ埋込ムモノトス此ノ場合ノ肥料ノ用量ハ窒素一貫五百匁内外トシ其ノ種類ハ嵩高キ有機質物ヲ撰ブヲ可トス
- 五 播種ノ方針 準備終リタル播畦ニ鉄幅ニテ深サ二寸位ノ淺キ溝ヲ掘リ任意ノ播方ニ種子ヲ列ベテ一寸以内ノ覆土ヲナシ其ノ上ニ切藁又ハ粗穀ヲ撒布シテ旱害ノ防止ヲナス
- 六 播種期 成ルベクハ採種直後(十一月上、中旬)ニ播付クルヲ可トスルモ事情止ムヲ得ザル場合ハ三月未迄ニ播種ヲ終ルコト若シ其ノ後ニナル場合ハ一、二寸位ニ發芽セシメテ叮嚀ニ移植ノ播付ヲナスヲ有利トスレドモ此ノ場合ニハ遅クモ五月中旬マデトス
- 七 採種 採種ニ當リテハ從來ノ九月中旬乃至十月中旬ニ採種スル慣習ナルガ今後ニ於テハ一句餘ノ延期ヲナサシメ充分完熟セル種子ヲレシムルト共ニ母樹ノ撰擇ヲ嚴ニシ比較的優良形質ヲ具備スル母樹ニシテ而モ七年以上經過セル母樹ヨリ採種セシム種子ノ貯藏ハ子實ニヨリ充分乾燥セシメ土中埋藏ノ方ヲ勵行ス

第四 幼齡茶樹ノ管理

管理宜シキヲ得バ本縣ニテハ三年目ヨリ摘採ヲ始メ六、七年ニシテ成園トナル其ノ間最モ希望スル處ハ一ケ年ニテモ早く而モ多量ノ收穫ヲ擧グル事ニシテ之ガ爲ニハ施肥量ノ充分ナラシムルコト肝要ナリ

幼齡茶樹ノ管理要項

要項	初年	二年
施肥量 (三要素)	窒素 三、〇〇〇 磷酸 一、五〇〇 加里 一、五〇〇	窒素 三、〇〇〇 磷酸 一、五〇〇 加里 一、五〇〇
肥料ノ分施	六月八月ノ二回分施	三月、六月ノ二回分施
定期管理	旱害防止ノ爲生草糞類ヲ根元ニ敷ク幼苗時代ノ旱害ハ最モ恐ルベキモノナレバ特ニ留意スルコト	同上
間作	收入ノ増加ト共ニ土性ノ改善ニ資ス但禾本科植物ハ不適當ナリ	同上
間引補植	十一月頃不良苗又ハ惡品種ノ間引且萌方ノ粗密ヲ整フ	同法ハ二、三月施行スルモ可
耕耘除草	適當ニ施行	夏季早拔時ニ於テハ避クルヲ可トス

第五 仕立法並剪枝

本縣ノ栽培法ハ自然放任ノ高仕立ニシテ近來剪枝ヲ獎勵ノ程度ニシテ極幼稚ナリ

附記 今後ハ左記方法ヲ勵行セシム

- 一 仕立法 樹高ハ二尺乃至二尺五寸、幅張(幅)ハ四尺乃至四尺五寸、樹形ハ蒲鉾形
- 二 仕立法ノ標準

年次	收穫	仕立法ト管理
第三年目	一番茶一回摘	一番茶後樹勢ヲ考慮シ七、八寸高サニ剪枝シ以後伸育ニ勉ム 三月剪枝スルモ妙策ナリ
第四年目	同	一番茶後樹勢ヲ考慮シ前年伸育枝ノ長サノ三分ノ二又ハ二分ノ一ヲ剪除ス以後伸育ニ勉ム
第五年目	一、二番茶二回摘	一番茶後剪枝ス其ノ高サハ前年ノ法ト同ジク二番茶後ハ伸育ニ努ム
第六年目	同	生産方針ニ從ヒ目的ノ高サニ達スレバ成園トシテ三回ノ收穫ヲナス樹高二尺五寸内外ヲ標準トス
第七年目	一、二、三番茶三回摘	成園管理ニ遷ル

三 施肥量標準

年次	一ケ年施肥量 (三要素量)	分施期ト數量
第三年目	窒素 三、五〇〇 磷酸 一、五〇〇 加里 一、五〇〇	三月 一番茶後 三分ノ一 三分ノ一 三分ノ一 八月
第四年目	窒素 四、〇〇〇 磷酸 二、〇〇〇 加里 二、〇〇〇	同 同
第五年目	窒素 六、〇〇〇 磷酸 三、〇〇〇 加里 三、〇〇〇	同 同 七月
第六年目	窒素 七、五〇〇 磷酸 三、五〇〇 加里 三、五〇〇	同 同 同

- 四 手摘茶園ノ剪枝 前記ニ從ヒ樹型整フニ及ベバ一番茶後其ノ年内ニ伸育セル新梢ニ悉ク缺ノ達スル程度ニ蒲鉾形ニ剪枝ヲ行フ
- 五 缺摘茶園ノ剪枝 手摘茶園ト同様一番茶後剪枝ヲ行ヒ尙十一月下旬或ハ三月上旬ニ至リ徒長枝ノ剪除採面ノ整理ヲナス

第六 耕耘及除草

- 一 淺 耕
 - 二 元出及元寄
 - 三 深 耕
 - 四 除 摘
- 三月月上旬板鉞ヲ以テ深サ三、四寸ニ除草ヲ兼ネ耕起ス
 殆ド施行セズ
 十一月下旬十二月上旬板鉞ヲ以テ深サ一尺内外叮嚀ニ打起ス
 隨時施行ス

第七 肥料及敷草

一 肥料ノ種類

從來ハ無肥料栽培ナリシガ近來硫酸アンモニア或ハ配合肥料ヲ施行スルニ至レルガ未ダ極少量ニ過ギズ今後ハ自給肥料ヲ主トセル配合肥料ノ補給ヲ勵行セシム

二 施肥量、施肥ノ時期及方法

一 成木園ニ於ケル從來法

種、類	反當施肥量	施肥期	所含三要素量			備考
			窒素	磷酸	加里	
一例 配合肥料(吹入)	二〇、〇〇〇 _畝	一、二月頃及 二、三月頃及	一、〇〇〇 _畝	六〇〇 _畝	五〇〇 _畝	從來ノ産茶地ハ 殆ド無肥料ナリ
二例 硫酸アンモニア	一〇、〇〇〇	一、二月頃及 二、三月頃及	二、〇〇〇			

二 未成園 施肥殆下行ハズ

附記 成園反當施肥量 (勵行標準)

類別	種類	施肥量	施肥期			
			第一回(三月)	第二回(一番茶後)	第三回(二番茶後)	第四回(三番茶後)
第一	堆肥厩肥人糞尿	一、二〇〇、〇〇〇 _畝	三〇〇、〇〇〇 _畝	三〇〇、〇〇〇 _畝	三〇〇、〇〇〇 _畝	三〇〇、〇〇〇 _畝
	鶏糞米糠	二四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇

類	雜魚肥類	菜種油粕類
類二第	八〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
大豆	二〇,〇〇〇	二五,〇〇〇
粕	四,〇〇〇	二五,〇〇〇
硫安アンモニア	二〇,〇〇〇	二五,〇〇〇
大	四,〇〇〇	二五,〇〇〇
豆	一〇,〇〇〇	二五,〇〇〇
粕	一〇,〇〇〇	二五,〇〇〇
一五,〇〇〇	四,〇〇〇	一〇,〇〇〇
四〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

附記

一 灰類二〇貫 何レモ手ニ入り易キ時期ニ施ス
 二 石灰一〇貫
 三 生草ナレバ三〇〇貫乃至五〇〇貫 何レモ夏期敷込ミテ旱害ヲ防ギ十一月頃深耕ノ際埋込ミ土性改善ニ資
 藁ナレバ二〇〇貫内外
 備考 第一類第二類中ヨリ各種ヲ撰ビテ配合使用スルヲ原則トス

三 間作綠肥

從來栽培セズ今後ハルービン、セラデラ、大豆、蠶豆類ノ栽培ヲ勵行ス

四 敷草

行フモノナシ今後ハ之ガ利用ヲ勵行セシム

第八 摘採

一 摘採ノ時期及回数 年ニヨリ地方ニヨリ多少ノ差異アレドモ大略次ノ如シ

一番茶 五月五日頃ヨリ二十日間、二番茶 六月下旬ヨリ七月上旬、三番茶 八月上旬ヨリ中旬

二 手摘及鋏摘

一番茶 殆ド手摘、二番茶 殆ド鋏摘、三番茶 殆ド鋏摘

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

茶赤葉枯病ノ發生多ク被害甚大ナルモノアリタルモ從來ハ放任状態ニアリ小綠浮塵子、ルビー蠟蟲、赤壁蝨、爾後ハ之等ノ驅除豫防ヲ勵行セシム

第十 樹勢更新法

從來ノ茶産地ハ無肥料栽培ニテ茶樹ノ老衰甚シク四、五年間毎ニ臺刈更新實施サレ而モ臺刈更新次年度ヨリ二、三回ノ摘採ヲ行フ結果經濟茶園化スルコトナキ惡法流行ス今後ハ主トシテ中刈更新法ヲ勵行シ更新後二、三年間ハ一乃至二回ノ摘採ニ止メシメ經濟茶園化ノ促進ヲ圖ラシムル方針ナリ

長崎縣

第一 採種

一 採種ノ時期

十一月上旬

二 採種法及採種後ノ處理

從來採種用ノ種子ハ總テ静岡、京都ヨリ購入シ產地ニ於テ採種スルモノ殆ド無カリシモ最近（昭和三年）縣ハ主產地農會ニ依頼シ採種及採種後ノ處理ヲ注意シ増殖用ノ種子ハ出來得ル限り縣内ニテ採種セシメツ、アリ

採種母樹ノ選擇 肥培充分ナル茶園發育良好ナル畦畔茶樹ニシテ葉形肥大ニシテ葉ノ密生セルモノヲ選ブコト

採種ノ時期 十一月上旬種實完熟シ種子脫落前採種スルコト脫落セル種子ヲ採種スル時ハ肥大ナル完熟セルモノヲ選

ビ結霜少キ中ニ終ルコト

採種後ノ處理 採種セル種實ハ一週間内外蔭乾シ外皮ト種子トヲ分離シ直ニ秋播セシメツ、アリ

第二 種子ノ貯藏

糠殼、木屑、砂等ヲ混ジ貯藏スルモ種々調査ノ結果秋播ヲ獎勵シ秋播困難ナル場合ハ春播スルヨリハ十二月、一、二

月ニ播種スル方發芽並其ノ後ノ發育良好ナルヲ確メタル爲右ヲ獎勵シツ、アリ

第三 茶園ノ開設

一 開墾及整地

開墾 開墾地ノ多クハ部落又ハ實行組合等ニ於テ共同シテ開墾セラル、モノ多ク其ノ多クハ開墾助成法ニ依ルモノニシテ農閑ノ關係上八月頃ノ酷暑中ニ着手スルモノ多ク平均開墾費段當五十圓乃至八十圓ヲ要シ近年八十町歩内外茶園開設ノ爲開墾セラル、モノアリ尙本年度ヨリ縣ハ適地町村六十ヶ所ニ十年計劃ニテ一千町歩ノ茶園開設ノ計劃ナリ

整地 新開地ノ開墾ノ際深耕シタルモノハ別トシテ既設畑ハ充分深耕シ表土ヲ粉碎シ平ニ引キ均シ土地ノ肥沃ノ如何ニ依リ條間ヲ五尺又ハ六尺ニ決定整地ス

二 播種時ノ基肥

反當三百貫内外ノ堆肥ヲ基肥トシテ施用セシメツ、アリ

三 播種期

十一月中、下旬ヨリ三月中（八、九割ハ十一月ニ終ル）

四 播種法

從來輪播又ハ二條播トシ播種量反當四、五斗ナリシモ最近一條播（播幅六、七寸）ヲ獎勵セル結果新植セラル、モノハ一條播ヲナスモノ多シ

種子ノ豫措 一部分ノ他ハ縣ニ於テ採種町村農會ヲ指導シ斡旋シメ居ル爲當業者トシテハ特別ノ豫措ヲ行ハズ
播種量 反當二斗五升内外

畦幅 五尺

播幅 六寸乃至七寸

畦ノ方向 平坦地ハ南北傾斜地ハ必ず斜面ヲ横切ル畦ノ方向トス

播種ノ方式方法及播種後ノ管理 一條播ニシテ土地ノ肥瘠ニ依リ異ナルモ普通條間五尺置キニ播幅六、七寸トス、播

種ニ當リ畦ノ方位條間ヲ定メ播幅六、七寸トシ三寸位ニ掘リ反當三百貫内外ノ堆肥ヲ入レ少量ノ覆土ヲナシ反當二斗五升内外ノ割ニ下種シ五分乃至一寸内外ノ程度ニ覆土シ乾草又ハ藁ヲ薄ク覆ヒ乾燥並播幅内ニ雜草ノ生ズルヲ防

第四 幼齡茶樹ノ管理

從來ノ慣行トシテハ前記ノ如ク茶園管理ヲ全然等閑ニ付シ施肥、間引、剪枝ヲ行ハズ發芽後一年目ノ未根元ヨリ切リ多數ノ細枝ヲ生ゼシメ四、五年目ヨリ摘採ヲ初ム以後無肥料ニテ四年乃至六年目ニ豪刈ヲ行フ事ヲ繰返シ春秋除草冬期根元ノ土ヲ引出ス位ノ事ニ止マルモ過去四、五年以來ノ耕種代表的ト認ムル事項ヲ記ス

一 發芽第一年ノ肥培管理

七、八月ノ候除草ヲ兼ネ淺耕ヲ行ヒ間引ヲナシ反當二、三貫及ノ窒素肥料ヲ施シ敷草五、六百貫及ヲ入レ十月頃ヨリ十一月中ニ基肥トシテ窒素二貫六百及磷酸、加里各一貫及内外ノ目標ニテ施肥ス

二 發芽第二年ノ肥培管理

施肥量ヲ増加スルノ他第一年ト同様ノ管理作業ヲナシ九月上、中旬地上二尺内外ノトコロヨリ剪枝ス

三 發芽第三年ノ肥培管理

第二年ト同様各肥培管理ヲナス他ニ五月下旬頃前年剪枝セシ部分ヨリ一、二寸位ヲ剪枝シ基肥ニ先ンジ七月上、中旬全施肥量ノ二割内外ヲ施用シ八月下旬樹形ヲ整フル意味ニテ摘採シ一尺五寸乃至二尺ノトコロヨリ剪枝ス

第五 仕立法並剪枝

普通播種後三年目ヨリ摘採ヲ初メ四年乃至六年生位ニテ成木園トナル從テ仕立法ハ皆高仕立ヲ取り最初ハ樹高ヲ作ル目的ニ剪枝シ四年生以後ハ裾枝ヲ作ルコトニ務ムル爲幼木茶樹ノ仕立並剪枝ハ第三年ノ肥培管理ニ記セシ程度ナルヲ以テ以下成木茶樹ニ對スル方法ヲ記ス

一 仕立法ノ方式及方法

二尺五寸乃至三尺内外ノ高作ニシテ緩ナル半圓形ニ仕立ツ方法ハ二番茶直後淺ク剪枝シ九月中、下旬ニ樹形ヲ整フル爲剪枝ヲナス

二 手摘茶園ノ剪枝

氣候ノ關係上茶樹ノ伸育甚シク殊ニ秋芽徒長シ摘採能率ヲ阻害スルノミナラズ收量ヲ減ズルヲ以テ手摘園ニ於テハ一番茶直後淺ク剪枝シ九月上、中旬樹勢ヲ整フルヲ兼ネ剪枝ヲ行フ

三 鉢摘茶園ノ剪枝

缺摘ノ年數少キ茶園ノ枝ハ手摘茶園ノ剪枝ニ同ジキモ缺使用園ニテハ摘採後摘採面ヲ整ヘ九月上、中旬剪枝ス

第六 耕耘及除草

一 淺耕

春季發芽前一番茶摘採後各一回行フ

二 元出及元寄

行ハズ

三 深耕

十一月中下旬根元ヲ避ケ行フ

四 除草

最近敷草ノ習慣付キ除草ヲナス要ヲ認メザル園多ク行フモノハ淺耕ヲ兼ネ行フ

第七 肥料及敷草

一 肥料ノ種類

堆肥、人糞尿、硫酸アンモニア、魚肥、大豆粕、過磷酸石灰等ナリ

二 施肥量

施肥量ハ樹齡ニ依リ異ナルモ一年生ハ窒素二貫六百匁、磷酸加里各一貫匁五年生ハ窒素二貫八百匁、磷酸一貫二百匁加里一貫四百匁十年生ハ窒素三貫九百匁、磷酸一貫五百匁、加里二貫匁十五年生ハ窒素四貫匁、磷酸一貫六百匁、加里二貫二百匁ヲ標準トス種類ハ一様ナラザルモ堆肥、人糞尿、硫酸、過磷酸石灰、大豆粕、油粕、硫酸加里等トス

三 施肥ノ時期及方法

十月下旬又ハ十一月月上旬基肥ヲ三月上旬追肥ヲ各摘採後芽出肥トシテ窒素質速効性肥料ヲ施シ裾枝外ニ淺ク埋ム

四 間作綠肥

從來間作綠肥ノ栽培ヲナスモノ少カリシモ獎勵ノ結果幼木茶園、敷草ノ材料少キ地方ニハ青刈大豆ザアトウキツケン等ノ栽培ヲナスモノ年ト共ニ増加シツ、アリ

五 敷草

年々敷草ヲ施スモノ増加シ七、八月青草ヲ敷入レルモノ十一月下旬藁ヲ敷キ入ル、モノ多ク反當施用量ハ少キモノ三百貫多クハ千二、三百貫匁ヲ施用スルモノアリ

第八 摘採

一 摘採ノ時期及回数

早場所 四月下旬 遅場所 五月中旬
一般五月上旬一番茶ノ摘採ニ着手シ最盛期ハ五月下旬ニシテ二、三、四番茶ハ各摘採後三十五日内外ニテ摘採ス回数ハ普通三回トス

二手 摘

多クハ手摘ニシテ一日摘婦日當六十錢内外摘採量平均三貫内外トス主産地ニハ一時的摘婦ノ入込多シ

三 缺 摘

主産地及廣大ナル茶園ヲ有スル當業者ニ使用セラレ成績良好ナリ調査ノ結果之ヲ獎勵中ニシテ缺使用ハ年々増加シツ

第九 病蟲害其ノ他災害ノ防除

一般ニ行ハレザルモ熱心家中ニハ茶赤葉枯病、赤壁蝨、浮塵子等ノ驅除豫防ヲナシツ、アリ現在茶園ニ對スル病蟲害其ノ他災害ノ防除ノ必要ヲ認メザルモ將來大ニ注意ヲ要スル事ト認ム

第十 樹勢更新法

從來ノ茶園ハ施肥剪枝ヲ行ハズ摘採スルノミナリシ爲樹勢衰弱スルコト甚シク四年又ハ六年目ニ臺刈ニ依リ樹勢ノ更新ヲ計リシモ縣ハ極力茶園ノ肥培ニ注意シ更新ノ要生ジ來タレバ發芽面ニテ更新スベク獎勵シツ、アリ

熊本縣

第一 採種

一 採種ノ時期

十一月以降十二月半頃迄ノモノ大部分ヲ占ムルモ時ニ型春二、三月ニナリテ落果ヲ拾集スルモノアリ

二 採種法及採種後ノ處理

秋期完熟ヲ待テ外皮ノ儘摘果シ陰乾シテ剥皮スルモノ大部分ナルモ時ニ落果ヲ拾集スルモノアリ

第一 種子ノ貯藏

依又ハ籠ニ入レ軒下納屋内ニ放置スルモノ多シ特ニ熱心ナル當業者ハ地下埋藏法ヲ行フ

第二 茶園ノ開設

一 開墾及整地

平坦地方ハ從來ノ古畑ニ播種スルモノ多ク山間部ハ左記方法ニ依リ開墾ス芝地ハ上芝ヲ剝ギ去リ天地返シ法ヲ行ヒテ根ヲ篩ヒ出ス雜木林地ハ雜木ヲ伐採シタル後山鉞ヲ以テ根部ヲ掘り去リ天地返シヲ行フ整地ハ山間部ハ人力ヲ以テ平坦部ハ多ク畜力ヲ以テス開墾ヨリ整地迄ニ要スル人夫ハ原地ノ状態ニヨリ一定シ難キモ大約反當五十人乃至八十人ヲ

要ス
二 播種時ノ基肥

從來播種時ノ基肥トシテ堆肥ヲ施用スルモノアルモ一般ニハ僅少ナリ然レドモ近年播種時ノ基肥施用ガ發芽後ノ生育頗ル良好ナル成績ニ鑑ミ近時之ヲ施用スルモノノ増加セルハ業界ノ爲喜ブベキ現象ナリ其ノ主ナルモノハ堆肥、大豆粕、過燐酸石灰、米糠、木灰、人糞尿等ニシテ少クトモ之ガ施用ハ播種一ヶ月以前ナル事ヲ要ス

三 播種期

秋、春ノ別アリト雖早ク種子ガ入手出來得レバ成ルベク秋播トスル方發芽歩合生育共ニ良好ナリ遠隔地ヨリ種子購入ヲナス場合ハ春播トナスモノ多シト雖往々時期ノ遅ル、コトアリ

改善ヲ要スル事項 四月ニ入りテヨリノ播種ハ發芽發育共ニ不良ナルニ付絶對的ニ行ハザル様スルコト

四 播種法

種子ノ豫措 五日間位浸水シテ播種スルモノアルモ特ニ不良種子ト認メザル時ハ之ヲ行ハズ

播種量 播種量ハ畦幅ニヨリテ多少ノ相異アルモ普通二斗五升乃至三斗五升トス

畦幅 土地ノ肥瘠ニヨリテ多少相異スルモ多クハ五尺内外ナリ從來ノモノヲ見ルニ六尺乃至七尺ノモノアリテ成木園ニ達シタルモノト雖(間作ノ出來ザル程度)空地多ク不經濟ノモノ多シ將來之等ニ顧ミテ五尺内外ニ改善シ現ニ施行中ナリ

播幅 一條播ナレバ五寸乃至七寸ノ廣幅播トシ二條播ナレバ條間距離ヲ五寸乃至六寸トシ播幅ハ五寸トス

畦ノ方向 從來殆ド南北畦ニ限ラレタルノ感アルモ近年ハ畑ノ地形ニ副フ様ニナレリ傾斜地ハ凡テ水平畦ナリシモ傾

斜ノ緩急ニヨリテ斜ノ畦立トスル様改善セリ
播種ノ方式方法及播種後ノ管理

方式 大部分一條廣幅播ナリ

方法 作條ヲ掘リ前記基肥ヲ施用シタル後二寸位ノ覆土ヲナシ撒播シテ適當ノ間隔ヲ保タシメ更ニ覆土(一寸五分

内外)シ切藁、切草類ヲ敷キテ防旱防寒ニ備フ秋播ナレバ麥ト共ニ播種シ麥成熟シタル後麥根五、六寸ノ高サヨリ刈取ル

播種後ノ管理 間作綠肥ノ栽培又ハ蔬菜類ヲ間作シテ除草ヲ兼ネシム寒害、旱害豫防策トシテ敷草ヲ施シ殊ニ幼葉

ノ裏ニ土ノ叩キ上ラヌ様注意ス

第四 幼齡茶樹ノ管理

一 發芽第一年ノ肥培管理

播種ノ際施シタル切藁類ハ乾燥及雜草ヲ防ギ發芽ヲ保護スルモノナレバ發芽ヲ待テ除クコト

一 努メテ間作ヲ行フモ幼根部分去ル五寸以上トシ普通綠肥又ハ葉菜類等栽培セラル

一 敷草ヲ行ヒテ幼根ノ保護ニ努ム

一 除草ハ雨上リヲ選ビ早目ニ行フ但早魃時ハ差控フル方宜シキコト多シ

一 肥料ハ稀薄人糞尿ヲ成ルベク根ヲ離レテ數回分施スルヲ普通トス

一 病蟲害ノ防除ニ努ム